別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	学部の設置							
フリガナ 設置者	ｺｳﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ｼｭﾄﾀﾞｲｶﾞｸﾄｳｷｮｳ 公立大学法人　首都大学東京							
フリガナ 大学の名称	ｼｭﾄﾀﾞｲｶﾞｸﾄｳｷｮｳ 首都大学東京　(Tokyo Metropolitan University)							
大学本部の位置	東京都八王子市南大沢一丁目１番							
大学の目的	首都大学東京は、東京都における学術の中心として、東京圏の教育機関及び研究機関等と連携して、大都市における人間社会の理想像を追求することを使命とし、広い分野の知識と深い専門の学術を教授研究するとともに、大都市の現実に立脚した教育研究の成果をあげ、豊かな人間性と独創性を備えた人材を育成し、もって都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	人間・社会・文化への広い関心をもとに、人文社会諸学の原理や研究方法を修得することによって、学んだ成果を自らの言葉で表現し、発信することのできる学生を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人文社会学部 [Faculty of Humanities and Social Sciences]	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	人間社会学科 [Department of Human and Social Sciences]	4	110	-	440	学士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	平成30年４月 第１年次	東京都八王子市 南大沢一丁目１番
	人文学科 [Department of Humanities]	4	90	-	360	学士(文学)(史学)	平成30年４月 第１年次	
	計		200	-	800			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	＜学部の設置＞ 法学部 法学科　(200)　(平成29年4月届出) 経済経営学部 経済経営学科　(200)　(平成29年4月届出)							
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	理学部 数理科学科　(45)　(平成29年4月届出) 物理学科　(47)　(平成29年4月届出) 化学科　(48)　(平成29年4月届出) 生命科学科　(60)　(平成29年4月届出) ＜学科の設置＞ 都市環境学部 地理環境学科　(30)　(平成30年4月) 都市基盤環境学科　(50)　(平成30年4月) 建築学科　(50)　(平成30年4月) 環境応用化学科　(60)　(平成30年4月) 観光科学科　(30)　(平成30年4月) 都市政策科学科　(35)　(平成30年4月) システムデザイン学部 情報科学科　(50)　(平成30年4月) 電子情報システム工学科　(85)　(平成30年4月) (3年次編入4)　(平成30年4月) 機械システム工学科　(90)　(平成30年4月) (3年次編入4)　(平成32年4月) 航空宇宙システム工学科　(45)　(平成30年4月) インダストリアルアート学科　(50)　(平成30年4月) ＜学科の定員変更＞ 健康福祉学部理学療法学科〔定員減〕　(△5)　(平成30年4月) ＜学部及び学科の廃止＞ 都市教養学部都市教養学科（廃止）　(△900) (3年次編入学定員)　(△8) ※平成30年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成32年4月学生募集停止) 都市環境学部都市環境学科（廃止）　(△200) ※平成30年4月学生募集停止 システムデザイン学部システムデザイン学科（廃止）　(△270) ※平成30年4月学生募集停止							

同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	＜研究科の設置＞ 法学政治学研究科 　法学政治学専攻博士前期課程　(6)　(平成29年4月届出) 　法学政治学専攻博士後期課程　(4)　(平成29年4月届出) 　法曹養成専攻（専門職学位課程）　(52)　(平成29年4月届出) 経営学研究科 　経営学専攻博士前期課程　(50)　(平成29年4月届出) 　経営学専攻博士後期課程　(5)　(平成29年4月届出) 理学研究科 　数理科学専攻博士前期課程　(25)　(平成29年4月届出) 　数理科学専攻博士後期課程　(8)　(平成29年4月届出) 　物理学専攻博士前期課程　(35)　(平成29年4月届出) 　物理学専攻博士後期課程　(10)　(平成29年4月届出) 　化学専攻博士前期課程　(35)　(平成29年4月届出) 　化学専攻博士後期課程　(9)　(平成29年4月届出) 　生命科学専攻博士前期課程　(40)　(平成29年4月届出) 　生命科学専攻博士後期課程　(16)　(平成29年4月届出) ＜研究科の専攻の定員変更＞ 都市環境科学研究科 　都市環境科学専攻博士前期課程〔定員増〕　(2)　(平成30年4月) 　都市環境科学専攻博士後期課程〔定員減〕　(△2)　(平成30年4月) システムデザイン研究科 　システムデザイン専攻博士前期課程〔定員増〕　(43)　(平成30年4月) 　システムデザイン専攻博士後期課程〔定員増〕　(2)　(平成30年4月) 人間健康科学研究科 　人間健康科学専攻博士前期課程〔定員増〕　(20)　(平成30年4月) 　人間健康科学専攻博士後期課程〔定員増〕　(3)　(平成30年4月) ＜研究科の廃止＞ 社会科学研究科（廃止） 　法学政治学専攻博士前期課程　(△6) 　法学政治学専攻博士後期課程　(△4) 　法曹養成専攻（専門職学位課程）　(△52) 　経営学専攻博士前期課程　(△40) 　経営学専攻博士後期課程　(△5) ※平成30年4月学生募集停止 理工学研究科（廃止） 　数理情報科学専攻博士前期課程　(△25) 　数理情報科学専攻博士後期課程　(△8) 　物理学専攻博士前期課程　(△33) 　物理学専攻博士後期課程　(△9) 　分子物質化学専攻博士前期課程　(△33) 　分子物質化学専攻博士後期課程　(△9) 　生命科学専攻博士前期課程　(△40) 　生命科学専攻博士後期課程　(△16) 　電気電子工学専攻博士前期課程　(△32) 　電気電子工学専攻博士後期課程　(△6) 　機械工学専攻博士前期課程　(△32) 　機械工学専攻博士後期課程　(△6) ※平成30年4月学生募集停止	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	人文社会学部 人間社会学科	310科目	127科目	16科目	453科目	130単位
	人文学部 人文学科	258科目	150科目	15科目	423科目	130単位

教員組織の概要

学部等の名称			専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	人文社会学部	人間社会学科	22人 (28)	21人 (22)	0人 (0)	8人 (8)	51人 (58)	0人 (0)	518人 (518)
		人文学科	22人 (28)	23人 (24)	0人 (0)	2人 (2)	47人 (54)	0人 (0)	532人 (532)
	法学部	法学科	14人 (14)	17人 (17)	0人 (0)	0人 (0)	31人 (31)	0人 (0)	493人 (493)
	経済経営学部	経済経営学科	20人 (21)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	33人 (34)	0人 (0)	464人 (464)
	理学部	数理科学科	9人 (11)	11人 (11)	0人 (0)	2人 (2)	22人 (24)	1人 (1)	393人 (393)
		物理学科	7人 (7)	11人 (11)	0人 (0)	11人 (11)	29人 (29)	0人 (0)	399人 (399)
		化学科	8人 (10)	10人 (10)	0人 (0)	11人 (11)	29人 (31)	0人 (0)	385人 (385)
		生命科学科	6人 (7)	12人 (12)	0人 (0)	9人 (9)	27人 (28)	0人 (0)	386人 (386)
	都市環境学部	地理環境学科	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	5人 (5)	15人 (15)	0人 (0)	445人 (445)
		都市基盤環境学科	7人 (7)	7人 (7)	0人 (0)	6人 (6)	20人 (20)	0人 (0)	431人 (431)
		建築学科	7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	7人 (7)	20人 (20)	0人 (0)	441人 (441)
		環境応用化学科	8人 (8)	9人 (9)	0人 (0)	10人 (10)	27人 (27)	0人 (0)	419人 (419)
		観光科学科	4人 (4)	6人 (6)	0人 (0)	4人 (4)	14人 (14)	0人 (0)	430人 (430)
		都市政策科学科	8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	428人 (428)
	ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学部	情報科学科	7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	4人 (4)	16人 (16)	0人 (0)	447人 (447)
		電子情報システム工学科	15人 (15)	12人 (12)	0人 (0)	10人 (10)	37人 (37)	0人 (0)	447人 (447)
		機械システム工学科	12人 (12)	12人 (12)	0人 (0)	12人 (12)	36人 (36)	0人 (0)	460人 (460)
		航空宇宙システム工学科	7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	4人 (4)	16人 (16)	0人 (0)	453人 (453)
		インダストリアルアート学科	6人 (6)	6人 (6)	0人 (0)	5人 (5)	17人 (17)	0人 (0)	459人 (459)

教員組織の概要		計	195人 (213)	194人 (196)	0人 (0)	110人 (110)	499人 (519)	1人 (1)	- (-)	
	既設分	健康福祉学部　看護学科	8人 (9)	13人 (13)	0人 (0)	6人 (10)	27人 (32)	1人 (1)	461人 (461)	
		理学療法学科	6人 (7)	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	12人 (13)	0人 (0)	462人 (462)	
		作業療法学科	6人 (6)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	459人 (459)	
		放射線学科	6人 (6)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	466人 (466)	
		大学教育センター	7人 (7)	7人 (7)	0人 (0)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	0人 (0)	
		学生サポートセンター	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	
		学術情報基盤センター	0人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	3人 (3)	4人 (6)	0人 (0)	0人 (0)	
		国際センター	1人 (1)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	
		オープンユニバーシティ	0人 (2)	2人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	
		計	36人 (42)	43人 (44)	0人 (0)	16人 (20)	95人 (106)	1人 (1)	- (-)	
	合計		231人 (255)	237人 (240)	0人 (0)	126人 (130)	594人 (625)	2人 (2)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	262 (262)	136 (136)	398 (398)	
	技術職員	7 (7)	24 (24)	31 (31)	
	図書館専門職員	10 (10)	23 (23)	33 (33)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	279 (279)	183 (183)	462 (462)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	368,807㎡	- ㎡	- ㎡	368,807㎡	
	運動場用地	51,239㎡	- ㎡	- ㎡	51,239㎡	
	小計	420,046㎡	- ㎡	- ㎡	420,046㎡	
	その他	7,995㎡	- ㎡	- ㎡	7,995㎡	
	合計	428,041㎡	- ㎡	- ㎡	428,041㎡	南大沢キャンパス
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
		135,798㎡ (　135,798㎡)	- ㎡ (　- ㎡)	- ㎡ (　- ㎡)	135,798㎡ (　135,798㎡)	南大沢キャンパス

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	151室	70室	342室	12室 (補助職員　-人)	4室 (補助職員　-人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人文社会学部	130室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人文社会学部	2,035,519〔697,721〕 (2,035,519〔697,721〕)	28,899〔8,901〕 (28,899〔8,901〕)	11,859〔10,722〕 (11,859〔10,722〕)	22,460 (22,460)	78,729 (78,729)	541,736 571,736	学部単位での特定不能なため大学全体の数
	計	2,035,519〔697,721〕 (2,035,519〔697,721〕)	28,899〔8,901〕 (28,899〔8,901〕)	11,859〔10,722〕 (11,859〔10,722〕)	22,460 (22,460)	78,729 (78,729)	541,736 541,736	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	20,269㎡	1,144席	1,316,667冊	大学全体
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	11,056㎡	野球場、球戯場、和・洋弓場	ﾃﾆｽｺｰﾄ６面、ｺﾞﾙﾌ練習場等	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		1,193千円	1,193千円	1,193千円	1,193千円	― 千円	― 千円	
	共同研究費等		875,721千円	875,721千円	875,721千円	875,721千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費	291,075千円	291,075千円	291,075千円	291,075千円	291,075千円	― 千円	― 千円	電子ジャーナル、データベース等購入費を含む
	設備購入費	531,258千円	531,258千円	531,258千円	531,258千円	531,258千円	― 千円	― 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	661.8千円	502.8千円	502.8千円	502.8千円	― 千円	― 千円	※上段が都内の学生、下段が都外からの学生
	802.8千円	502.8千円	502.8千円	502.8千円	― 千円	― 千円	

学生納付金以外の維持方法の概要	東京都からの運営費交付金等

既設大学等の状況

大学の名称	首都大学東京							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
都市教養学部都市教養学科						1.04		東京都八王子市南大沢一丁目１番
人文・社会系	4	200	－	800	学士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)(文学)(史学)	1.05	平成17年度	
法学系	4	200	－	800	学士(法学)	1.03	平成17年度	
経営学系	4	240	－	960	学士(経営学)(経済学)	1.03	平成17年度	
理工学系								
数理科学コース	4	40	－	160	学士(理学)	1.08	平成17年度	
物理学コース	4	45	－	180	学士(理学)	1.05	平成17年度	
化学コース	4	45	－	180	学士(理学)	1.04	平成17年度	
生命科学コース	4	50	－	200	学士(理学)	1.06	平成17年度	
電気電子工学コース	4	40	4	168	学士(工学)	1.10	平成17年度	
機械工学コース	4	40	4	168	学士(工学)	1.06	平成17年度	
都市環境学部都市環境学科						1.06		
地理環境コース	4	30	－	120	学士(理学)	1.06	平成17年度	
都市基盤環境コース	4	50	－	200	学士(工学)	1.11	平成17年度	
建築都市コース	4	60	－	240	学士(工学)	1.05	平成17年度	
分子応用化学コース	4	60	－	240	学士(工学)	1.05	平成17年度	
ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学部ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学科						1.03		東京都日野市旭が丘六丁目６番
知能機械ｼｽﾃﾑｺｰｽ	4	60	－	240	学士(工学)	1.02	平成17年度	
情報通信ｼｽﾃﾑｺｰｽ	4	50	－	200	学士(工学)	1.04	平成17年度	
航空宇宙ｼｽﾃﾑ工学ｺｰｽ	4	50	－	200	学士(工学)	1.02	平成17年度	
経営ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ	4	50	－	200	学士(工学)	1.04	平成17年度	
ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙｱｰﾄｺｰｽ	4	60	－	240	学士(芸術工学)	1.02	平成18年度	
健康福祉学部						1.01		東京都荒川区東尾久七丁目２番10号
看護学科	4	80	－	320	学士(看護学)	1.00	平成17年度	
理学療法学科	4	40	－	160	学士(理学療法学)	1.01	平成17年度	
作業療法学科	4	40	－	160	学士(作業療法学)	1.03	平成17年度	
放射線学科	4	40	－	160	学士(放射線学)	1.03	平成17年度	
人文科学研究科								
社会行動学専攻(M)	2	14	－	28	修士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)	1.32	平成18年度	
社会行動学専攻(D)	3	10	－	30	博士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)	1.03	平成18年度	
人間科学専攻(M)	2	17	－	34	修士(心理学)(臨床心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	1.35	平成18年度	
人間科学専攻(D)	3	6	－	18	博士(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	1.22	平成18年度	

既	文化基礎論専攻(M)	2	13	－	26	修士(文学)(史学)(考古学)	0.53	平成18年度		
	文化基礎論専攻(D)	3	5	－	15	博士(文学)(史学)(考古学)	0.46	平成18年度		
	文化関係論専攻(M)	2	5	－	10	修士(文学)	1.30	平成18年度		
	文化関係論専攻(D)	3	4	－	12	博士(文学)	0.58	平成18年度		
	社会科学研究科									
	法学政治学専攻(M)	2	6	－	12	修士(法学)(政治学)	1.00	平成19年度		
	法学政治学専攻(D)	3	4	－	12	博士(法学)(政治学)	0.58	平成19年度		
設	経営学専攻(M)	2	40	－	80	修士(経営学)(経済学)(ファイナンス)	0.98	平成17年度		
	経営学専攻(D)	3	5	－	15	博士(経営学)(経済学)	0.93	平成17年度		
	法曹養成専攻	3	52	－	156	法務博士(専門職)	0.72	平成17年度	東京都中央区晴海一丁目２番２号	
	理工学研究科									
	数理情報科学専攻(M)	2	25	－	50	修士(理学)	1.18	平成18年度	東京都八王子市南大沢一丁目１番	
大	数理情報科学専攻(D)	3	8	－	24	博士(理学)	0.33	平成18年度		
	物理学専攻(M)	2	33	－	66	修士(理学)	1.03	平成18年度		
	物理学専攻(D)	3	9	－	27	博士(理学)	1.00	平成18年度		
	分子物質化学専攻(M)	2	33	－	66	修士(理学)	1.10	平成18年度		
	分子物質化学専攻(D)	3	9	－	27	博士(理学)	0.66	平成18年度		
	生命科学専攻(M)	2	40	－	80	修士(理学)	1.10	平成18年度		
学	生命科学専攻(D)	3	16	－	48	博士(理学)	0.60	平成18年度		
	電気電子工学専攻(M)	2	32	－	64	修士(工学)	1.07	平成18年度		
	電気電子工学専攻(D)	3	6	－	18	博士(工学)	0.44	平成18年度		
	機械工学専攻(M)	2	32	－	64	修士(工学)	1.15	平成18年度		
	機械工学専攻(D)	3	6	－	18	博士(工学)	0.27	平成18年度		
	都市環境科学研究科 都市環境科学専攻									
等	地理環境科学域(M)	2	15	－	30	修士(理学)(地理学)	0.96	平成21年度		
	地理環境科学域(D)	3	5	－	15	博士(理学)(地理学)	0.46	平成21年度		
	都市基盤環境学域(M)	2	35	－	70	修士(工学)	1.07	平成21年度		
	都市基盤環境学域(D)	3	4	－	12	博士(工学)	0.58	平成21年度		
	建築学域(M)	2	38	－	76	修士(工学)(建築学)	0.76	平成21年度		
の	建築学域(D)	3	4	－	12	博士(工学)(建築学)	0.20	平成21年度		
	都市システム科学域(M)	2	15	－	30	修士(都市科学)(理学)(工学)	1.12	平成21年度		
	都市システム科学域(D)	3	5	－	15	博士(都市科学)(理学)(工学)	0.20	平成21年度		
	分子応用化学域(M)	2	50	－	100	修士(工学)	1.05	平成21年度		
	分子応用化学域(D)	3	8	－	24	博士(工学)	0.53	平成21年度		
状	観光科学域(M)	2	10	－	20	修士(観光科学)	0.94	平成21年度		
	観光科学域(D)	3	5	－	15	博士(観光科学)	1.58	平成21年度		
	ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科 ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻									
	知能機械ｼｽﾃﾑ学域(M)	2	42	－	84	修士(工学)	1.22	平成18年度		
	知能機械ｼｽﾃﾑ学域(D)	3	5	－	15	博士(工学)	0.53	平成18年度		
	情報通信ｼｽﾃﾑ学域(M)	2	35	－	70	修士(工学)	1.24	平成18年度		
況	情報通信ｼｽﾃﾑ学域(D)	3	5	－	15	博士(工学)	1.20	平成18年度		
	航空宇宙ｼｽﾃﾑ工学域(M)	2	35	－	70	修士(工学)	1.07	平成18年度		
	航空宇宙ｼｽﾃﾑ工学域(D)	3	5	－	15	博士(工学)	0.40	平成18年度		

既設大学等の状況	経営ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学域(M)	2	35	－	70	修士(工学)	0.91	平成18年度		
	経営ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学域(D)	3	5	－	15	博士(工学)	0.26	平成18年度		
	ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙｱｰﾄ学域(M)	2	25	－	50	修士(芸術工学)(学術)	1.34	平成18年度		
	ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙｱｰﾄ学域(D)	3	4	－	12	博士(芸術工学)(学術)	0.41	平成18年度		
	人間健康科学研究科									
	人間健康科学専攻(M)	2	50	－	100	修士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	1.02	平成18年度		
	人間健康科学専攻(D)	3	22	－	66	博士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	1.04	平成18年度		
	大学の名称	産業技術大学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	産業技術研究科								東京都品川区東大井一丁目10番40号	
	情報アーキテクチャ専攻	2	50	－	100	情報システム学修士(専門職)	1.06	平成18年度		
	創造技術専攻	2	50	－	100	創造技術修士(専門職)	0.80	平成20年度		
	大学の名称	東京都立産業技術高等専門学校								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	ものづくり工学科	5	320		1600	準学士	1.01	平成18年度	東京都品川区東大井一丁目10番40号 東京都荒川区南千住8丁目17番1号	品川キャンパス 荒川キャンパス
附属施設の概要	名　　称：小笠原研究施設 目　　的：小笠原諸島に関する研究 所 在 地：東京都小笠原村父島字宮之浜道一丁目３番 設置年月：平成４年４月 規 模 等：土地771㎡、　建物547㎡									

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目群		基礎ゼミナール	1前	2				○		1	6				兼68	一部オムニバス方式
		小計(1科目)		2	0	0		－		1	6	0	0	0	兼68	
	情報科目	情報リテラシー実践Ⅰ	1前	2				○							兼35	一部オムニバス方式、共同
		情報リテラシー実践ⅠA	1前	2				○							兼5	
		情報リテラシー実践ⅡA	1･2後		2			○							兼3	
		情報リテラシー実践ⅡB	1･2後		2			○							兼2	
		情報リテラシー実践ⅡC	1･2後		2			○							兼1	
		小計(5科目)		4	6	0		－		0	0	0	0	0	兼35	
	言語科目	実践英語Ⅰa	1前	1				○		1	2				兼47	
		実践英語Ⅰb	1後	1				○		1	2				兼47	
		実践英語Ⅰc	1前	1				○		1	2				兼9	
		実践英語Ⅰd	1後	1				○		1	2				兼9	
		実践英語Ⅱa	2前	1				○		1	2				兼32	
		実践英語Ⅱb	2後	1				○		1	2				兼32	
		実践英語Ⅱc	2前	1				○		1	2				兼10	
		実践英語Ⅱd	2後	1				○		1	2				兼10	
		ドイツ語Ⅰ	1前･後		4			○			1				兼20	
		ドイツ語Ⅱ	2前･後		2			○							兼4	
		フランス語Ⅰ	1前･後		4			○							兼16	
		フランス語Ⅱ	2前･後		2			○							兼3	
		中国語Ⅰ	1通		4			○							兼13	
		中国語Ⅱ	2前･後		2			○							兼4	
		朝鮮語Ⅰ	1通		4			○							兼3	
		朝鮮語Ⅱ	2前･後		2			○							兼3	
		日本語Ⅰ	1通		4			○			1				兼2	
		日本語Ⅱ	2前･後		2			○			1				兼1	
		ロシア語Ⅰ	1･2通		4		○								兼1	
		ロシア語Ⅱ	1･2前･後		2		○								兼1	
		スペイン語Ⅰ	1･2前･後		4			○							兼1	
		スペイン語Ⅱ	2前･後		2			○							兼1	
		イタリア語Ⅰ	1前･後		4			○							兼1	
		イタリア語Ⅱ	2前･後		2			○							兼1	
		アラビア語Ⅰ	1･2通		4		○								兼1	
		アラビア語Ⅱ	1･2前･後		2		○								兼1	
		ギリシャ語Ⅰ	1･2通		4			○							兼1	
		ラテン語Ⅰ	1･2通		4			○							兼1	
		小計(28科目)		8	62	0		－		1	5	0	0	0	兼114	
	理系共通基礎科目	微分積分Ⅰ	1前		2		○								兼8	
		線形代数Ⅰ	1前		2		○								兼8	
		微分積分Ⅱ	1後		2		○								兼8	
		線形代数Ⅱ	1後		2		○								兼8	
		微分積分Ⅲ	2前		2		○								兼1	
		線形代数Ⅲ	2前		2		○								兼1	
		解析入門Ⅰ	2前		2		○								兼5	
		解析入門Ⅱ	2後		2		○								兼4	
		確率統計	2後		2		○								兼3	
		離散数学入門	2前		2		○								兼3	
		応用数理概論Ⅰ	2後		2		○								兼2	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目群	理系共通基礎科目	基礎微分積分	1･2後		2		○								兼1	
		基礎線形代数	1･2前		2		○								兼1	
		教養基礎物理Ⅰ	1前		2		○								兼3	
		教養基礎物理Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		初等物理Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		初等物理Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		専門基礎物理Ⅰ	2前		2		○								兼2	
		専門基礎物理Ⅱ	2後		2		○								兼2	
		物理学概説Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		物理学概説Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		物理通論Ⅰ	1前		2		○								兼4	
		物理通論Ⅱ	1後		2		○								兼4	
		物理学実験第一	1･2前･後		2				○						兼8	
		化学概説Ⅰ	1前		2		○								兼4	
		化学概説Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		一般化学Ⅰ	1前		2		○								兼2	
		一般化学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		化学実験	1後		2				○						兼29	オムニバス方式
		一般生物学Ⅰ	1･2前		2		○								兼4	オムニバス方式
		一般生物学Ⅱ	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		生物学実験入門１	1･2休		1				○						兼7	オムニバス方式、集中
		生物学実験入門２	1･2休		1				○						兼7	オムニバス方式、集中
		生物学概説ⅠA	1･2前		2		○								兼4	オムニバス方式
		生物学概説ⅡA	1･2後		2		○								兼3	オムニバス方式
		小計(35科目)		0	68	0		－		0	0	0	0	0	兼82	
	保健体育科目	身体運動学	1･2前･後		2		○								兼2	
		身体運動演習	1･2前･後		2			○							兼8	
		スポーツ実習	1･2前･後		1				○						兼8	
		小計(3科目)		0	5	0		－		0	0	0	0	0	兼16	
	キャリア教育科目	キャリア形成	1･2前		2		○								兼1	
		キャリア形成演習	1･2後		2			○							兼1	
		学びのデザイン：理論と実践	1･2後		2		○								兼1	
		現場体験型インターンシップ	1･2前		2				○						兼1	※講　義
		国際交流概論	1前		2		○								兼3	オムニバス方式
		小計(5科目)		0	10	0		－		0	0	0	0	0	兼10	
教養科目群	都市・社会・環境	アジア・アフリカ社会論	1･2前		2		○			1	3		1			オムニバス方式
		社会と福祉	1･2後		2		○			1						隔年
		生活と福祉	1･2後		2		○			1						隔年
		情報社会と法	1･2後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1･2前･後		2		○								兼2	
		都庁の仕組みと仕事	1･2前		2		○								兼1	
		官庁の仕組みと仕事	1･2後		2		○								兼1	
		生態と環境	1･2前		2		○								兼1	
		動物の生態と多様性	1･2後		2		○								兼1	
		自然と社会と文化	1･2休		2		○								兼1	集中
		都市政策科学概論	1･2前		2		○								兼1	
		地域環境の人文地理	1･2後		2		○								兼1	
		都市空間の人文地理	1･2前		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目群	都市・社会・環境	都市の技術	1前		2		○								兼9	オムニバス方式
		エネルギー化学入門	1後		2		○								兼4	オムニバス方式
		環境調和化学入門	1前		2		○								兼2	オムニバス方式、一部共同
		観光科学概論	1前		2		○								兼6	オムニバス方式
		社会と経営	1･2前		2		○								兼1	
		特定社会活動	1･2前･後		6				○						兼1	
		Tourism theories and practice	1後		2		○								兼6	オムニバス方式
		多摩の里山学	1通		2		○								兼1	オムニバス方式、一部共同 ※実験・実習
		小計(21科目)		0	46	0		－		3	3	0	1	0	兼33	
	文化・芸術・歴史	社会意識と社会構造	1･2前		2		○			1						
		心の哲学	1･2前		2		○								兼1	
		西洋古典学Ａ	1･2後		2		○								兼1	隔年
		西洋古典学Ｂ	1･2前		2		○								兼1	隔年
		都市の歴史	1･2後		2		○								兼4	隔年
		日本の歴史と社会・文化	1･2前		2		○								兼1	
		西洋の歴史と社会・文化	1･2前		2		○								兼1	
		アジアの歴史と社会・文化	1･2前		2		○								兼1	
		文明と歴史	1･2後		2		○								兼1	隔年
		歴史学入門	1･2前		2		○								兼3	オムニバス方式
		考古学入門	1･2前		2		○								兼1	
		日本語と日本文学Ａ	1前		2		○								兼1	隔年
		日本語と日本文学Ｂ	1後		2		○								兼3	隔年
		アジアの言語と文化Ａ	1前		2		○								兼3	オムニバス方式
		アジアの言語と文化Ｂ	2後		2		○								兼1	
		英語圏の文化	1前･後		2		○								兼1	
		ドイツ語圏の文化	1･2後		2		○								兼1	
		フランス語圏の文化	1後		2		○								兼1	
		文学概論	1後		2		○								兼5	オムニバス方式
		表象文化論基礎	1前･後		2		○								兼1	
		植物の多様性と進化	1･2前		2		○								兼1	
		進化生物学	1･2後		2		○								兼1	
		科学史B	1･2後		2		○								兼1	
		日本語と社会と文化	1前		2			○		1						
		Japanese Language and Society	1前		2			○		1						
		The Japanese Language	1後		2			○		1						
		Global Mindset	1前		2			○							兼1	
		Intercultural Communication and Interaction	1前･後		2			○							兼1	
		小計(28科目)		0	56	0		－		3	0	0	0	0	兼30	
	生命・人間・健康	生活の心理学	1･2前		2		○								兼1	
		心の科学	1･2前･後		2		○			1						
		ことばの科学	1･2前		2		○			2	4					オムニバス方式
		生命を支える化学物質	1･2後		2		○								兼1	
		現代社会・化学の役割	1･2前		2		○								兼1	
		細胞の世界	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		ゲノム科学	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		神経生物学	1･2前		2		○								兼1	
		人間生物学	1･2後		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目群	生命・人間・健康	先端生命化学入門	1後		2		○								兼1	
		スポーツ・健康と脳科学	1･2後		2		○								兼1	
		エクササイズ科学	1･2前		2		○								兼1	
		健康スポーツ科学	1･2後		2		○								兼1	
		健康の栄養学	1･2後		2		○								兼1	
		行動生理学	1･2前		2		○								兼1	
		生活習慣と栄養	1･2前		2		○								兼1	
		認知と行動	1･2後		2		○								兼1	
		生体機能調節学	1･2後		2		○								兼1	
		小計(18科目)		0	36	0		－		3	4	0	0	0	兼18	
	科学・技術・産業	科学哲学	1･2前		2		○								兼1	
		地球環境と人類の歴史	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		日本の産業と企業	1後		2		○								兼1	
		現代物理学の考え方	1前		2		○								兼2	オムニバス方式
		素粒子から宇宙	1後		2		○								兼1	
		科学史Ａ	1前		2		○								兼1	
		宇宙地球物質の化学	1･2前		2		○								兼1	
		現代分子科学	1･2後		2		○								兼1	
		バイオテクノロジー	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		人工物のテクノロジー	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		大気と水の循環を学ぶ	1･2後		2		○								兼1	
		大地の成り立ちを探る	1･2前		2		○								兼1	
		自然災害と社会	1･2後		2		○								兼4	オムニバス方式
		ツーリズム産業論	1後		2		○								兼2	オムニバス方式
		生体と機械	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		デザインと生活	1･2前		2		○								兼3	オムニバス方式
		小計(16科目)		0	32	0		－		0	0	0	0	0	兼26	
		総合ゼミナール	3･4後		2			○							兼3	
		小計(1科目)		0	2	0		－		0	0	0	0	0	兼6	
基盤科目群	人文科学領域	社会学Ａ	1･2前		2		○			1					兼1	
		社会学Ｂ	1･2後		2		○			1					兼1	
		文化人類学Ａ	1･2前		2		○			1						
		文化人類学Ｂ	1･2後		2		○				1					
		社会福祉学	1･2前		2		○			1						
		心理学の基礎	1･2後		2		○			1	2					オムニバス方式、一部共同
		心理学方法論	1･2後		2		○				1					
		教育学	1前		2		○				2					
		哲学Ａ	1･2前		2		○								兼1	
		哲学Ｂ	1･2後		2		○								兼1	
		倫理学Ａ	1･2前		2		○								兼1	
		倫理学Ｂ	1･2後		2		○								兼1	
		論理学Ａ	1･2前		2		○								兼1	
		論理学Ｂ	1･2後		2		○								兼1	
		言語・思考・行為	1後		2		○				1				兼3	オムニバス方式
		人間・文化・社会	1後		2		○			4	3				兼8	オムニバス方式、共同
		小計(16科目)		0	32	0		－		8	8	0	0	0	兼14	
	社会科学領域	民事法入門	1･2後		2		○								兼1	
		刑事法入門	1･2前		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基盤科目群	社会科学領域	法学入門	1･2前		2		○								兼1	
		政治理論入門	1･2後		2		○								兼1	
		現代政治入門	1･2前		2		○								兼1	
		入門マクロ経済学	1前		2		○								兼1	
		入門ミクロ経済学	1前		2		○								兼1	
		経済史・思想入門	1後		2		○								兼3	オムニバス方式
		経営学入門	1前		2		○								兼1	
		会計学入門	1前		2		○								兼1	
		統計学Ⅰ	1前		2		○								兼3	
		統計学Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		デザインマネージメント概論	1･2前		2		○								兼1	
		小計(13科目)		0	26	0		－		0	0	0	0	0	兼17	
	自然科学領域	数学の歴史	1･2後		2		○								兼1	
		計算の理論	1･2前		2		○								兼1	
		現代的教養のための確率統計	1･2後		2		○								兼1	
		建築文化論	1後		2		○								兼4	オムニバス方式
		環境と建築	1前		2		○								兼2	オムニバス方式、一部共同
		情報科学入門	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		エアフレームデザイン概論	1･2前		2		○								兼1	
		小計(7科目)		0	14	0		－		0	0	0	0	0	兼12	
	健康科学領域	人間発達学	1後		2		○								兼2	オムニバス方式
		医療統計学	1前		2		○								兼1	
		移動の人間工学	1後		2		○								兼1	
		医療と情報	1後		2		○								兼1	
		保健医療概論	1前		2		○								兼7	オムニバス方式
		リハビリテーション概論	1前		2		○								兼2	オムニバス方式
		小計(6科目)		0	12	0		－		0	0	0	0	0	兼13	
専門科目群	社会学教室	都市社会学Ⅰ	2･3前		2		○				1					
		都市社会学Ⅱ	2･3後		2		○				1					
		社会調査法Ⅰ	2前		2		○			1						
		社会調査法Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		社会学原論Ⅰ	2前		2		○			1						
		社会学原論Ⅱ	2後		2		○			1						
		社会学基礎演習	2通		4			○		2						オムニバス方式
		社会学演習	2･3･4通		4			○		3	1					
		社会調査法演習	2･3･4通		4			○		2						
		都市社会学演習	2･3･4通		4			○		1	1					
		社会学特殊講義	2･3･4前･後		2		○			1	1					
		社会調査法特殊講義	2･3･4前･後		2		○			2					兼1	
		都市社会学特殊講義	2･3･4前･後		2		○				1					
		社会学特論演習	4通		4			○		6	2					
		卒業論文	4通		10			○		6	2					
		小計(15科目)		0	48	0		－		6	2	0	0	0	兼2	
	社会人類学教室	社会人類学基礎演習	2通		4			○		1					兼1	
		社会人類学Ａ	2前		2		○				1					
		社会人類学Ｂ	2前		2		○				1					
		民俗学特殊講義	2･ 3･ 4後		2		○				1					
		地域研究特殊講義	2･ 3･ 4前		2		○				2					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	社会人類学教室	民族誌特殊講義	2・3・4前		2		○				1					
		文化人類学特殊講義	2・3・4前		2		○				1				兼1	
		社会人類学特殊講義	2・3・4後		2		○			1					兼1	
		文化人類学演習Ⅰ	3・4通		4			○		1	3					
		文化人類学演習Ⅱ	3・4通		4			○		1	3					
		社会人類学演習Ⅰ	3・4通		4			○		1	3					
		社会人類学演習Ⅱ	3・4通		4			○		1	3					
		民俗学演習	3・4通		4			○			1					
		地域研究演習	3・4通		4			○			2					
		民族誌研究演習	3・4通		4			○			1					
		社会人類学特論演習	4通		4			○		1	3		1			
		卒業論文	4通		10			○		1	3		1			
		小計(17科目)		0	60	0		－		1	3	0	1	0	兼2	
	社会福祉学教室	社会福祉援助技術論Ⅰ	2前		2		○				1					
		社会福祉援助技術論Ⅱ	2後		2		○				1					
		社会福祉学原論Ⅰ	3前		2		○			1						
		社会福祉学原論Ⅱ	3後		2		○			1						
		社会保障論Ⅰ	2･3前		2		○			1						
		社会保障論Ⅱ	2･3後		2		○			1						
		児童家族福祉論Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		児童家族福祉論Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		高齢者福祉論Ⅰ	2･3前		2		○			1						
		高齢者福祉論Ⅱ	2･3後		2		○			1						
		障害福祉論Ⅰ	2･3前		2		○			1						
		障害福祉論Ⅱ	2･3後		2		○			1						
		公的扶助論Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		公的扶助論Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		地域福祉論	3前		2		○				1					
		相談援助の理論と方法Ⅰ	3前		2		○				1					
		相談援助の理論と方法Ⅱ	3後		2		○				1					
		社会福祉法制Ⅰ	2･3前		2		○			1						
		社会福祉法制Ⅱ	2･3後		2		○			1						
		社会統計学Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		社会統計学Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		社会福祉学基礎演習Ⅰ	2前		2			○		3						
		社会福祉学基礎演習Ⅱ	2後		2			○		3						
		社会福祉援助技術演習Ⅰ	2前		2			○		2	2					オムニバス方式
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	2後		2			○		2	2					オムニバス方式
		社会福祉援助技術演習Ⅲ	3前		2			○							兼1	
		社会福祉援助技術演習Ⅳ	3後		2			○							兼1	
		社会福祉援助技術演習Ⅴ	3後		2			○		2	2					オムニバス方式
		相談援助実習	3通		4				○	5	2		1			
		相談援助実習指導Ⅰ	3前		2			○		5	2		1			オムニバス方式
		相談援助実習指導Ⅱ	3前		2			○		2	2					オムニバス方式
		相談援助実習指導Ⅲ	3後		2			○		5	2		1			オムニバス方式
		社会福祉学卒論演習Ⅰ	4前		2			○		5	2		1			
		社会福祉学卒論演習Ⅱ	4後		2			○		5	2		1			
		社会福祉学特論演習	3･4前･後		2			○		1	1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	社会福祉学教室	社会福祉行政論	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会福祉組織論	2後		2		○								兼1	
		卒業論文	4通		10			○		5	2		1			
		小計(38科目)		0	86	0		－		5	2	0	1	0	兼5	
	心理学教室	心理学概論Ⅰ	2前		2			○		1	1					オムニバス方式、一部共同
		心理学概論Ⅱ	2後		2			○		1	2					オムニバス方式、一部共同
		心理統計学Ⅰ	2前		2		○			1						
		心理統計学Ⅱ	2後		2		○			1						
		心理学方法論演習Ⅰ	2後		4			○		3	3		2			オムニバス方式、一部共同
		心理学方法論演習Ⅱ	3前･後		2			○		3	3		2			共同
		心理学方法論演習Ⅲ	4前･後		2			○		3	3		2			共同
		実験心理学	2･3前		2		○				1					
		発達心理学	2･3前		2		○				1					
		臨床心理学	2･3前		2		○								兼1	
		医療心理学	2･3前		2		○			1						
		社会心理学	2･3前		2		○			1	1					
		認知心理学	2･3前		2		○								兼1	
		実験心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○				1					
		発達心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○				1					隔年
		臨床心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○								兼1	隔年
		計量心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○			1						
		医療心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○			1						隔年
		社会心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○			1						
		認知心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○								兼2	
		応用心理学特殊講義	2･3･4前･後		2		○								兼1	隔年
		実験心理学演習	3･4前･後		2			○			1					
		発達心理学演習	3･4前･後		2			○			1					隔年
		臨床心理学演習	3･4前･後		2			○							兼1	
		計量心理学演習	3･4前･後		2			○		1						
		医療心理学演習	3･4前･後		2			○							兼1	
		社会心理学演習	3･4前･後		2			○			1					
		認知心理学演習	3･4前･後		2			○							兼1	
		応用心理学演習	3･4前･後		2			○							兼1	隔年
		心理学演習	3･4前･後		2			○							兼1	
		卒業論文	4通		10			○		3	3		2			
		小計(32科目)		0	74	0		－		3	3	0	2	0	兼6	
	教育学教室	教育原理Ⅰ	1前		2		○								兼2	
		教育原理Ⅱ	1後		2		○			1						
		教育心理学	1･2前･後		2		○				1					
		青年心理学	1･2前･後		2		○								兼1	
		教育方法論	1･2前･後		2		○				1					
		視聴覚教育	2前		2		○								兼1	
		教育課程論	2前･後		2		○				1					
		道徳教育の理論と方法	2前･後		2		○				1					
		進路指導	3前		2		○				1				兼1	
		特別活動	2前		2		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	教育学教室	教育相談	2前		2		○								兼2	
		教育学入門	2通		4		○			2	4		2		兼1	オムニバス方式
		教育史	3通		4		○								兼1	
		教育哲学	3後		2		○								兼1	
		教育社会学	2後		2		○				1					
		教育社会学演習	2･3･4通		4			○			1					
		学校文化研究	2･3･4通		4			○			1					
		臨床教育学演習	2･3･4通		4			○			1					
		教育行政学Ⅰ	2前		2		○			1						
		教育行政学Ⅱ	2後		2		○			1						
		教育行政学演習	2･3･4通		4			○		1						
		臨床発達学演習	2･3･4通		4			○			1					
		生涯学習概論Ⅰ	2前		2		○			1						
		生涯学習概論Ⅱ	2後		2		○				1					
		社会教育計画論Ⅰ	2･3･4前		2		○				1					
		社会教育計画論Ⅱ	2･3･4後		2		○				1					
		社会教育学特殊講義Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		社会問題と社会教育Ⅰ	2･3･4前		2		○			1						
		社会問題と社会教育Ⅱ	2･3･4後		2		○			1						
		社会教育施設論	2･3前		2		○			1						
		青少年問題と社会教育Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
		青少年問題と社会教育Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
		社会教育学演習	2･3･4通		4			○		1	1					
		多文化教育論	2･3前		2		○				1					
		多文化教育学演習	2･3･4通		4			○		1						
		文化・芸術体験型演習	2前		2			○							兼3	
		教育学特殊講義Ⅰ	2･3前･後		2		○				2				兼5	
		教育研究法	4通		4		○			2	4		2		兼1	オムニバス方式
		卒業論文	4通		10			○		2	4		2		兼1	オムニバス方式
		小計(39科目)		0	106	0		－		2	4	0	2	0	兼19	
	言語科学教室	言語科学概論	2前･後		2		○								兼1	
		音韻論基礎	2前･後		2		○			1						
		心理言語学	2前･後		2		○								兼1	
		言語科学文献講読	2前･後		2			○							兼1	
		音韻論	3後		2		○			1						
		統語論	3後		2		○				1					
		生成言語理論	3前･後		2		○				1					
		統語論基礎	2前･後		2		○				1					
		比較統語論Ⅰ	3前		2		○			1						
		比較統語論Ⅱ	3後		2		○			1						
		社会言語学	3後		2		○								兼1	
		言語と文化	3前		2		○								兼1	
		言語脳科学	2前･後		2		○				1					
		認知神経科学	2前･後		2		○				1					
		脳計測科学	2後･3前		2				○				1			
		発達科学	3前･後		2		○				1					
		精神神経科学	3前･後		2		○				1					
		意味論・語用論	3前･後		2		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目群	言語科学教室	意味論・語用論基礎	2前・後		2		○				1				
		形態論	3前		2		○				1				兼1
		言語獲得論	2前		2		○								兼1
		言語情報処理の統計学	2後		2		○								兼1
		言語科学特殊講義	4前・後		2		○			2	4		1		兼2
		言語科学卒業論文	4前・後		10			○		2	4		1		
		小計(24科目)		0	56	0		－		2	4	0	1	0	兼5
	日本語教育学教室	日本語表現法Ⅰ	3前		2			○		1					
		日本語表現法Ⅱ	3後		2			○		1					
		日本言語学概論	2前・後		2		○				1				
		日本言語学講義	2・3前・後		2		○			1	1				
		日本言語学演習	3・4前・後		2			○		1	1				
		日本語教育実習	4前・後		2				○	1	2				
		日本語学概論	2前・後		2		○			1					
		日本語習得論概論	2前		2		○				1				
		日本語習得論講義	2・3前・後		2		○				1				
		日本語習得論演習	3・4前・後		2			○			1				
		日本語教育学概論	2前		2			○		1					
		日本語教育学講義	2・3前・後		2		○			1					
		日本語教育学演習	3・4前・後		2			○		1					
		日本社会言語学概論	2・3前・後		2		○			1					
		日本社会言語学講義	3前・後		2		○			1					
		日本社会言語学演習	3・4前・後		2			○		1					
		言語習得論演習	3後		2			○			1				
		比較言語文化論	2・3前・後		2			○			1				兼2
		学外演習	3集中		1			○		3	3				
		論文指導	4前・後		1			○		1					
		卒業論文指導	3・4前・後		2			○		1					
		卒業論文	4通		10			○		3	3				
		小計(22科目)		0	50	0		－		3	3	0	0	0	兼2
	人間社会学科共通科目	人間社会学科の方法論	1後	2			○			1					
		社会調査の国際比較	2・3前		2		○			1					
		哲学（古代中世Ⅰ）	2・3前		4		○								兼1
		哲学（古代中世Ⅱ）	2・3後		4		○								兼1
		哲学（近世Ⅰ）	2・3前		4		○								兼1
		哲学（近世Ⅱ）	2・3後		4		○								兼1
		哲学（美学）	3・4通		4		○								兼1
		哲学（日本倫理思想史）	3・4通		4		○								兼1
		日本史概説Ａ	2・3前		2		○								兼1
		外国史概説（東洋史）Ａ	2・3・4前		2		○								兼1
		外国史概説（西洋史）Ａ	2・3・4後		2		○								兼1
		日本言語文化概論ⅡＡ	2・3前・後		2		○								兼1
		日本古典Ａ	2・3・4前・後		2		○								兼2
		日本文学講義ⅠＡ	2・3・4前・後		2		○								兼1
		日本文学講義ⅡＡ	2・3・4通		4		○								兼2
		日本文学史Ａ	2・3・4前・後		2		○								兼2
		日本文学演習ⅠＡ	2・3・4前・後		2			○							兼1
		日本文学演習ⅡＡ	2・3・4通		4			○							兼2

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群		日本文化特殊講義Ａ	2･3･4前･後		2		○								兼3	
		小計(19科目)		2	52	0		－		1	0	0	0	0	兼21	
	人文社会学部共通科目	比較文学史	2･3集中		4		○								兼1	
		書道	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館学概論A	2･3前		2		○								兼1	
		博物館資料論	2･3後		2		○								兼1	
	人文社会学部共通科目	博物館経営論	2･3前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2･3後		2		○								兼1	
		博物館情報・メディア論	2･3後		2		○								兼2	オムニバス方式
		博物館資料保存論	2･3休		2		○								兼1	集中
		博物館展示論	2･3後		2		○								兼1	
		博物館実習Ⅰ	2･3通		2				○		1				兼7	オムニバス方式
		博物館実習Ⅱ	2･3通		3				○						兼1	
		民俗学実習	3･4前･後		2				○						兼1	
		国際教育論Ⅰ	2前		2		○			1						
		国際教育論Ⅱ	2後		2		○			1						
		インターンシップ	3･4前		1又2				○	1						
		小計(15科目)		0	35	0		－		2	1	0	0	0	兼17	
	教職関係科目	教職入門	1前			2	○								兼2	
		国語科教育法１	3通			4		○							兼1	隔年
		国語科教育法２	3通			4		○							兼1	隔年
		社会科教育法１	3通			4		○							兼2	オムニバス方式
		社会科教育法２	3通			4		○							兼2	オムニバス方式
		地理歴史科教育法	3通			4		○							兼1	
		公民科教育法	3通			4		○							兼2	
		数学科教育法A	3前･後			2	○								兼1	隔年
		数学科教育法B	3前･後			2	○								兼1	隔年
		数学科教育法C	3前･後			2	○								兼1	隔年
		数学科教育法D	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法A	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法B	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法C	3前･後			2	○								兼4	隔年
		理科教育法D	3前･後			2	○								兼4	隔年
		情報科教育法Ⅰ	3前･後			2		○							兼2	
		情報科教育法Ⅱ	3前･後			2		○							兼2	
		工業科教育法	3通			4		○							兼1	
		英語科教育法１	3通			4		○							兼1	隔年
		英語科教育法２	3通			4		○							兼1	隔年
		~~独語科教育法１~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~
		~~独語科教育法２~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~
		~~仏語科教育法１~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~

届出後に削除（これ以外の変更は設置計画履行状況等調査報告書に記載）

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	教職関係科目	~~仏語科教育法２~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~
		中国語科教育法１	3通			4		○							兼1	隔年
		中国語科教育法２	3通			4		○							兼1	隔年
		教育実習（中学校）	4前･後			5			○	2	4					
		教育実習（高等学校）	4前･後			3			○	2	4					
		教職実践演習	4後			2		○							兼1	
		小計(29科目)	－	0	0	92		—		2	4	0	0	0	兼18	
合計（453科目）			－	16	974	92		—		22	21	0	8	0	兼518	

学位又は称号	学士（社会学）（社会人類学）（社会福祉学）（心理学）（教育学）（言語学）（日本語教育学）	学位又は学科の分野	文学関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（人文社会学部人間社会学科） 【卒業要件単位　130単位】 ○基礎科目群、教養科目群及び基盤科目群の授業科目を38 単位以上 (1) 基礎ゼミナール 2 単位 (2) 情報科目 2 単位以上 (3) 第一群言語科目 8 単位 (4) 第二群言語科目 12単位以上 (5) 教養科目群及び基盤科目群に属する科目並びにキャリア教育科目 14 単位以上 ○専門教育科目 74 単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目群		基礎ゼミナール	1前	2				○		2	5				兼68	一部オムニバス方式
		小計(1科目)		2	0	0		－		2	5	0	0	0	兼68	
	情報科目	情報リテラシー実践Ⅰ	1前	2				○							兼35	一部オムニバス方式、共同
		情報リテラシー実践ⅠA	1前	2				○							兼5	
		情報リテラシー実践ⅡA	1･2後		2			○							兼3	
		情報リテラシー実践ⅡB	1･2後		2			○							兼2	
		情報リテラシー実践ⅡC	1･2後		2			○							兼1	
		小計(5科目)		4	6	0		－		0	0	0	0	0	兼35	
	言語科目	実践英語Ⅰa	1前	1				○		4	4				兼42	
		実践英語Ⅰb	1後	1				○		4	4				兼42	
		実践英語Ⅰc	1前	1				○		4	3				兼5	
		実践英語Ⅰd	1後	1				○		4	3				兼5	
		実践英語Ⅱa	2前	1				○		4	4				兼27	
		実践英語Ⅱb	2後	1				○		4	4				兼27	
		実践英語Ⅱc	2前	1				○		4	4				兼5	
		実践英語Ⅱd	2後	1				○		4	4				兼5	
		ドイツ語Ⅰ	1前･後		4			○		1	3				兼17	
		ドイツ語Ⅱ	2前･後		2			○							兼4	
		フランス語Ⅰ	1前･後		4			○		1	3				兼12	
		フランス語Ⅱ	2前･後		2			○			1				兼2	
		中国語Ⅰ	1通		4			○		2	1				兼10	
		中国語Ⅱ	2前･後		2			○		1					兼3	
		朝鮮語Ⅰ	1通		4			○							兼3	
		朝鮮語Ⅱ	2前･後		2			○							兼3	
		日本語Ⅰ	1通		4			○							兼3	
		日本語Ⅱ	2前･後		2			○							兼2	
		ロシア語Ⅰ	1･2通		4		○								兼1	
		ロシア語Ⅱ	1･2前･後		2		○								兼1	
		スペイン語Ⅰ	1･2前･後		4			○							兼1	
		スペイン語Ⅱ	2前･後		2			○							兼1	
		イタリア語Ⅰ	1前･後		4			○							兼1	
		イタリア語Ⅱ	2前･後		2			○							兼1	
		アラビア語Ⅰ	1･2通		4		○								兼1	
		アラビア語Ⅱ	1･2前･後		2		○								兼1	
		ギリシャ語Ⅰ	1･2通		4			○							兼1	
		ラテン語Ⅰ	1･2通		4			○							兼1	
		小計(28科目)		8	62	0		－		8	11	0	0	0	兼101	
	理系共通基礎科目	微分積分Ⅰ	1前		2		○								兼8	
		線形代数Ⅰ	1前		2		○								兼8	
		微分積分Ⅱ	1後		2		○								兼8	
		線形代数Ⅱ	1後		2		○								兼8	
		微分積分Ⅲ	2前		2		○								兼1	
		線形代数Ⅲ	2前		2		○								兼1	
		解析入門Ⅰ	2前		2		○								兼5	
		解析入門Ⅱ	2後		2		○								兼4	
		確率統計	2後		2		○								兼3	
		離散数学入門	2前		2		○								兼3	
		応用数理概論Ⅰ	2後		2		○								兼2	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目群	理系共通基礎科目	基礎微分積分	1･2後		2		○								兼1	
		基礎線形代数	1･2前		2		○								兼1	
		教養基礎物理Ⅰ	1前		2		○								兼3	
		教養基礎物理Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		初等物理Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		初等物理Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		専門基礎物理Ⅰ	2前		2		○								兼2	
		専門基礎物理Ⅱ	2後		2		○								兼2	
		物理学概説Ⅰ	1･2前		2		○								兼1	
		物理学概説Ⅱ	1･2後		2		○								兼1	
		物理通論Ⅰ	1前		2		○								兼4	
		物理通論Ⅱ	1後		2		○								兼4	
		物理学実験第一	1･2前･後		2				○						兼8	
		化学概説Ⅰ	1前		2		○								兼4	
		化学概説Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		一般化学Ⅰ	1前		2		○								兼2	
		一般化学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		化学実験	1後		2				○						兼29	オムニバス方式、一部共同
		一般生物学Ⅰ	1･2前		2		○								兼4	オムニバス方式
		一般生物学Ⅱ	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		生物学実験入門１	1･2休		1				○						兼7	オムニバス方式、集中
		生物学実験入門２	1･2休		1				○						兼7	オムニバス方式、集中
		生物学概説ⅠA	1･2前		2		○								兼4	オムニバス方式
		生物学概説ⅡA	1･2後		2		○								兼3	一部オムニバス方式
		小計(35科目)		0	68	0		－		0	0	0	0	0	兼82	
	保健体育科目	身体運動学	1･2前･後		2		○								兼2	
		身体運動演習	1･2前･後		2			○							兼8	
		スポーツ実習	1･2前･後		1				○						兼8	
		小計(3科目)		0	5	0		－		0	0	0	0	0	兼8	
	キャリア教育科目	キャリア形成	1･2前		2		○								兼1	
		キャリア形成演習	1･2後		2			○							兼1	
		学びのデザイン：理論と実践	1･2後		2		○								兼1	
		現場体験型インターンシップ	1･2前		2				○						兼1	※講　義
		国際交流概論	1前		2		○								兼3	オムニバス方式
		小計(5科目)		0	10	0		－		0	0	0	0	0	兼5	
教養科目群	都市・社会・環境	アジア・アフリカ社会論	1･2前		2		○								兼5	オムニバス方式
		社会と福祉	1･2後		2		○								兼1	隔年
		生活と福祉	1･2後		2		○								兼1	隔年
		情報社会と法	1･2後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1･2前･後		2		○								兼2	
		都庁の仕組みと仕事	1･2前		2		○								兼1	
		官庁の仕組みと仕事	1･2後		2		○								兼1	
		生態と環境	1･2前		2		○								兼1	
		動物の生態と多様性	1･2後		2		○								兼1	
		自然と社会と文化	1･2休		2		○								兼1	集中
		都市政策科学概論	1･2前		2		○								兼1	
		地域環境の人文地理	1･2後		2		○								兼1	
		都市空間の人文地理	1･2前		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目群	都市・社会・環境	都市の技術	1前		2		○								兼9	オムニバス方式
		エネルギー化学入門	1後		2		○								兼4	オムニバス方式
		環境調和化学入門	1前		2		○								兼2	オムニバス方式、一部共同
		観光科学概論	1前		2		○								兼6	オムニバス方式
		社会と経営	1･2前		2		○								兼1	
		特定社会活動	1･2前･後		6				○						兼1	
		Tourism theories and practice	1後		2		○								兼6	オムニバス方式
		多摩の里山学	1通		2		○								兼1	オムニバス方式、一部共同 ※実験・実習
		小計(21科目)		0	46	0		－		0	0	0	0	0	兼40	
	文化・芸術・歴史	社会意識と社会構造	1･2前		2		○								兼1	
		心の哲学	1･2前		2		○			1						
		西洋古典学Ａ	1･2後		2		○				1					隔年
		西洋古典学Ｂ	1･2前		2		○				1					隔年
		都市の歴史	1･2後		2		○			3	1					隔年
		日本の歴史と社会・文化	1･2前		2		○			1						
		西洋の歴史と社会・文化	1･2前		2		○				1					
		アジアの歴史と社会・文化	1･2前		2		○				1					
		文明と歴史	1･2後		2		○			1						隔年
		歴史学入門	1･2前		2		○			2	1					オムニバス方式
		考古学入門	1･2前		2		○				1					
		日本語と日本文学Ａ	1前		2		○			1						隔年
		日本語と日本文学Ｂ	1後		2		○			2	1					隔年
		アジアの言語と文化Ａ	1前		2		○			2	1					オムニバス方式
		アジアの言語と文化Ｂ	2後		2		○			1						
		英語圏の文化	1前･後		2		○				1					
		ドイツ語圏の文化	1･2後		2		○				1					
		フランス語圏の文化	1後		2		○				1					
		文学概論	1後		2		○			2	3					オムニバス方式
		表象文化論基礎	1前･後		2		○				1					
		植物の多様性と進化	1･2前		2		○								兼1	
		進化生物学	1･2後		2		○								兼1	
		科学史B	1･2後		2		○								兼1	
		日本語と社会と文化	1前		2			○							兼1	
		Japanese Language and Society	1前		2			○							兼1	
		The Japanese Language	1後		2			○							兼1	
		Global Mindset	1前		2			○							兼1	
		Intercultural Communication and Interaction	1前･後		2			○							兼1	
		小計(28科目)		0	56	0		－		14	12	0	0	0	兼7	
	生命・人間・健康	生活の心理学	1･2前		2		○								兼1	
		心の科学	1･2前･後		2		○								兼1	
		ことばの科学	1･2前		2		○								兼6	オムニバス方式
		生命を支える化学物質	1･2後		2		○								兼1	
		現代社会・化学の役割	1･2前		2		○								兼1	
		細胞の世界	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		ゲノム科学	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		神経生物学	1･2前		2		○								兼1	
		人間生物学	1･2後		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目群	生命・人間・健康	先端生命化学入門	1後		2		○								兼1	
		スポーツ・健康と脳科学	1･2後		2		○								兼1	
		エクササイズ科学	1･2前		2		○								兼1	
		健康スポーツ科学	1･2後		2		○								兼1	
		健康の栄養学	1･2後		2		○								兼1	
		行動生理学	1･2前		2		○								兼1	
		生活習慣と栄養	1･2前		2		○								兼1	
		認知と行動	1･2後		2		○								兼1	
		生体機能調節学	1･2後		2		○								兼1	
		小計(18科目)		0	36	0		－		0	0	0	0	0	兼25	
	科学・技術・産業	科学哲学	1･2前		2		○			1						
		地球環境と人類の歴史	1･2前		2		○				1				兼1	オムニバス方式
		日本の産業と企業	1後		2		○								兼1	
		現代物理学の考え方	1前		2		○								兼2	オムニバス方式
		素粒子から宇宙	1後		2		○								兼1	
		科学史Ａ	1前		2		○								兼1	
		宇宙地球物質の化学	1･2前		2		○								兼1	
		現代分子科学	1･2後		2		○								兼1	
		バイオテクノロジー	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		人工物のテクノロジー	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		大気と水の循環を学ぶ	1･2後		2		○								兼1	
		大地の成り立ちを探る	1･2前		2		○								兼1	
		自然災害と社会	1･2後		2		○								兼4	オムニバス方式
		ツーリズム産業論	1後		2		○								兼2	オムニバス方式
		生体と機械	1･2後		2		○								兼2	オムニバス方式
		デザインと生活	1･2前		2		○								兼3	オムニバス方式
		小計(16科目)		0	32	0		－		1	1	0	0	0	兼24	
		総合ゼミナール	3･4後		2			○							兼3	
		小計(1科目)		0	2	0		－		0	0	0	0	0	兼3	
基盤科目群	人文科学領域	社会学Ａ	1･2前		2		○								兼2	
		社会学Ｂ	1･2後		2		○								兼2	
		文化人類学Ａ	1･2前		2		○								兼1	
		文化人類学Ｂ	1･2後		2		○								兼1	
		社会福祉学	1･2前		2		○								兼1	
		心理学の基礎	1･2後		2		○								兼3	オムニバス方式、一部共同
		心理学方法論	1･2後		2		○								兼1	
		教育学	1前		2		○								兼2	
		哲学Ａ	1･2前		2		○			1						
		哲学Ｂ	1･2後		2		○				1					
		倫理学Ａ	1･2前		2		○				1					
		倫理学Ｂ	1･2後		2		○				1					
		論理学Ａ	1･2前		2		○			1						
		論理学Ｂ	1･2後		2		○			1						
		言語・思考・行為	1後		2		○			3					兼1	オムニバス方式
		人間・文化・社会	1後		2		○			4	4				兼7	オムニバス方式、共同
		小計(16科目)		0	32	0		－		6	6	0	0	0	兼18	
	社会科学領域	民事法入門	1･2後		2		○								兼1	
		刑事法入門	1･2前		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基盤科目群	社会科学領域	法学入門	1･2前		2		○								兼1	
		政治理論入門	1･2後		2		○								兼1	
		現代政治入門	1･2前		2		○								兼1	
		入門マクロ経済学	1前		2		○								兼1	
		入門ミクロ経済学	1前		2		○								兼1	
		経済史・思想入門	1後		2		○								兼3	オムニバス方式
		経営学入門	1前		2		○								兼1	
		会計学入門	1前		2		○								兼1	
		統計学Ⅰ	1前		2		○								兼3	
		統計学Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		デザインマネージメント概論	1･2前		2		○								兼1	
		小計(13科目)		0	26	0		－		0	0	0	0	0	兼17	
	自然科学領域	数学の歴史	1･2後		2		○								兼1	
		計算の理論	1･2前		2		○								兼1	
		現代的教養のための確率統計	1･2後		2		○								兼1	
		建築文化論	1後		2		○								兼4	オムニバス方式
		環境と建築	1前		2		○								兼2	オムニバス方式、一部共同
		情報科学入門	1･2前		2		○								兼2	オムニバス方式
		エアフレームデザイン概論	1･2前		2		○								兼1	
		小計(7科目)		0	14	0		－		0	0	0	0	0	兼12	
	健康科学領域	人間発達学	1後		2		○								兼2	オムニバス方式
		医療統計学	1前		2		○								兼1	
		移動の人間工学	1後		2		○								兼1	
		医療と情報	1後		2		○								兼1	
		保健医療概論	1前		2		○								兼7	オムニバス方式
		リハビリテーション概論	1前		2		○								兼2	オムニバス方式
		小計(6科目)		0	12	0		－		0	0	0	0	0	兼26	
専門科目群	哲学教室（哲学）	古代中世哲学Ⅰ	2・3前		2		○			1						
		古代中世哲学Ⅱ	2・3後		2		○			1						
		近世哲学Ⅰ	2・3前		2		○				1					
		近世哲学Ⅱ	2・3後		2		○			1						
		哲学基礎演習（英米）Ⅰ	2・3前		2			○		1						
		哲学基礎演習（英米）Ⅱ	2・3後		2			○		1						
		哲学基礎演習（独仏）Ⅰ	2・3前		2			○			1					
		哲学基礎演習（独仏）Ⅱ	2・3後		2			○			1					
		哲学史演習（古代中世）	3・4通		4			○		1						
		哲学史演習（英米）	3・4通		4			○		1						隔年
		哲学史演習（ドイツ）	3・4通		4			○		1						
		哲学史演習（フランス）	3・4通		4			○			1					隔年
		哲学演習（論理哲学）	3・4通		4			○		1						
		哲学演習（言語哲学）	3・4通		4			○			1					隔年
		倫理学史演習	3・4通		4			○		1						隔年
		倫理学演習	3・4通		4			○		1					兼１	隔年
		哲学史特殊講義（古代・中世）	3・4通		4		○			1						隔年
		哲学史特殊講義（英米）	3・4通		4		○			1						隔年
		哲学史特殊講義（ドイツ）	3・4通		4		○			1						
		哲学史特殊講義（フランス）	3・4通		4		○				1					
		哲学特殊講義（言語哲学）	3・4通		4		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	哲学教室（哲学）	哲学特殊講義（論理哲学）	3・4通		4		○			1						隔年
		哲学特殊講義	3・4前・後		2		○								兼7	
		倫理学特殊講義	3・4通		4		○				1				兼1	隔年
		美学	3・4通		4		○								兼1	
		日本倫理思想史	3・4通		4		○								兼1	
		哲学討論	3・4通		4			○		1						
		卒業論文	4		10			○		4	3					
		小計(28科目)		0	100	0		－		4	3	0	1	0	兼10	
	哲学教室（西洋古典学）	古代中世哲学Ⅰ	2・3前		2		○			1						
		古代中世哲学Ⅱ	2・3後		2		○			1						
		西洋古典学概説Ⅰ	2・3前		2		○				1					
		西洋古典学概説Ⅱ	2・3後		2		○				1					
		ギリシャ語Ⅱ	2・3前・後		2			○			1					
		ラテン語Ⅱ	2・3前・後		2			○							兼1	
		西洋古典学演習（ギリシャ文学）	3・4通		4			○			1				兼1	
		西洋古典学演習（ラテン文学）	3・4通		4			○			1				兼1	
		卒業論文	4		10			○		4	3					
		小計(9科目)		0	30	0		－		4	2	0	0	0	兼1	
	歴史学・考古学教室	歴史学概論	2・3前		2		○			1						
		歴史学方法論	2･3前･後		2			○		1	1					
		考古学概論	2・3後		2		○				1					
		考古学方法論	2・3前		2			○			1					
		古文書学	2・3通		4		○			2						オムニバス方式
		日本文化史	2・3前		2		○			3						オムニバス方式
		日本史概説	2・3前		2		○			1						
		外国史概説(東洋史)	2･3前		2		○				1					
		外国史概説(西洋史)	2･3後		2		○			1						
		歴史調査法	2･3･4休		2		○								兼2	オムニバス方式、一部共同、集中
		日本史学特殊講義Ⅰ	2･3･4後		2		○			1						
		日本史学特殊講義Ⅱ	2･3･4前		2		○			1						
		日本史学特殊講義Ⅲ	2･3･4前		2		○			1						
		日本史学特殊講義Ⅳ	2･3･4後		2		○			1						
		東洋史学特殊講義Ⅰ	2･3･4後		2		○				1					
		東洋史学特殊講義Ⅱ	2･3･4前		2		○				1					
		東洋史学特殊講義Ⅲ	2･3・4後		2		○				1					
		西洋史学特殊講義Ⅰ	2･3・4前・後		2		○			1	1					
		西洋史学特殊講義Ⅱ	2･3･4前･後		2		○			1						
		考古学特殊講義Ⅰ	2･3･4前・後		2		○				1					
		考古学特殊講義Ⅱ	2･3･4前・後		2		○				1					
		日本史学演習Ⅰ	2･3･4前・後		2			○		1						
		日本史学演習Ⅱ	2･3･4前・後		2			○		1						
		日本史学演習Ⅲ	2･3･4前・後		2			○		1						
		日本史学演習Ⅳ	2･3･4前・後		2			○		1						
		東洋史学演習Ⅰ	2･3･4前・後		2			○			1					
		東洋史学演習Ⅱ	2･3･4前・後		2			○			1					
		東洋史学演習Ⅲ	2･3･4前・後		2			○			1					
		西洋史学演習Ⅰ	2･3･4前・後		2			○		1	1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	歴史学・考古学教室	西洋史学演習Ⅱ	2·3·4前・後		2			○		1						
		考古学演習Ⅰ	2·3·4前・後		2			○			1					
		考古学演習Ⅱ	2·3·4前・後		2			○			1					
		考古学実習Ⅰ	2·3·4通		2				○		1		1			
		考古学実習Ⅱ	2·3·4		4				○		1		1			
		卒業論文指導	4通		2			○		6	5		1			
		卒業論文	4通		10			○		6	5		1			
		小計(36科目)		0	84	0		－		6	5	0	1	0	兼2	
	表象文化論教室	表象文化論入門	2前		2			○			1					
		表象文化論基礎理論	2・3・4前・後		2		○			3	4					
		外国語文献講読	2・3・4前・後		2			○			2					
		空間表象論	2・3・4前・後		2		○			1	1					
		表象文化史Ａ	2・3・4前・後		2		○				2					
		表象文化史Ｂ	2・3・4前・後		2		○			2	1					
		表象文化論演習	2・3・4前・後		2			○		2						
		芸術表象論	2・3・4前・後		2			○		1	1					
		文化表象論	2・3・4前・後		2			○		1	2					
		表象文化論特殊講義	2・3・4前・後		2		○			1	2				兼8	
		卒業論文	4通		10			○		3	4					
		卒業研究	4通		10			○		4	4					
		小計(12科目)		0	40	0		－		4	4	0	0	0	兼8	
	日本文化論教室	日本言語文化概論Ⅰ	2・3前・後		2		○			1						
		日本言語文化概論Ⅱ	2・3前・後		2		○			1	1					
		言語表現法Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
		言語表現法Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
		日本語学講義	2・3・4前・後		2		○			1						
		日本語学演習	2・3・4通		4			○		1						
		日本語学特殊講義	2・3・4前・後		2		○								兼2	
		日本古典	2・3・4前・後		2		○			1	1					
		日本文学講義Ⅰ	2・3・4前・後		2		○			2	1					
		日本文学講義Ⅱ	2・3・4通		4		○			2	1					
		日本文学史	2・3・4前・後		2		○			2	1					
		日本文学演習Ⅰ	2・3・4前・後		2			○		2	1					
		日本文学演習Ⅱ	2・3・4通		4			○		2	1					
		日本文化特殊講義	2・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		卒業論文指導	4通		2			○		3	1					
		卒業論文	4通		10			○		3	1					
		小計(16科目)		0	46	0		－		3	1	0	0	0	兼6	
	中国文化論教室	中国古典Ⅰ	2前		2		○			1						隔年
		中国古典Ⅱ	2前		2		○								兼1	隔年
		中国語学概説Ⅰ	2後		2		○				1					隔年
		中国語学概説Ⅱ	2後		2		○				1					隔年
		中国文学概説Ⅰ	2前		2		○								兼1	隔年
		中国文学概説Ⅱ	2前		2		○			1						隔年
		中国語法	3前		2		○				1					
		中国語史	3後		2		○				1					
		中国文学史	3前		2		○			1						隔年
		中国思想史Ⅰ	3前		2		○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目群	中国文化論教室	中国思想史Ⅱ	3後		2		○								兼1
		中国語作文Ⅰ	2前		2		○								兼1
		中国語作文Ⅱ	3前		2			○							兼1
		中国語会話Ⅰ	2前		2			○							兼1
		中国語会話Ⅱ	3前		2			○							兼1
		上級中国語	3前		2			○							兼1
		中国文化論	3前		2			○							兼1
		東アジア文化論	3後		2		○								兼1
		中国言語文化概論	2後		2		○			1					
		中国文化特殊講義	2・3・4後		2		○			3	1				兼1
		中国文化演習	2・3・4前		2		○			3	1				兼1
		漢文学	2前		2		○								兼1
		卒業論文指導	4通		2			○		2	1				
		卒業論文	4通		10			○		2	1				
		小計(24科目)		0	56	0		－		2	1	0	0	0	兼7
	英語圏文化論教室	英語圏文学史Ⅰ	2通		4		○				1				
		英語圏文学史Ⅱ	2通		4		○				1				
		英語学概論	2・3・4通		4		○								兼1
		英語圏文化論Ａ	2・3前・後		2		○			1					
		英語圏文化論Ｂ	2・3前・後		2		○				1				
		英語圏文学論Ａ	2・3前・後		2		○			1					
		英語圏文学論Ｂ	2・3前・後		2		○				1				
		英語史	3通		4		○								兼1
		英語圏文化演習	3・4通		4			○		2	3				
		英語圏文学演習	3・4通		4			○		2	3				
		英語表現論	3通		4			○			1				兼1
		英語コミュニケーション論	2・3・4通		4			○			1				
		英会話Ⅰ	2前・後		2			○							兼1
		英会話Ⅱ	3前・後		2			○							兼1
		英作文Ⅰ	2前・後		2			○							
		英作文Ⅱ	3前・後		2			○							兼1
		上級英語	2・3前・後		2			○		1	4				
		卒業論文	4通		10			○		2	4				兼1
		小計(20科目)		0	64	0		－		2	4	0	0	0	兼7
	ドイツ語圏文化論教室	ドイツ語圏文化史	2・3・4前・後		2			○			3				
		ドイツ語圏文化論	2・3・4前・後		2			○			2				兼1
		ドイツ語圏文化演習	2・3・4前・後		2			○		1	1				
		ドイツ語圏文学論	3・4前・後		2			○							兼1
		ドイツ語圏文学演習	2・3前・後		2			○		1					
		ドイツ語史	2・3後		2			○							兼1
		ドイツ語学特殊講義	2・3・4前・後		2			○			1				兼1
		ドイツ語学概論	2・3前・後		2			○							兼1
		ドイツ語学演習	2・3前		2			○							兼1
		ドイツ語作文Ⅰ	2・3前		2			○			1				
		ドイツ語作文Ⅱ	2・3後		2			○			1				
		ドイツ語会話Ⅰ	2前・後		2			○			1				
		ドイツ語会話Ⅱ	3前・後		2			○			1				兼1
		上級ドイツ語	3・4前・後		2			○			1				

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群		卒業論文	4前・後		10			○		1	3					
		小計(15科目)		0	38	0		－		1	3	0	1	0	兼6	
	フランス語圏文化論教室	フランス語圏文学史	2前・後		2			○		1						
		フランス語圏文学論	2・3・4前・後		2			○			1					
		フランス語圏文学演習	3・4前・後		2			○		1						
		フランス語圏文化史	2・3・4前・後		2			○			1				兼2	
		フランス語圏文化論	2・3・4前・後		2			○			1				兼2	
		フランス語圏文化演習	3・4前・後		2			○			1				兼1	
		フランス語史	2前・後		2			○							兼1	
		フランス語学論	2前・後		2			○		1						
		フランス語学演習	2・3前・後		2			○			1					
		フランス語作文Ⅰ	2前・後		2			○			1				兼1	
		フランス語会話Ⅰ	2前・後		2			○							兼1	
		フランス語作文Ⅱ	3・4前・後		2			○			1				兼1	
		フランス語会話Ⅱ	3・4前・後		2			○							兼1	
		上級フランス語	3・4前・後		2			○			1				兼2	
		卒業論文	4前・後		10			○		1	3					
		小計(15科目)		0	38	0		－		1	3	0	0	0	兼10	
	人文学科共通科目	英語コミュニケーション論	2・3・4通		4			○			1					
		社会学原論ⅠA	2前		2		○								兼1	
		社会学原論ⅡA	2後		2		○								兼1	
		小計(3科目)		0	8	0		－		0	1	0	0	0	兼2	
	人文社会学部共通科目	比較文学史	2･3休		4		○								兼1	集中
		書道	2･3･4･通		4		○								兼1	
		博物館学概論A	2・3前		2		○								兼1	
		博物館資料論	2・3後		2		○								兼1	
		博物館経営論	2・3前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2・3後		2		○								兼1	
		博物館情報・メディア論	2・3後		2		○			1					兼1	オムニバス方式
		博物館資料保存論	2・3休		2		○								兼1	集中
		博物館展示論	2・3後		2		○								兼1	
		博物館実習Ⅰ	2・3通		2				○	1					兼6	オムニバス方式
		博物館実習Ⅱ	2・3通		3				○	1						
		民俗学実習	3・4通		2				○						兼1	
		国際教育論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		国際教育論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		インターンシップ	3･4前		1又2				○						兼1	
		小計(15科目)		0	35	0		－		1	0	0	0	0	兼17	
	教職関係科目	教職入門	1前			2	○								兼2	
		国語科教育法１	3通			4		○							兼1	隔年
		国語科教育法２	3通			4		○							兼1	隔年
		社会科教育法１	3通			4		○							兼1	オムニバス方式
		社会科教育法２	3通			4		○							兼1	
		地理歴史科教育法	3通			4		○							兼1	
		公民科教育法	3通			4		○							兼2	
		数学科教育法A	3前･後			2	○								兼1	隔年
		数学科教育法B	3前･後			2	○								兼1	隔年
		数学科教育法C	3前･後			2	○								兼1	隔年

別記様式第２号（その２の１）届出後に削除（これ以外の変更は設置計画履行状況等調査報告書に記載）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文社会学部人文学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	教職関係科目	数学科教育法D	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法A	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法B	3前･後			2	○								兼1	隔年
		理科教育法C	3前･後			2	○								兼4	隔年、オムニバス方式
		理科教育法D	3前･後			2	○								兼4	隔年、オムニバス方式
		情報科教育法Ⅰ	3前･後			2		○							兼2	
		情報科教育法Ⅱ	3前･後			2		○							兼2	
		工業科教育法	3通			4		○							兼1	
		英語科教育法１	3通			4		○							兼1	隔年
		英語科教育法２	3通			4		○							兼1	隔年
		~~独語科教育法１~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~			~~1~~					~~隔年~~
		~~独語科教育法２~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~			~~1~~					~~隔年~~
		~~仏語科教育法１~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~
		~~仏語科教育法２~~	~~3通~~			~~4~~		~~○~~							~~兼1~~	~~隔年~~
		中国語科教育法１	3通			4		○			1					隔年
		中国語科教育法２	3通			4		○			1					隔年
		教育実習（中学校）	4前・後			5			○						兼6	共同
		教育実習（高等学校）	4前・後			3			○						兼6	共同
		教職実践演習	4後			2		○							兼1	オムニバス方式、一部共同
		小計(29科目)	－	0	0	92		—		0	2	0	0	0	兼22	
合計（425科目）			－	14	946	92		—		22	23	0	2	0	兼532	

学位又は称号	学士（文学）（史学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（人文社会学部人文学科） 【卒業要件単位　130単位】 ○基礎科目群、教養科目群及び基盤科目群の授業科目を38 単位以上 (1) 基礎ゼミナール 2 単位 (2) 情報科目 2 単位以上 (3) 第一群言語科目 8 単位 (4) 第二群言語科目 12単位以上 (5) 教養科目群及び基盤科目群に属する科目並びにキャリア教育科目 14 単位以上 ○専門教育科目 74 単位以上	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	基礎ゼミナール	基礎ゼミナール	それぞれのテーマについて、個人あるいはグループで考え、必要に応じて調査・研究を行い、課題発見と問題解決のための能力を養う。調査研究成果や考えを口頭で発表したり、レポートにまとめたりすることによってプレゼンテーション能力、文章による表現能力の向上を目指す。これらの演習を通じて、受講生の多様な価値観を認識するとともに、人間関係構築の重要性を学ぶ。テーマについては開講する教員毎に設定され、学生は関心の高いテーマの基礎ゼミナールを選ぶ。 なお、以下の教員は複数のテーマを設定するためオムニバス方式で授業を行い、他の教員はオムニバス方式では行わない。 オムニバス方式（全１５回） （121 首藤啓／８回）　インターネットとのつきあい方 （138 柳和宏／７回）　ナノと社会	一部オムニバス方式
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践Ⅰ	ツールとしてICTを活用し、情報の収集、分析、編集、発信、コミュニケーションといった情報処理に関わる能力の向上を目指す。アプリケーションの使い方を学ぶだけでなく、具体的な問題解決を行う。以下が具体的な学習内容である。情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング、動画編集、HTML なお、以下の教員はオムニバス方式で授業を行う。 オムニバス方式１（全１５回） （352 近藤伸彦、329 武市昇／７回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集 （［H30年度］403 西崎実穂、352 近藤伸彦、146 村越潤 ［H31年度］144 梅山元彦、［H32年度］292 荒井康裕、 ［H33年度］297 横山勝英／８回） 表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング、動画編集、HTML オムニバス方式２（全１５回） （321 相馬隆郎、173 小林訓史／１２回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング （352 近藤伸彦／３回） 動画編集、HTML オムニバス方式３（全１５回） （320 渋谷正弘、324 小原弘道／１１回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション （198 立花宏／４回） 簡単なプログラミング、動画編集、HTML オムニバス方式４（全１５回） （352 近藤伸彦／７回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集 （399 塩田さやか／２回） 表計算の基礎 （400 下川原英理／２回） プレゼンテーション （401 藤田八郎／２回） 簡単なプログラミング （398 作元雄輔／２回） 動画編集、HTML	一部オムニバス方式、共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践Ⅰ	オムニバス方式５（全１５回） （395 乗富秀富／２回） 情報倫理講習、学内PC/ネット環境の説明とログイン/ログオフ、レディネス調査、e-learning システム（kibaco） の利用方法、タイピングの演習 学生用メール「Office365」の利用方法、図書館情報検索法、Web 情報検索法 （392 竹歳絢子、339 曾湖烈、386 稲垣佑亮／４回） Word による理系文章の編集、表の作成、Word による科学英文資料の作成、倫理講習の確認テスト、PowerPoint による理系スライド資料の作成、総合課題①（文書レポート作成＋プレゼン資料作成） （390 嶋田哲也、394 三浦大樹、387 近藤敏彰／４回） Excel による表計算、グラフ作成、Excel によるデータ処理（簡単な統計解析）、Excel 関数とVBA 基礎、総合課題②（Excel を使った理工系の課題） （394 西藪隆平、395 棟方裕一、391 田中学／４回） 分子表示ソフトの使い方（ChemSketch）、分子モデリングソフトの使い方-1（Avogadro）、分子モデリングソフトの使い方-2（Jmol）、総合課題③、分子軌道計算＜単純Hückel 法＞（SHMO）、他のソフトの紹介、FD 授業評価 （［H30年度］304 加藤俊吾、395 乗富秀富［H30、H31年度］305 柳下崇、395 乗富秀富［H33年度］306 山登正文、395 乗富秀富／１回） 達成度確認	一部オムニバス方式、共同
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践ⅠＡ	基本的な情報活用能力に係る知識、技能を習得すると共に、表計算ソフトウエアの発展的利用として、基礎的な統計処理を含む問題解決に取り組む。以下が具体的な学習内容である。情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、表計算の基礎、基本統計量、母集団と標本、正規分布とｔ分布、等分散を仮定した２グループの平均のｔ検定、等分散でないと仮定した２グループの平均のｔ検定、対応のある２グループの平均の検定、相関分析、単回帰分析	
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践ⅡＡ	コンピュータを用いた統計処理の基礎的知識とデータの処理手法、そして、データベースについての基礎的知識とデータの処理手法について学ぶ。また、実践的な課題を通して、統計処理とデータベースの活用に取り組む。以下が具体的な学習内容である。基本統計量，度数分布と統計図表、母集団と標本、正規分布・ｔ分布、母平均に関する検定と推定、母平均の差に関する検定と推定、分割表の検定、相関分析、回帰分析、データベースの分類、テーブル、フォーム、レポート、クエリ、リレーショナル型データベースの基礎、選択、射影、結合	
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践ⅡＢ	計算機科学やアルゴリズムなどプログラミングに関しての基礎的知識を学ぶと共に、実際にプログラムを作成することを通して数理科学的な問題解決に取り組む。以下が具体的な学習内容である。エディタの使用法、プログラミングの基礎知識（ソースコード、翻訳、実行）、アルゴリズム、変数の定義と変数の型宣言、論理型変数と型変換、代入文、繰り返し文、条件文、配列、キーボードからのデータ入力、ファイルの読み書き、メソッドの作成、プログラミングによる問題解決	
基礎科目群	情報科目	情報リテラシー実践ⅡＣ	画像と音のデジタル化の原理を知り、コンピュータ上での画像の扱い方の基礎、音の処理方法の基礎について学ぶ。以下が具体的な学習内容である。ラスタ（ビットマップ）画像，領域の選択、レイヤーの操作、ラスタ画像の合成、エフェクト、ベクター画像、ベジエ曲線、画像のトレース、立体感のある画像の作成、文字の加工、フィルタ、ベクター画像の課題作成、デジタルサウンド、音の種類と波形、音の編集、エフェクト、MIDI音源、音のミックス	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	言語科目	実践英語Ｉａ	「実践英語Ia」では、統一教科書を使用し、専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。同時に言語の背景にある文化・歴史を学生が深く理解し、知的視野を広げられるよう、学生自身の自主的な学習を促していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読させ、英語力のさらなる充実を図っていく。また課題に取り組む姿勢を身につけるため、自ら進んで英語学習に取り組む姿勢を涵養していく。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ｉｂ	「実践英語Ib」では「実践英語Ia」に引き続き、統一教科書を使用し、専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。また教科書で与えられる規範とすべきインプットを、如何にアウトプットに変えるかを意識させ、学生の発信力を強化する事を企図する。そのために比較的難易度の高い英文を講読させ、英語力のさらなる充実を図っていく。また課題に取り組む姿勢を身につけるため、自ら進んで英語学習に取り組む姿勢を涵養していく。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ｉｃ	「実践英語Ic」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は日本語を使用しない事を前提として学生が聴く能力と話す能力を強化していく。それぞれの学習単位ごとに学生の学習達成度が確認され、学生がすでに学んだ内容を生かして使えるよう、サポートが行われる。学生からの質問、発表、クラス内でのアクティヴィティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ｉｄ	「実践英語Id」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、学生が自然に会話を展開し、様々な視点から物事を眺められるよう構築されている。新しい語彙や文法要素がそれまでの知識と統合されるべく与えられる。それぞれの学習単位ごとに学生の学習達成度が確認される。学生からの質問、発表、クラス内でのアクティヴィティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ⅱａ	「実践英語IIa」においては、学生の関心に沿った形で複数の授業選択肢を提示し学習の動機付けを強化する。基本的には「実践英語I」に準じる形で専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、さらに語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。同時にアウトプットを行う際、利用すべき母型としてインプットを見る視線を養い、さらに任意の英語の文が別の文との組み替えによって、次の正しい新たな文を生み出す事を意識させ、アウトプットの充実を図らせる。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ⅱｂ	「実践英語IIb」においても、学生の関心に沿った形で複数の授業選択肢を提示し、学生に選ばせる形式を取る。言語の背景にある文化・歴史を学生が深く理解し、知的視野を広げられるよう、学生自身の自主的な学習を促していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読し、英語力のさらなる充実を図っていく。また引き続きインプットをアウトプットにつなげる事を意識させるが、単文にとどまらず因果関係に基づいて、説得的に英文を提示できるよう指導していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読し、英語力のさらなる充実を図っていく。	
基礎科目群	言語科目	実践英語Ⅱｃ	「実践英語IIc」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、批判的思考や言語的能力を養うことを目標に構築されている。双方的なフォーマットを学ばせることで、より深いコミュニケーションを達成できるよる指導される。学生が学んだ内容を生かして使えるよう、教員によるサポートが行われ、学生からの質問、発表、クラス内でのアクティヴィティを通して実践的な英語能力を養っていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	言語科目	実践英語Ⅱd	「実践英語IId」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、批判的思考や言語的能力を養うことを目標に構築され、ワークブックでの作業を通して学生が自ら英作文を行い、能動的に発信する手段を獲得させていく。学生が学んだ内容を生かして使えるよう、教員によるサポートが行われ、学生からの質問、発表、クラス内でのアクティヴィティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎科目群	言語科目	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の読み書きの基本となる基礎的な文法事項の学習を行う。基本的な文法、発音、語彙、構文、よく使われる表現パターンなどの習得を目指す。練習問題も行うことで、初級の文法についての知識を確実にし、さらにテキストを読んでいく上での基礎的な力をつける。ドイツ語検定試験の４級に合格する程度の語学力を獲得することを目指す。	
基礎科目群	言語科目	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語のテキストを読むことによって、新聞などのドイツ語圏情報を取捨・選択するための技能の基礎力をつける。視聴覚教材を利用した応用なども行なう。文化・社会・経済情報なくしては外国語を理解することはできない。この授業では、ドイツ語の教材を通して得られるドイツ語圏（ドイツ、スイス、オーストリアなど）の文化やものの見方、生活の仕方などを学習し、英語圏の文化とは異なる文化に慣れ親しむことも目標にしている。	
基礎科目群	言語科目	フランス語Ⅰ	フランス語の聞く・話す・読み・書きの基礎をひととおり習得する。その目標は、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解、基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的応答表現の理解、基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識の把握、動詞の基本的な活用の習得である。また、語学学習に加えて、フランス文化の紹介を適宜おこない、異文化理解の感性を磨く。	
基礎科目群	言語科目	フランス語Ⅱ	聞く・書く・読む・話すといった全方位的な運用能力の面で、初級フランス語の基礎知識を補強する総合的な中級講座である。その目標は、日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できること、日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができること、簡単な会話を聞いて内容を理解できること、基本的な文法知識を全般的に理解していることである。	
基礎科目群	言語科目	中国語Ⅰ	初学者を対象に、現代中国語（共通語）の発音、文字、語彙、文法、表現法などの総合的な面での基礎知識を習得し、その運用能力を養成することを目的とする。また、語学の学習を通じて、日本人（日本語）と同種もしくは異種の思考方法や論理的・認知的アプローチが世界に存在することを認識し、語学学習から得られるさまざまな中国文化の様相に触れることによって、異文化に対する理解を深めることも目指す。	
基礎科目群	言語科目	中国語Ⅱ	1年間の学習で得た基礎的な知識に基づいて、現代中国語（共通語）の表現伝達能力ならびに読解能力などをさらに高め、実際に中国語文化圏において基本的（日常的）なコミュニケーションが図れる程度の能力を養成することを目的とする。中国語Ⅰと同様の観点から、語学学習を通して中国および中国語文化圏の諸地域に対する異文化理解を深め、社会的・歴史的に幅広い知識を習得する。	
基礎科目群	言語科目	朝鮮語Ⅰ	朝鮮語（韓国語・コリア語）の話す・聞く・書く・読むの四技能の基本を身につけるための授業。朝鮮語と日本語は親戚語のような関係にあり、文の構造は類似し、語彙にも共通するものが多い。韓国人とのコミュニケーションを前提として学び、授業中には口と手をよく動かしてもらう。隣国の文化や社会について知るために、映像資料等も多用する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	言語科目	朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅰで学んだ技能を発展させるために、新しい表現や文法を加えると同時に、会話を取り入れ、また映像資料や新聞・雑誌といった教材を活用して実践的な授業を行う。外国語は使うために学ぶのであって、朝鮮語（韓国語・コリア語）の場合は、このレベルですでに実践可能である。	
基礎科目群	言語科目	日本語Ⅰ	総合的に日本語学習を行う。文法学習では、これまでの理解できる文法から正しく理解し正しく使える文法レベルにする。スピーチ学習では、人の前で話すことになれ、さらに聞き手を意識して話せるように練習を繰り返す。レジュメ作成練習では、伝えたいことの要点を、聞き手に合わせたレジュメが作れるようにし、よいレジュメとはどのようなものかを探っていく。プレゼンテーション学習では、パワーポイントを使い視覚に訴える部分と口頭での発表部分を練習する。語彙学習では、既習語でも、他の語と組み合わせることによって、複雑な意味を表せることを理解し、それらを適切に使用する練習をする。	
基礎科目群	言語科目	日本語Ⅱ	技能別クラスである。「読む」「話す」「聞く」「書く」それぞれの技能を向上させるために以下のような活動を行う。読む練習では、新聞のコラムや資料を読み、内容を理解する。書く活動では新聞のコラムを要約し、表現について検討する。話す活動では、宿題として課されたコラムや資料についてその内容や背景を授業で説明する。聞く活動では、ニュースのディクテーション、動画ニュースの視聴を行う。このような活動を通して、アカデミックな場での発信能力を高める。	
基礎科目群	言語科目	ロシア語Ⅰ	ロシア語を読む・書く・聞く・話すの四技能の基本を習得することを目的とする講義。ロシア語の基本的な文法と会話表現を習得する。辞書を引きながら、簡単な文章を読解できるレベルを目指す。また、ロシア語の基礎を学びながら、ロシアの文化や歴史、現状について基本知識を身につける。予備知識は必要としない。	
基礎科目群	言語科目	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰで学んだ技法を発展させるために、初級文法を確認しながら、中級文法・会話表現を学ぶ。ロシア語を読むのに必要な基本文法を習得しおえ、新聞程度の文章を、辞書を用いながら読めるレベルを目指す。	
基礎科目群	言語科目	スペイン語Ⅰ	講義形式でテキストに添って進行する。各課の文法事項を説明、練習すると同時に、関連する会話表現の練習をする。一応の文法事項をテキストに添って講義形式で学んだ後に、短編等を演習形式で読む。	
基礎科目群	言語科目	スペイン語Ⅱ	文法や語彙力を磨き、スペイン語のリーディング技能を学ぶ。ここでは、スペインの伝統文化であるいくつかの「祭り」に関して書かれた文章を読みながら、スペイン語の読解力を修得していく。辞書を使いすぐに不明な語や表現を探すことができるように辞書を引くことを習慣づける。	
基礎科目群	言語科目	イタリア語Ⅰ	イタリア語の聞く・話す・読み・書きの基礎をひととおり習得する。その目標は、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解、基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的応答表現の理解、基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識の把握、動詞の基本的な活用の修得である。また、語学学習に加えて、イタリア文化の紹介を適宜おこない、異文化理解の感性を磨く。	
基礎科目群	言語科目	イタリア語Ⅱ	聞く・書く・読む・話すといった全方位的な運用能力の面で、初級イタリア語の基礎知識を補強する総合的な中級講座である。その目標は、日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できること、日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができること、簡単な会話を聞いて内容を理解できること、基本的な文法知識を全般的に理解していることである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	言語科目	アラビア語Ⅰ	アラビア語は、中東や北アフリカを中心とする20カ国以上の公用語であり、世界中の使用者は２億人以上である。また、イスラームの聖典『クルアーン（コーラン）』の言語として、イスラーム文明の歴史において多大な役割を果たしてきた。本講義では、アラビア文字の読み書きと正則文語アラビア語の基礎文法、日常会話に必須の語彙や挨拶や感謝の表現を身に付ける。その上で、辞書を用いて文章を独力で読解する能力と、基本的な作文・会話能力を習得することを目標とする。	
基礎科目群	言語科目	アラビア語Ⅱ	本講義はアラビア語既習1年以上の者を対象とし、簡単な新聞記事にはじまり小説まで読めるようになることを目標とする。アラビア語は、千年以上の長い伝統と豊かな古典の蓄積を持つ言語である。本講義では、受講者の要望を考慮しつつ、古典から現代文にいたる幅広いテキストを読み解いていく。アラビア語文章の精読に取り組むことで、アラビア語の運用能力を高めるとともに、テキストの背景にある中東の文化・社会・歴史などを見ていく。	
基礎科目群	言語科目	ギリシャ語Ⅰ	西洋文化の根元的理解の鍵となる古典ギリシア語について、その文法を全くの基礎より始めて、初歩的な原典講読において必要となる文法事項を一年間でひととおり修得することを目標とする。具体的には、古典ギリシア語初等文法の教科書をテキストとして用いて、文字や発音・アクセント等から順次、各課ごとの変化形や文法事項の説明を理解し、練習問題を解くことが学習の実質をなす。従って出席者には予習として必ず各課の説明を熟読した上で練習問題を解いてくることが求められる。	
基礎科目群	言語科目	ラテン語Ⅰ	西洋文化を理解する上での鍵となるラテン語について、その文法をまったくの基礎より始めて、初歩的な原典講読において必要となる文法事項を一年間でひととおり修得することを目標とする。具体的には、ラテン語初等文法の教科書をテキストとして用いて、文字や発音・アクセント等から順次、各課ごとの変化形や文法事項の説明を理解し、練習問題を解くことが学習の実質をなす。従って出席者には予習として必ず各課の説明を熟読した上で練習問題を解いてくることが求められる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	微分積分Ⅰ	１変数関数の微分法、積分法について講義を行う。具体的な内容は以下の通りである。１．数列の極限、実数の連続性　２．関数の極限、連続関数、中間値の定理　３．初等関数　４．微分（定義、導関数の計算公式、高階導関数）　５．平均値の定理、テイラー展開　６．微分の応用（関数の極値と凹凸）　７．不定積分（定義、置換積分、部分積分）　８．定積分（定義、置換積分、部分積分）、微分積分学の基本定理　９．広義積分　１０．積分の応用（面積、曲線の長さ）	
基礎科目群	理系共通基礎科目	線形代数Ⅰ	ベクトル空間、線型変換、連立１次方程式の解法、行列、行列式、クラメールの公式などを含む線型代数の入門講義である。具体的な内容は以下の通りである。１．空間ベクトルとｎ次元ベクトル　２．線型変換　３．行列（定義、演算）　４．連立１次方程式の解法（はき出し法）　５．逆行列とベクトルの一次独立　６．行列の階数と正則行列　７．行列式の定義　８．行列式の性質　９．行列の積の行列式　１０．余因数展開　１１．クラメールの公式	
基礎科目群	理系共通基礎科目	微分積分Ⅱ	多変数（主として２変数）の微分法、積分法に関する講義を行う。具体的な内容は以下の通りである。１変数関数の微分法、積分法では現れなかった偏微分や重積分を学ぶ。１．点集合（開集合、閉集合、境界）、点列の極限　２．多変数関数の極限と連続性　３．偏微分（定義、高階偏導関数、偏微分の順序、合成関数の偏微分、テイラー展開）　４．偏微分の応用　５．陰関数　６．重積分（定義、累次積分）　７．重積分における変数変換　８．広義重積分　９．重積分の応用（面積、体積、表面積）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	線形代数Ⅱ	「線形代数Ⅰ」に引き続き、抽象ベクトル空間や内積空間の概念を含む線型代数の基礎理論を学ぶ。具体的な内容は以下の通りである。１．部分空間と次元　２．（抽象）ベクトル空間の定義と実例　３．基底の変換と変換行列　４．線型変換と基底の変換　５．ｎ次元ユークリッド空間と内積　６．直交性と正規直交基底、グラム・シュミットの直交化　７．転置行列　８．直交変換と直交行列　９．固有値と固有ベクトル　１０．対称行列の対角化　１１．二次形式の標準形	
基礎科目群	理系共通基礎科目	微分積分Ⅲ	「微分積分Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容を前提として、さらに進んだ微分積分について講義する。具体的な内容は以下の通りである。１．無限級数　２．関数列と関数項級数の一様収束、項別微分、項別積分　３．べき級数　４．積分記号下の微分積分　５．ベクトル値関数の微積分　６．スカラー場の勾配、ベクトル場の発散、ベクトル場の回転　７．曲線と曲面　８．ベクトル場とスカラー場の線積分　９．グリーンの公式　１０．ベクトル場とスカラー場の面積分　１１．ガウスの発散定理　１２．ストークスの定理	
基礎科目群	理系共通基礎科目	線形代数Ⅲ	「線形代数Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容を前提として、さらに進んだ線型代数について講義する。行列のジョルダン標準形についての詳しい解説が中心となる。具体的な内容は以下の通りである。１．固有値と固有ベクトル　２．固有空間　３．一般化された固有空間　４．固有空間への分解　５．ジョルダンの標準形と最小多項式　６．エルミート行列　７．ユニタリ行列　８．正規行列と対角化可能性　９．二次形式とその標準形　１０．双対空間　１１．有限体とその上のベクトル空間	
基礎科目群	理系共通基礎科目	解析入門I	物理学や工学などに現れる現象の多くは微分方程式で記述される。この講義では、基本的な常微分方程式の考え方、解法、基礎理論を学ぶことを目標とする。具体的な内容は以下の通りである。１．微分方程式の一般解と特殊解　２．求積法で解ける１階微分方程式（変数分離形、同次形、完全微分方程式、１階線型微分方程式）　３．２階線型微分方程式　４．定数係数の２階線型微分方程式と連立微分方程式の解法　５．ラプラス変換と逆変換　６．ラプラス変換の常微分方程式への応用　７．初期値問題の解の存在と一意性定理と線型常微分方程式　８．微分方程式の数値解法	
基礎科目群	理系共通基礎科目	解析入門Ⅱ	自然科学や工学などの多方面に応用の広い複素関数論の基本的事項を講義する。具体的な内容は以下の通りである。１．複素数と複素平面　２．ベクトル解析の基礎　３．複素変数の初等関数　４．正則関数とコーシー・リーマンの方程式　５．複素積分とコーシーの積分定理　６．コーシーの積分公式　７．複素関数項の級数、べき級数　８．テイラー展開　９．正則関数の基本的な性質　１０．有理型関数とローラン級数　１１．孤立特異点、留数と留数定理　１２．留数定理を用いた定積分の計算	
基礎科目群	理系共通基礎科目	確率統計	自然や社会の現象には偶然に支配されているとみなされるものがいろいろあり、程度の違いこそあれ、むしろ不確定な事柄の方が多い。そこで、そういった事柄を扱う数学的考え方を学ぶことは非常に重要である。確率統計は特に保険（リスク管理）、数理ファイナンス、制御工学、気象学、ＯＲ、統計物理学など、多くの分野に直接的応用が見出される。この科目では、確率統計学の基本的考え方を重要なモデルを理解することによって学び、いくつかの応用例も扱いたい。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	離散数学入門	離散数学は、有限の対象を扱う学問であり、計算機の理論的基礎とも密接に関連している。数学以外への応用も非常に多いこの分野について、初心者向けに解説を行うのがこの講義の目標である。具体的な内容は以下の通りである。１．順列・組合わせ　２．母関数　３．スターリング数　４．ポリアの数え上げ理論　５．ラムゼイの定理　６．マッチング（安定結婚）　７．マッチング（最大マッチング）　８．ネットワークフロー　９．ハミルトン路、オイラー路　１０．平面と４色定理	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	応用数理概論I	フーリエ解析（フーリエ級数およびフーリエ変換）の基本的事項を解説し、その応用として、基本的な偏微分方程式の解法について講義する。具体的な内容は以下の通りである。１．フーリエ級数　２．フーリエ変換　３．特殊関数（ルジャンドル関数、ベッセル関数）　４．直交関数系とスツルム・リューヴィルの固有値問題　５．１次元熱方程式　６．１次元波動方程式、ダランベールの解　７．２次元ラプラス方程式、ポアソンの積分公式	
基礎科目群	理系共通基礎科目	基礎微分積分	微分積分の基礎理論を講義する。高校で微分積分を学ぶ機会のなかった文系の学生にも、微分積分の基本的事項とそれがどのように応用されるかが理解できるようになることを目的とする。具体的な内容は以下の通りである。１．数列とその極限　２．関数の極限　３．連続関数　４．初等関数（有理関数、無理関数、指数関数、対数関数、孤度法と三角関数）　５．微分の定義、導関数の計算　６．平均値の定理、テイラー展開　７．微分の応用（関数の極値と凹凸）　８．不定積分の定義と計算　９．定積分の定義と計算　１０．積分の応用	
基礎科目群	理系共通基礎科目	基礎線形代数	線型代数の基礎理論を講義する。行列の初歩から出発し､行列の対角化を目標にする。特に、２次元と３次元のベクトル、行列を例にとりながら平面・立体幾何と関連させつつ学ぶ。２次元と３次元空間のベクトル、直線、平面、行列、行列の乗法、連立１次方程式、行列の階数、行列式、クラメールの公式、線型空間と線型写像、内積、正規直交基底、グラム・シュミットの直交化、直交行列などを含む。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	教養基礎物理Ⅰ	ニュートン力学の体系的な学習を通じて物理学の基礎を理解することを目的とする。本講義では高等学校で物理を学習済であることを前提とする。ベクトルや初等微積分などの復習からはじめ、質点の力学、運動の法則、運動とエネルギー、振動および相対運動、角運動量、質点系の力学などを、必要となる数学をあわせて学ぶ。本講義の内容は教養基礎物理IIに引き継がれる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	教養基礎物理Ⅱ	ニュートン力学の体系的な学習を通じて物理学の基礎を理解することを目的とする。教養基礎物理Iにつながる内容として、剛体のつり合い、慣性モーメント、剛体の運動、弾性体・流体力学、および波動現象などをとりあげ、さまざまな物質や現象を物理的に取り扱うための基礎と、その数学的な取り扱い方法を学ぶ。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	初等物理Ⅰ	高校で物理を履修していない理工系学生を対象とし、ニュートン力学、特に質点の力学の体系的な講義を通じ物理学の基礎の理解を図る。 物理学は、理工系の全ての専門分野の研究の基礎となる。本講義では、ニュートン力学を基礎として質点の力学を学ぶとともに、ベクトル、微分、積分を用いた論理的な思考を習得することを目的とする。本講義でカバーする範囲は高校の物理と重複するがその復習では無く、ベクトル、微分・積分を用いた解析が中心になる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	初等物理Ⅱ	高校で物理を履修していない理工系学生を対象とし、初等物理Ⅰの内容を引き継いだニュートン力学（剛体の運動、弾性体、波動など）の体系的な講義を通じ、物理学の基礎の理解を図る。 本講義の理解には初等物理　Ⅰ　の内容が不可欠である。剛体の運動、弾性体、波動現象などを対象に、質点の力学で学んだ力学概念を更に発展させ、身近な物質や現象を物理学的に取り扱うための基本概念を理解し習得することを目的とする。あわせて必要となる基礎的な数学とそれを適用する手法を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	専門基礎物理Ⅰ	「基礎物理I」は、「教養基礎物理I、II」で学んだ力学とともに物理学の主要な基礎的科目のひとつである電磁気学を対象とする。静電場、電位、導体、電流、静磁場、電磁誘導などを学び、マクスウェル方程式とその解である電磁波に至る。電磁気学を理解するために必要となる数学についても講義の中で必要に応じて解説する。また必要に応じて、理解度を深めるために問題を解くレポート、中間試験などを課す。教養基礎物理I、 IIを履修していることが望ましい。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	専門基礎物理Ⅱ	専門基礎物理Iに引き続き、古典物理学の重要な柱の一つである熱力学と気体分子運動論、統計力学の概要、ならびに現代物理学への入門として、量子論および量子力学の基本概念を学ぶ。具体的な内容は、温度と熱、気体分子運動論、熱力学の諸法則、熱力学の応用、統計力学の基礎、量子論と量子力学入門など。理解を助けるために問題を解くレポート、中間試験などを課す。教養基礎物理I、IIを履修していることが望ましい。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	物理学概説Ⅰ	物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問の一つであり、その成果や手法が自然科学の他の分野や工学に広く応用される。我々が日常体験する様々な現象を理解するためにも、物理学の知識が必要である。「物理学概説I、II」では、力学、電磁気学を初めとする物理学全般を体系的に学び、物理学の基礎知識を総合的に身につけることをめざす。「物理学概説I」の内容は、運動の法則、質点の力学、連続体の力学、波動、熱力学基礎をカバーする。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	物理学概説Ⅱ	物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問の一つであり、その成果や手法が自然科学の他の分野や工学に広く応用される。我々が日常体験する様々な現象を理解するためにも、物理学の知識が必要である。「物理学概説I、II」では、力学、電磁気学を初めとする物理学全般を体系的に学び、物理学の基礎知識を総合的に身につけることをめざす。「物理学概説II」の内容は、電磁気学を中心に、現代物理学（統計力学基礎、量子論基礎等）をカバーする。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	物理通論Ⅰ	日常生活や自然界で見られる現象を物理的な観点で理解することを学び、物理的なものの考え方を養うことを目的とする。そして、巨視的（マクロ）な現象をとりあげて、そこに働いている物理法則を理解し、それを応用する能力を身につけられるような講義をする。物理通論IとIIを通して受講することで基礎物理学の全体を一貫して学べるような内容としている。具体的には、力学を中心に、剛体、弾性体、波動までの基礎を講義する。高等学校で物理を履修した学生を対象とし、適宜レポート課題を課す。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	物理通論Ⅱ	日常生活や自然界で見られる現象を物理的な観点で理解することを学び、物理的なものの考え方を養うことを目的とする。そして、巨視的（マクロ）な現象をとりあげて、そこに働いている物理法則を理解し、それを応用する能力を身につけられるような講義をする。物理通論IとIIを通して受講することで基礎物理学の全体を一貫して学べるような内容としている。具体的には、熱力学、電磁気学を中心とした講義を行う。高等学校で物理を履修した学生を対象とし、適宜レポート課題を課す。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	物理学実験第一	物理学の基礎的な実験を行う。物理学の教科書に出てくる物理現象や物理量が、実際にはどの様にして観測され、測定されるのかを、自ら実験することによって体得する。したがって、基礎的な計器の扱い方、有効数字の扱い方、誤差の求め方などを修得することが大切である。内容：ノギスとマイクロメーター、オシロスコープ、重力加速度、ＣＲ回路の時定数、電気抵抗、弦の振動、電磁波、ニュートン環、分光計、光電効果等、パソコンと遊ぼう等。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	化学概説Ⅰ	有機化学の入門コースで、化学コース以外の学生を対象とする。有機化学は私達の生活に密接なかかわりをもっている。人のからだは主に有機化合物によって作られており、また私達の周りは有機化合物によって取り囲まれている。有機化合物は人類にとって必須であるが、一方、環境問題の原因になることもある。この講義の目的は、有機化学の基本を修得することによって、その社会的な応用と生体における機能を理解する素地をつくることにある。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	化学概説Ⅱ	無機、分析化学に関する入門コースで、化学コース以外の学生を対象とする。我々の周囲には、あらゆる化学物質が存在するが、その性質は構成する元素によって規定される。本講義では、無機元素及びその化合物に関する基本的な知識を深めることを目標とする。又、様々な物質中でそれぞれの元素がどれだけの濃度を示すかといったことは、その物質の性質や起源を知る上でも極めて重要である。こうした元素の濃度測定（定量）に必要な分析化学的手法についても触れる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目	一般化学Ⅰ	化学コース以外の学生向けのクラスである。原子・分子の構造および化学結合の性質に関する基本概念を習得することを目標とする。(1) 量子力学と原子構造（古典論の破綻・シュレディンガー方程式・一次元の箱の中の粒子・水素原子・多電子原子の電子配置と周期表）、(2) 化学結合（分子軌道法・水素分子イオン・水素分子・２原子分子・化学結合の方向性・混成軌道・多重結合・π電子近似・化学結合の種類・分子間相互作用）(3) 分子運動と分子スペクトル（分子運動のエネルギー・振動および回転スペクトル・電子スペクトル）	
基礎科目群	理系共通基礎科目	一般化学Ⅱ	化学コース以外の学生向けのクラスである。原子や分子の集合体の構造と性質（状態とその変化、化学平衡など）に関する基本概念を習得することを目標とする。(1) 固体の構造（結晶の対称性と空間格子他）　(2) 気体の性質と気体分子運動論（状態方程式、Boltzmann分布）　(3) 熱力学の基本法則（熱力学第一法則、熱力学第二法則）(4)化学反応速度論（反応速度式他）　(5)相平衡（相平衡と相律他）(6)化学平衡（化学平衡と平衡定数他）	
基礎科目群	理系共通基礎科目	化学実験	化学の基礎的な実験を行い、化学物質の基本的性質や法則および理論など化学の基礎知識に基づいて、化学物質の基本的取り扱いを学ぶ。化学物質をどのように合成、分離精製、同定、定量するか、またそれらの物性をどのように測定するのかを修得する。１：陽イオンのセミミクロ定性分析　２：容量分析　３：二成分系の相互溶解度　４：カルボン酸の活性炭への吸着　５：反応速度の測定　６：濃淡電池の起電力　７：ジアゾ化反応とアゾ染料の合成　８：天然有機化合物の抽出と生成　９：コンピュータ実習 オムニバス方式（全15回） （269 稲垣昭子，275 田岡万悟／1回） 全体説明，安全教育　他 （126 杉浦健一，127 竹川暢之，270 大浦泰嗣，271 久冨木志郎，376 三澤健太郎，371 芝本幸平，366 秋山和彦，372 白井直樹／5回） 定性分析，容量分析　他 （123 伊藤隆，128 野村琴広，125 清水敏夫，130 廣田耕志，277 三島正規，276 西長亨，274 佐藤総一，369 池谷鉄兵，373 末木俊輔，374 平林一徳，367 阿部拓也／4回） ジアゾ化反応，アゾ染料，天然有機化合物　他 （124 菊地耕一，129 波田雅彦，273 兒玉健，272 好村滋行，370 川端庸平，375 松本淳，368 阿部穣里／5回） 相互溶解度，吸着，反応速度，電池，コンピュータ実習　他	オムニバス方式、一部共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	一般生物学Ⅰ	高等学校で生物を未履修の学生を対象に、生物学全般について、身近で具体的な例を多くあげながら、その一方で最新の研究成果にも一部触れつつ平易に解説する。 オムニバス方式（全15回） （133 加藤潤一／８回） 遺伝子の構造、染色体の複製機構、遺伝子の発現機構　他 （137 村上哲明／７回） マクロレベルでみた生命、系統進化、性の進化的意義、種とは何か　他 オムニバス方式（全15回） （287 春田伸／８回） 細胞の構造、遺伝の仕組み、タンパク質の働き　他 （282 鐘ヶ江健／７回） 植物の環境応答、植物の光反応、花成誘導　他	オムニバス方式
基礎科目群	理系共通基礎科目	一般生物学Ⅱ	本講義は，高等学校で生物が未履修の学生を対象とする。本講義では、生物の行動やその物質的基盤について学ぶことを通じて、生命への関心を深め、その仕組みについて洞察する力を養う。まず，動物の神経系の機能と役割を概説し，本能行動や獲得行動が神経系により支配される仕組みの基礎，および，動物と環境とのかかわりについて習得する。さらに，生命の基本物質であるDNA,RNA,タンパク質の構造や機能の基礎的な知見を概説するとともに、生物の基本単位である細胞の成り立ちなどについて解説する。 オムニバス方式（全15回） （284 坂井貴臣／８回） 動物の神経系の機能と役割、本能行動および獲得行動、神経系、動物と環境とのかかわり　他 （132 岡本龍史・７回） 核酸の構造と機能、タンパク質の構造と機能、細胞の成り立ち　他	オムニバス方式
基礎科目群	理系共通基礎科目	生物学実験入門１	夏期休業期間に集中で実施する、生命科学コース以外の学生を対象とした生物学に関する実習であり、生物の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いを習得させる。 生物学実験入門２とともに、生物の取り扱いに習熟し、生物学の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いの習得を目標とする。生物学実験入門1では以下のような課題についての実習を行う。 オムニバス方式（全７回） (382 古川聡子／１回）顕微鏡使用法の基礎 (137 村上哲明／１回）細胞含有物の観察 (282 鐘ヶ江健／１回）細胞分裂の観察 (136 林文男／１回）キャンパスの自然；系統学の基礎 (379 加藤英寿／１回）キャンパスの自然；生態学の基礎 (377 淺田明子／１回）カエルの解剖 (132 岡本龍史／１回）まとめ	オムニバス方式 集中
基礎科目群	理系共通基礎科目	生物学実験入門２	夏期休業期間に集中で実施する、生命科学コース以外の学生を対象とした生物学に関する実習であり、生物の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いを習得させる。 生物学実験入門２とともに、生物の取り扱いに習熟し、生物学の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いの習得を目標とする。生物学実験入門1では以下のような課題についての実習を行う。 オムニバス方式（全７回） (134 川原裕之／１回）薄層クロマトグラフィーによる物質の分離 (380斎藤太郎／１回）タンパク質の分離・定量 (383 横田直人／１回）酵素反応の解析 (378 朝野維起／１回）プラスミドDNAの解析 (284 坂井貴臣（H32まで128 相垣敏郎）／１回）ショウジョウバエの交配 (281 角川洋子／１回）コンピューターによるデータ解析 (132 岡本龍史／１回）まとめ	オムニバス方式 集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目	生物学概説ⅠA	生命科学科以外の理学部の学生を主な対象として、生物学全般にわたり基礎的な考え方を概説する。教職課程の理科の免許を取得するために必要な科目でもある。 オムニバス方式（全15回） （279 江口克之／８回） 生物学的種概念、動物における種形成、動物の学名と分類体系、地理的分布　他 （280 得平茂樹／7回） 細胞の構造、解糖とエネルギー、光合成　他 オムニバス方式（全15回） （284 坂井貴臣（H32まで128 相垣敏郎）／７回） 細胞や組織の構造と機能、生物個体の生命現象　他 （133 加藤潤一／８回） 遺伝子の構造、染色体の複製機構、遺伝子の発現機構　他	オムニバス方式
基礎科目群	理系共通基礎科目	生物学概説ⅡA	生命科学科以外の理学部の学生を対象として、生物学全般にわたり基礎的な考え方を概説する。教職課程の、理科の免許を取得するための科目でもある。 なお、以下の教員はオムニバス方式で授業を行う。 オムニバス方式（全15回） （282 鐘ヶ江健／７回） 環境情報と形態形成、環境情報のセンシング機構、概日リズム　他 （286 髙橋文／８回） 生物の多様性と進化、遺伝の仕組み、遺伝子と染色体　他	一部オムニバス方式
基礎科目群	保健体育科目	身体運動学	大都市の生活環境に起因する運動不足や生活習慣病への対応を含め、心身ともに調和のとれた全人的な人間として健康的で豊かな学生生活を送るために必要な、身体、身体運動、スポーツ文化に関する基礎的な「身体の教養」への理解を深めることを目的とする。内容として、正しいダイエット法や性行為感染症（STD)の啓発、トレーニング理論など、生涯にわたって健康的な運動・スポーツ生活を実践していくために必要な基礎的理論を学習することによって、総合的な「理論知」の習得を目指す。	
基礎科目群	保健体育科目	身体運動演習	身体運動に関する基礎的な理論の習得と並行して、その理論を演繹的に、かつ実践的に学習していくことを目的とする。学生たちが自己の身体や運動能力を測定して身体データ情報の分析・解釈を行うことによって、自分自身の課題を発見しそれらを解決していくために主体的に運動・スポーツ実践を行えるように配慮することを主眼とする。運動と栄養、コンディショニング、トレーニングの理論と実際など、理論と実践の統合的学習によって、身体運動学の応用的・演繹的な「実践知」の習得を目指す。	
基礎科目群	保健体育科目	スポーツ実習	学生たちが自らの身体に関する実験や運動・スポーツを実践することによって、実際的状況から問題を発見し、それらを解決する理論を体験的に学ぶ課題解決型の実習を行うことを目的とする。内容として、生涯スポーツ実践、コンディショニング設計、健康栄養実習、トレーニング設計などを含め、学内・学外において学生たち自らのニーズに応じて、自主的、実践的に健康的な運動・スポーツ活動を行うことによって獲得する実践知や体験知をもとに、それらを体系立て理論的に総合化し、帰納的な「身体知」の習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	キャリア教育科目	キャリア形成	日本の雇用・労働システムについて既存研究にもとづく基本的な知識を習得する。具体的には大学在学時の就職活動から入職後の組織適応といった初期キャリア、就職後の企業内外における職業能力の開発、仕事からの引退プロセスといった論点に加え、賃金、解雇・退職といった論点に関する講義を行う。これにより学生たちが、就職から退職までの日本の雇用・労働システムのあり方について理解し、大学を卒業したあとの将来のキャリア形成について、大学在学中に適切に構想するための基礎を構築することを目指す。	
基礎科目群	キャリア教育科目	キャリア形成演習	日本の雇用・労働システムについてワークショップやクラス討論を用いた双方向形式の講義を行う。これを通じ、職業生涯におけるキャリア形成の様々な場面で遭遇する問題の解決にあたり、雇用・労働に関する基本的な知識を活用しながら、状況を適切に評価して意志決定できるようになることを目指す。また、キャリア形成に関する周囲の人々の考えから、自分の考えを批判的に内省してよりよいものに修正できることや、キャリア形成に関する自分の考えを他者に理解できるよう説明して、他者が考えを修正することに貢献できるようになることも目指す。	
基盤科目群	キャリア教育科目	学びのデザイン：理論と実践	職場や家庭など公教育以外の場を含む学習・教育の理論を学び、それを学生自身が実践できるようになることを目的とした授業である。学習成果として、第一に自らの環境や動機に合わせた学習計画を立てられるようになること、第二に、学生が興味関心を持つことを題材に効果的な教授設計ができるようになることを達成する。具体的には、インストラクショナルデザイン、学習環境デザイン、自己調整学習、成人学習等の諸理論を学び、それに基づいたテスト・教材・授業案を設計・開発する。	
基礎科目群	キャリア教育科目	現場体験型インターンシップ	さまざまな課題を抱える大都市東京での現場体験を通じて、大学生活の早い時期に自分自身及び社会の課題についての認識を深め、課題に主体的に取り組む意識と責任感、社会人として必要な基礎的コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。単位修得に当たっては、事前学習への出席及び実習先に関する事前調査シートの提出、夏季休業期間中に行う実働5日以上10日以内の職場実習及び実習録・成果報告書の提出を必要とする。	実験・実習40時間 講義21時間
基礎科目群	キャリア教育科目	国際交流概論	この授業では、国際交流や異文化との接触・理解についての理論と事例研究を学び、国際的に人が交流する場で起こりうる文化や言語の問題について考え、在学中の留学ならびに将来の海外訪問・滞在に役立つ能力を身につけることを目的とする。 オムニバス方式（全15回） （206 助川泰彦／5回） 在留外国人の文化接触、異文化体験と外国語の習得　他 （361 岡村郁子／5回） 留学とキャリア形成、危機管理　他 （362 小柳志津／5回） 海外滞在と心理的影響、文化規範　他	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	アジア・アフリカ社会論	本授業では、毎年度、授業担当者の問題関心やフィールドワーク経験をふまえ、アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパなど世界各地の人間社会がかかえる現実的諸問題を主要なテーマとしてとりあげ、多角的な視点から解説・議論することをねらいとしている。文化・社会人類学の授業科目とは異なり、学説史や理論の習得ではなく、個別具体的な事例の紹介や異文化理解の実践に重点を置き、フィールドワークや民族誌的資料の重要性を知ることを目標としている。 オムニバス方式（全15回） （3 綾部真雄／4回）フィールドから/フィールドへ　他 （37 田沼幸子／4回）映像を撮る　他 （43 深山直子／3回）先住民運動を考える　他 （29 石田慎一郎／4回）諍いを考える　他	オムニバス方式
教養科目群	都市・社会・環境	社会と福祉	社会福祉とは何か、社会福祉の生成・展開について学んだ上で、現実にわれわれの身の回りで生起している事象（貧困問題の諸相、障がいとともに自分らしく生きるとは、子どもの育ちと福祉、社会福祉サービス利用者の権利は保障されているか等）をとりあげつつ、社会福祉を利用する人びとの視点から、社会福祉の現状と課題について考える。	隔年
教養科目群	都市・社会・環境	生活と福祉	現代日本人の日々の生活とも関係するさまざまな社会問題を、社会福祉の観点から取り上げながら、社会福祉のあり方について考える。開講年度ごとに、取り上げる中心的テーマを設定する。現代社会における社会福祉に関わる諸問題への理解とともに、社会福祉の基本的な考え方の習得を目指す。	隔年
教養科目群	都市・社会・環境	情報社会と法	今日の情報通信技術（ICT）の急速な発展は、われわれの生活、経済、社会制度に大きな影響を与えている。これに伴い、従来とは性質の異なる新たな問題も多く発生し、法的な対応も迫られるに至っている。本講義は、情報化の進展によって発生した問題をいくつか取り上げ、その現状とそれに対する法制度について概略する。ICTの急速な発展に伴って発生した具体的な問題状況を把握するとともに、それに対して、法がどのように対応しているのか、また、今後いかなる対応が必要なのか、法制度の現状と法的論点について理解を深めることを目的とする。	
教養科目群	都市・社会・環境	日本国憲法	日本国憲法を基礎付ける原理・概念，日本国憲法が採用する原理・立場，そして実際の国政ないし判例においてかかる原理・概念がどのように解釈・運用されているかについて講義を行う。日本国憲法を基礎付ける原理・概念および日本国憲法が採用する原理・立場の理解を前提に，実際の国政ないし判例においてかかる原理がどのように解釈・運用されているかについての基本的な理解を得ることを目標とする。法学系推奨科目としても開講する。	
教養科目群	都市・社会・環境	都庁の仕組みと仕事	毎回異なる東京都の実務担当者を招き、都政が直面する課題やそれに対する所属部局の施策について、学部学生向けに具体的に説明してもらう講義である。東京都をはじめとする自治体の職員を志望する学生に、都政や自治の現場が抱える課題を認識してもらうと同時に、関連する専門教育科目の理解を深めてもらうことを目的とする。具体的内容については、様々な専攻の学生が理解できるように、依頼する部局とテーマを調整する。授業運営と成績評価は、法学科政治学コースの担当教員が行う。	
教養科目群	都市・社会・環境	官庁の仕組みと仕事	毎回異なる中央府省の職員（東京都立大学・首都大学東京の卒業生）を招き、各府省が直面する課題や所属部局の施策について、学部学生向けに具体的に説明してもらう講義である。将来、国家公務員を志望する学生に、府省の現場が抱える課題を認識してもらうと同時に、関連する専門教育科目の理解を深めてもらうことを目的とする。具体的内容については、様々な専攻の学生が理解できるように、外部講師とテーマを調整する。授業運営と成績評価は、法学科政治学コースの担当教員が行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	生態と環境	In this course, we will explore the biological and non-biological components of environments, with the goal of understanding how these influence the distribution, abundance, and activity of organisms. We will also consider the role of individuals to population and communities. この講義では、生物学的および非生物学的な環境構成要素について理解を深めることを主な目的とする。さらに、それらが様々な生物の分布・豊富さ・活動にどのように影響を及ぼすか、理解する。	
教養科目群	都市・社会・環境	動物の生態と多様性	It is extremely important that we understand and conserve biological diversity. Three main topics in the class are 1) Diversity of species in animals and processes of diversification. 2) Origin of animals, characteristics in major animal phyla. 3) Relationship between environment on earth and geographical distribution of animals. 多様性を理解し保全することは重要な課題である。この講義では主に、①動物の種多様性とそれを生み出すプロセス、②動物の起源、動物界の主要な系統群の形態学的、生態学的特徴、③地球環境の変動と動物の地理的分布の関係について解説する。	
教養科目群	都市・社会・環境	自然と社会と文化	東京都には、広大な海洋とそこに点在する多数の特徴的な島々がある。たとえば伊豆大島は三原山をはじめとする豊かな自然と美しい海洋環境を持つとともに、長い歴史と特徴ある民俗・文化を有している。本講義の中心は伊豆大島、八丈島、小笠原などの学外をキャンパスとして集中形式で実施され、都市と島嶼を対比させながら社会・文化、民俗、歴史を実地に見聞し、観察、調査、体験しその特徴を理解するとともに、海洋、火山を中心とした自然環境とそこに生きる生物の観察を通して地球と生命の歴史への理解を深める。	集中
教養科目群	都市・社会・環境	都市政策科学概論	東京を含めた現代の都市が直面する環境，高齢化・健康・福祉，産業，防災，多様な人々の共生等の多様な都市問題を，理論的に接近し実践的に解決していくための考え方である「都市に関する政策科学」について講義をする．具体的には，制度，空間，社会の3つの基本的視点それぞれの理論，現状，論点等に関して講義を行い，都市づくりに必要となる“プランニング力”の基礎的な知見の修得を目指す．	
教養科目群	都市・社会・環境	地域環境の人文地理	地域において自然環境と社会文化がどのように関わっているかを、日本の諸地方の実際の具体例に基づいて見ていく。その際、概念や定義や法則ではなく、自分自身の感覚で、疑問を持ち、積極的に工夫し、想像力や創造性を高めていくことを重視する。既成の観念にとらわれず、地理学的・地誌学的アプローチの幅を広げるような見方を習得することを目標とする。	
教養科目群	都市・社会・環境	都市空間の人文地理	東京大都市圏の事例を中心に、地方都市の事例も交えながら、さまざまな人文地理学的現象について概説する。それにより、１）現代の都市とそれを取り囲むさまざまな環境に対する思考を深めること、２）データの適切な解釈の仕方を身につけること、の２点を目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	都市の技術	（授業方針・テーマ）都市に関わる様々な問題の基本的な考え方と、そこに使われる技術や手法について、具体的な例も挙げながら講義する。都市問題の解決に関わる話題を幅広く提供するため、オムニバス方式の講義を行う。 （授業計画・内容：オムニバス方式／全15回） （293 石倉智樹/2回） 1.都市を考える （297 横山勝英/2回） 2.都市を育む （292 荒井康裕/2回） 3.都市を活かす （294 上野敦/1回，296 中村一史/1回，146 村越潤/1回） 4.都市を造る （298 吉嶺充俊/2回） 5.都市を支える （293 石倉智樹/1回，145 小根山裕之/1回） 6.都市を営む （298 吉嶺充俊/1回，295 小田義也/1回） 7.都市を守る	オムニバス方式
教養科目群	都市・社会・環境	エネルギー化学入門	大都市において重要な課題である環境問題ならびにエネルギーの在り方について，特に材料の観点から理解を深めさせる。持続可能社会の実現に向けた未来型エネルギーシステムの技術について解説する。代表的な未来型エネルギーシステムとして人工光合成，有機太陽電池，リチウム電池，燃料電池，バイオマス燃料等を取り上げ、その基礎原理を講義する。さらに，未来型エネルギーシステムに対する取り組みの現状，最新の研究成果ならびに課題を概説し，今後の展開について考える力を養う． オムニバス方式（全15回） （157 宍戸哲也／６回） 担当範囲：第１回．　講義ガイダンスならびに環境問題の概観 第２回．　エネルギー変換技術の概観 第１２回．　燃料電池の意義と問題点 第１３～１４回．　水素エネルギー利用のための水素製造法 第１５回．　まとめ （156 久保由治／３回） 担当範囲：第３～５回．有機太陽電池のしくみとこれから （159 高木慎介／３回） 担当範囲：第６回．太陽光エネルギーとエネルギー変換 第７～８回．光合成と人工光合成 （154 金村聖志／３回） 担当範囲：第９回．　蓄エネルギーシステムの意義と電池今昔物語 第１０回．　蓄電池の中味と電気化学反応 第１１回．　電池材料の最先端	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	環境調和化学入門	科学技術の進歩により人類の生活が豊かになった反面、さまざまな環境問題が起こるようになった。これらの課題を解決し、持続可能な社会を構築するためには、状況の正しい把握と化学的知見に基づく対応が必要になる。この講義では現在人類が直面しているさまざまな環境問題について地球化学的視点から解説する。また、都市における環境問題を、世界有数の大都市である東京を主な題材としてエネルギーと物質の観点から講義し、都市環境と調和した科学技術の発展を考える。 オムニバス方式（全15回） （304 加藤俊吾／8回） 担当範囲　：第1回～第7回　　ガイダンス、地球の姿、都市大気汚染、酸性雨、オゾン層、地球温暖化、海の化学 第15回　まとめ （303 梶原浩一／8回） 担当範囲　：　第8回～第14回　都市のエネルギー消費、物質とエネルギーのバランスシート、ごみ排出量、産業廃棄物と一般廃棄物、清掃工場と最終処分場、海外のエネルギー政策・リサイクル政策と現状、原子力発電、これからのエネルギー関連技術 第15回　まとめ	オムニバス方式、一部共同
教養科目群	都市・社会・環境	観光科学概論	学問としてのツーリズムの基本的理念と考え方・方法論を学ぶ。具体的には、ツーリズムは地域の自然や環境、あるいは歴史・文化・生活など、様々な資源を生かして展開されているため、自然環境資源や地域・都市の文化資源をツーリズム振興に適正に活用していくための方法について、時事問題や比較文化論も織り交ぜながら広範に論じる。本講義は都市環境学部自然・文化ツーリズムコースに所属する常勤教授・准教授がオムニバスで提供する。 オムニバス方式（全15回） （307 岡村祐／３回）　担当範囲　：第１回～第２回、第１５回 　ガイダンス／東京の歴史的・文化的観光資源／まとめと議論 （162 清水哲夫／２回）　担当範囲　：第３回～第４回 　観光とモビリティー／観光と地域経済 （160 川原　晋／２回）　担当範囲　：第５回～第６回 　観光とまちづくり：歴史的資源の活用／観光と都市空間：活動の舞台づくり （161 菊地俊夫／２回）　担当範囲　：第７回～第８回 　ユーカリの森の保全と適正利用／フードツーリズム （310 沼田真也／２回）　担当範囲　：第９回～第１０回 　自然ツーリズム入門：生態学の視点から／東京の世界遺産：小笠原 （308 倉田陽平／２回）　担当範囲　：第１１回～第１２回 　ゲーミフィケーションと観光／　旅行者自身が創り発信する観光 （309 直井岳人／２回）　担当範囲　：第１３回～第１４回 　観光地イメージを伝える情報／観光者が知覚する観光地イメージ	オムニバス方式
教養科目群	都市・社会・環境	社会と経営	グローバル化に伴う、企業間競争や雇用システムといった、新しい経営環境の変化について、その動向と諸問題を理解し、経済システムとしての企業変化が、私たちの社会システム(社会保障システムや国際関係等)に与える影響について学びます。特に情報技術、その応用と、社会システムの再編との関係に注目し、新しい動向を知ることで、就職やキャリアを考える為の基礎的な知識を習得を目指します。	
教養科目群	都市・社会・環境	特定社会活動	学生が（独）国際協力機構が実施する「青年海外協力隊」の派遣事業へ参加することにより、大都市をはじめ広く国内外で活躍する人材に成長し、さらに当該活動の経験により、学生が大学における学習を深め、学習への動機付けを強化することを目的としている。単位の認定にあたっては、担当教員による事前・事後研修及び実習報告書の審査を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	Tourism theories and practice	Tourism is a composite of people, resources and businesses, which provide tourists with experiences that cannot be sought in their daily lives and also entails various impacts on visited environments. This module aims to offer students a scientific perspective of tourism management. Students will be able to understand how to keep a good balance between tourism promotion and conservation with appropriate use of natural and cultural resources, transportation and information. 観光は人・資源・ビジネスの複合物であり、観光者に日常生活では求めることができない経験を提供するとともに、観光地に様々な影響をもたらす。この科目では、受講生に観光マネジメントへの科学的視点を提供する。この科目により、学生は、観光振興と、自然的・文化的資源、交通、情報の適切な使用による資源保護との、よいバランスを保つ方法を理解することができる。 オムニバス方式（全15回） （309 直井岳人／9回）　担当範囲　：第1回～第7回、第14回～第15回 1. ガイダンス／2. ツーリズムの定義と関連概念／3. ツーリズムの特徴／ 4. 観光需要／5. 観光資源とその特徴／6. 観光のまなざしの生成 7. 観光者による観光地評価の分析 14. 観光科学の貢献／15. 試験とまとめ （162 清水哲夫／1回）　担当範囲：8. 観光交通計画とマネジメント （160 川原　晋／1回）　担当範囲：9.　観光まちづくり （307 岡村　祐／1回）　担当範囲：10. 歴史的・文化的資源の保全と観光活用 （161 菊地俊夫／1回）　担当範囲：11. 観光における農村開発とマネジメント （310 沼田真也／1回）　担当範囲：12. 野生動物ツーリズムの可能性 （308 倉田陽平／1回）　担当範囲：13. モバイル通信のための観光情報サービスと観光行動分析	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	都市・社会・環境	多摩の里山学	本学が有する松木日向緑地を題材にして、〝里地里山の生態系〟、〝多摩の歴史〟、〝都市化の問題〟、〝生物多様性の保全〟、および〝環境資源の適正な利用と活用〟をキーワードとして、人と自然の関係、現在の環境問題、生物多様性の保全、および緑地空間の多機能性について知識を深め、大都市が抱える諸問題への応用や適応を図る機会とする。 オムニバス方式（全15回） （310 沼田真也／8回）　担当範囲　：第1回～第7回、第15回 （161 菊地俊夫／8回）　担当範囲　：第1回、第8回～第15回 01 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 02 多摩地域を中心とした里山の生物相の特徴等 03 本学緑地を散策しながらイモリ池などの見学や生物の観察等 04 緑地内の両生類個体群の長期的変遷と多摩地域におけるビオトープの保全や復元等 05 人類の定住化による居住地周辺の人関与生態系の形成 06 武蔵野の雑木林集落の里山と近世・近代都市の資源林 07 緑地観察：横穴墓探訪古墳時代の集落があった南大沢キャンパス 08 人間生活の変化にともなう里山の植生遷移 09 余暇空間としての里山の適正保全と管理 10 里山の地形と地質 11 暁町緑地保全地区において里山の保全管理を学ぶ 12 里山の生業と土壌のかかわり 13 現地観察：多摩丘陵の地形地質 14 成果報告会 15 まとめ	オムニバス方式、 一部共同 講義27時間 実験・実習3時間
教養科目群	文化・芸術・歴史	社会意識と社会構造	現代の都市社会においては人と人との身体的な接触よりも、メディアを介した情報の交換や相互作用が非常に大きな比重を占めるようになってきている。そのようなメディアやうわさが大衆の心理や様々な社会集団に与える影響とそれにともなって生じる様々な社会現象に対する理解は、都市社会を生きる現代人にとっては必須の教養といえる。この講義では社会学的なメディア研究の蓄積に関する基礎的な理解を深めた上で、現代社会における大衆心理とメディア現象を具体的な出来事を通じて理解していくことを目指していく。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	心の哲学	本講義は、心をめぐる哲学的諸問題の考察を通じて、私たちが日ごろ慣れ親しんでいる心というものが、実は重要な問題を含むものであることを知り、心の概念への理解を深めることを目的とする。そのためにまず、心身問題や他我問題のような典型的な問題を考察することを通して問題の所在を明確に把握することが必要となるが、講義ではそのようなテーマ的アプローチによる導入を行なうとともに、古代、中世、近世にわたって蓄積されてきた議論を踏まえ、過去の代表的な哲学者が心の問題をどのように捉え、また解答を与えてきたのかといった哲学史的観点からのアプローチを試みる。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	西洋古典学Ａ	西洋古典文学のうち、ギリシア文学の主要な作品について概説する。歴史的・文化的背景や後世への影響についても検討する。ギリシア文学の場合には、先行作品からの影響が極めて重要であるため、同一ジャンル内、またはジャンルを越えた先行作品の伝統の継承とそれに対する革新に注目する必要がある。授業では主に具体的な作品のテクストの翻訳を用いて、しばしば原典における表現（措辞・語法、修辞や文体など）の問題も含めて、その特質を解説することを主眼とする。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	文化・芸術・歴史	西洋古典学Ｂ	西洋古典文学のうち、ローマ文学（ラテン文学）の主要な作品について概説する。歴史的・文化的背景や後世への影響についても検討する。ラテン文学の場合には特にギリシア文化・文学からの影響が無視できぬ重要性を持つことから、しばしばギリシア文学とその伝統からの影響関係や、その中でのラテン文学の独自性という点に注目する必要がある。授業では主に具体的な作品のテクストの翻訳を用いて、しばしば原典における表現（措辞・語法、修辞や文体など）の問題も含めて、その特質を解説することを主眼とする。	隔年
教養科目群	文化・芸術・歴史	都市の歴史	都市は人類が社会的な生活を行うなかでつくられ、経済、政治の中心として機能した。この授業では、都市の形成・展開を日本と諸外国の事例を取り上げながらみていきたい。都市を分析するには、いろいろな学問の方法によるアプローチが可能である。文系の学問だけではなく、理系の学問、それに両者の融合によることもある。特にこの授業では、歴史学という学問の方法によって、都市を分析するとはどのようなことなのかということを念頭において講義する予定である。	隔年
教養科目群	文化・芸術・歴史	日本の歴史と社会・文化	日本の歴史について、担当する教員の専門とする時代に特有の研究視点や史料を踏まえながら、教養科目として学ぶべきテーマについて、実際の歴史研究の手法に触れながら、検討していくこととする。具体的には、政治･法律・経済や戦争など社会を検討する上で根幹となる歴史事象を対象として、研究の現状を確認した上で、各時代の社会のありかたや、それに基づいて形作られる文化的事象について、歴史学的な手法での見方を学ぶこととする。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	西洋の歴史と社会・文化	古代から現代にいたるヨーロッパの歴史について、政治や経済の変化だけでなく社会や文化の変容も視野に入れながら、古代・中世・近現代の時代の変化の歴史的意義を考察する。講義では、古代史・中世史・近現代史における具体的な歴史事象を取り上げながらヨーロッパ世界の形成と発展についての知識を提供するとともに、歴史的思考を習得することを目的とする。西洋史の基礎知識は事前にはとくに必要としないが、歴史学に関心を持って参加することを期待する。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	アジアの歴史と社会・文化	古代から中世・近世を経て近現代へと至るアジア社会の変化を、最新の歴史学の成果を踏まえながら、国際関係・政治・経済・人々の暮らし・思想・科学技術など多角的な視野から検討する。講義では具体的な歴史事象を取り上げ、アジア社会の形成と発展の歴史的展開を検討するとともに、現代のアジア社会との関係、その連続性と断絶の諸相についても考察する。アジア社会の歴史的展開に関する理解を深めるとともに、歴史的視野から現代社会を考察する力をつける。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	文明と歴史	古代から現代にいたる歴史を、文明をキーワードに追究していく。文明という言葉は、メソポタミア文明、エジプト文明、中央アジア文明、ギリシア文明、ローマ文明、西洋文明、イスラム文明、中国文明、日本文明、中央アメリカ文明など、古今各地の高度な文化に使用されるが、この講義では、これらの文明の中から特定の地域を時代を選び、そこに生きた人々の暮らしなどにもスポットをあてながら、当該地域の文明の特徴を抽出していく。	隔年
教養科目群	文化・芸術・歴史	歴史学入門	歴史学の入門講座として、実際に史料に基づき事実確認していく手法について学ぶこととする。その方法として、日本史・東洋史・西洋史の教員3人が、それぞれ専門とする日本近世史・イスラム地域史・西洋近現代史について、各時代や地域に特有の史料や視座を踏まえながら、実際の歴史研究のあり方を具体的に紹介し、検討していくこととする。 オムニバス方式(全15回) （77 谷口央／5回）日本史 （222 前田弘毅／5回）東洋史 （78 中嶋毅／5回）西洋史	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	文化・芸術・歴史	考古学入門	考古学研究に興味をもつ学生に対して、考古学の世界がどのようなものであるか、また考古学へ接近するために必要な基礎知識を提示することを目的とした講義である。講義は、パワーポイントやビデオなどの映像機器を用いて、ビジュアルに進行する。現在、世界の考古学研究では何が問題点となっているのかなど研究の最前線を示しながら、考古学の意義について伝える。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	日本語と日本文学Ａ	日本語を、音声・表記・語彙・文法など可能な限り多様な角度から概観する。年度ごとに設定したテーマに基づき、日本語という言語の特質と魅力を伝えていく。同時に、受講者が日本語学的な視点や発想法に触れる機会とする。扱うテーマとしては以下のようなものが挙げられる。「日本語のデザイン」「日本語の経済性（エコノミー）」「日本語のアート」など。	隔年
教養科目群	文化・芸術・歴史	日本語と日本文学Ｂ	日本古典文学、近現代文学の初歩的な紹介や概説を行って日本文学入門の性格をもたせながら、より専門的な研究に入るための基礎的な知識を講義する。古典文学においては古代神話・万葉集などを中心に、中古においては源氏物語や和歌集、中世文学においては戦記物語や能・狂言など、近世文学においては俳諧・浄瑠璃・歌舞伎・浮世草子・読本・人情本・漢詩文等、近現代文学においては小説・詩・評論等を基軸として、研究の現状や課題について、わかりやすく丁寧に紹介し、日本文学の魅力を伝えることに努める。	隔年
教養科目群	文化・芸術・歴史	アジアの言語と文化Ａ	中国の人々が築いてきた文化を概観する。伝統的・正統的文化はもちろん、各地域に根ざす民間習俗にも目を配る。さらに現代社会における文化の様相とその変容にも注意し、アクティブな知識が得られるように配慮する。具体的なテーマは、言語、文化、映像、演劇、音楽、儀礼、日常習慣、サブカルチャー、都市論など、多岐にわたる。 オムニバス方式（全15回） (62 大久保明男/5回)中国の文学、現代文化 (74 佐々木睦/5回)中国の演劇、映像、アニメ等サブカルチャー (208 荒木典子/5回)中国の言語	オムニバス方式
教養科目群	文化・芸術・歴史	アジアの言語と文化Ｂ	中国の言語と文化について深く学ぶためには、周縁にも目を向け、広い視野から比較文化学的学習をする必要がある。中国は多民族国家であり、モンゴル、チベット、ウイグル等の少数民族の文化に対する理解が欠かせない。また日本を含む周辺の国々の文化の相互比較を通じ、アジアの文化に対する深い知識を習得することを目標とする。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	英語圏の文化	本講義は、イギリスとアメリカを中心とした英語圏の文化に関する総合的・多角的な紹介を行う入門講座である。歴史、文学、美術、映画、音楽などを題材として取り上げながら、つねに文化と社会を相対化できる複眼的な思考と柔軟な精神の涵養を目指す。英語圏の文化の多面的諸相に関する概括的な知識を修得することを目的としつつ、受講生ひとりひとりが異文化理解のあり方について批判的かつ創造的な視座を養うことを目指していく。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	ドイツ語圏の文化	本講義は、ドイツ語圏の文化・歴史・社会の諸事象を取り上げ、それを時系列的に概観することにより、俯瞰的な視点からドイツ語圏文化の持つ多様性を紹介してゆくものである。ドイツ語圏の文化の持つ特性を明らかにすることを通して、受講生が自らが身を置く文化圏の文化・歴史・社会に対する外部からの視線をもって認識する能力を獲得するのを可能にすることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	文化・芸術・歴史	フランス語圏の文化	本講義は、フランスの社会・文化・歴史などを概観できる、フランスの多様な世界への道案内講義である。講義では、フランスに関する多様なテーマを取りあげながら、この国が培ってきた論理性、批評性、社交性、前衛性といった特質を浮き彫りにする。受講生がフランスの諸事象を考察し理解することで、社会的・文化的・歴史的な比較と分析を通じて、私たちが生きている日本の状況を新しい視点からとらえ直す能力を磨くことが目的である。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	文学概論	本講義のテーマは、アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・中国・日本の代表的な作家や作品（小説・詩・思想など）を鑑賞・分析することで「文学」のさまざまな特性と意義を明らかにすることである。また、「文学」の概括的な理解にとどまらず、作家論、読者論、表象論、文体論、修辞論、物語論、ジャンル論、翻訳論といった各論にも必要に応じて適宜言及される。 オムニバス方式（全15回） （219 西山雄二／３回）フランス語圏の文学 （215 近藤瑞木／３回）日本の文学 （74 佐々木睦／３回）中国の文学 （79 中村英男／３回）英語圏の文学 （224 山本潤／３回）ドイツ語圏の文学	オムニバス方式
教養科目群	文化・芸術・歴史	表象文化論基礎	表象文化論を学ぶにあたって基礎となる諸概念、および関連する具体的事例についての基礎的知識を習得する。表象文化論は、さまざまな芸術・文化現象を、関連する多様な理論的枠組を援用しつつ、複数の視点から読み解いてゆく学際的な研究分野である。この講義では、それら理論的概念の意味と価値とを、具体的な芸術・文化現象への応用を通じて理解するとともに、この学問分野において鍵となる視座、すなわち「制度」「権力」「身体」「メディア」など複数の角度から芸術・文化を捉えることの重要性を学習する。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	植物の多様性と進化	植物の多様性や進化について、系統進化学的な側面、集団遺伝学的な側面、送粉・繁殖生物学的な側面から解説する。前半では、特に被子植物の送粉様式や繁殖様式に着目しながら、花形態の多様化や雌雄性の分化との関連、繁殖システムの進化などについて紹介する。後半では。最近の遺伝子やDNAレベルでの解析から明らかになった内容も含めて、陸上植物の系統進化やその種多様性、分布、適応進化、さらには生物多様性の適切な保全などについて紹介する。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	進化生物学	地球上には様々な生物が見られ、それらが相互に複雑な関係を持ちながら暮らしている。こうした複雑な系は一瞬にして作られたわけではなく、進化によって形成されたものである。こうした進化という現象について、この講義では、以下の３点に重点をおいて説明する。生物の進化の基本となる遺伝のしくみを明らかにし、どうして突然変異が起こるのかを説明する。生物の進化のしくみとして、自然選択の作用の仕方を具体的に示す。生物は物理化学的環境だけでなく、生物の相互作用に対して進化することもある。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	科学史B	科学史Bは、古生物学や地質学の歴史を通して古代から現代にいたる科学の歴史を概観する。本講義を通じて、16世紀から現代にいたるそれぞれの時代で科学が社会の中でどのように位置づけられていたのか、また、それらの遷移を学ぶことにより、科学の歴史性の理解を深める。さらに、現在の社会における科学の位置付けやその重要性を理解することを目的とする。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	日本語と社会と文化	世界で日本語を第二言語・外国語として学んでいる学習者は360万人を超えている。第二言語・外国語としての日本語は、どのような特徴を持ち、言語政策と施策の上で、どのように扱われて、どのように教えられてきたのか、その変遷を探る。さらに日本語学習者の言葉の特徴、そこから分かる社会と文化について、紹介・議論していく。そして日本語教育や日本語でのコミュニケーションから、日本の社会・文化について考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	文化・芸術・歴史	Japanese Language and Society	日本語と社会との関係を方言や敬語、言語変化、言語政策といった観点から日本語の社会言語学を英語で学ぶコースである。4ヶ国語で書かれた教科書で次のようなテーマについて考える。江戸時代の小笠原諸島や明治時代の横浜、戦前の台湾などで言語接触が起きた結果どのような言語変種が誕生したか。空間及び時間の両方における言語変化（言語拡張）を見るために使われるグロットグラム調査とはどのようなものか。様々な依頼表現の丁寧さを母語話者にランク付けしてもらった時に、日本語よりも英語の方がどうしてバラつきが見られるか。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	The Japanese Language	英語による解説で、日本語の音韻論や形態論、意味論など日本語学の基礎的な知識を学ぶ。日本語の音韻体系や音配列規則、ピッチアクセントを調べる方法論を身につけてから、日本語自他動詞の対立や親族呼称といった体系的言語事象の分析方法を勉強する。この授業の特徴の一つは多数の言語を母語とする受講生が毎年いるので、グループディスカッションの時間に日本語とアジアやヨーロッパの諸言語との共通点や相違点を考えることで日本語の特徴を受講生自身が発見できる点にある。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	Global Mindset	This “Global Mindset” course gives you a vocabulary to describe differences and introduces a range of communication skills you can adapt according to the person, culture and situation. This course uses a systems view of communication that combines both a comparative and interpersonal approach to help you develop your global mindset. Students will gain knowledge of key cultural dimensions and communication styles and raise their awareness about their own and others’ preferences. この「グローバルマインドセット」の授業では、違いを記述する語彙を与え、人・文化・状況に応じて対応できるコミュニケーション能力範囲を紹介します。このコースは、あなたのグローバルな考え方を開発するための対比的で相互的アプローチを組み合わせたコミュニケーションのシステマチックな見方を使用します。学生は鍵となる文化的局面とコミュニケーションのスタイルに関する知識を獲得し、自分と他人の選好に関する認識を高めます。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	Intercultural Communication and Interaction	This class adopts several different approaches: The lectures will cover the basics theories of intercultural communication and cultural contacts from an interdisciplinary viewpoint. Your active participation in the discussions is required. Group project with members from different cultural backgrounds is the main tasks of this class. Each group investigates their chosen topic related to Japanese society using fieldwork, interviews and/or surveys. A final presentation in English will be expected.Collaborative online classes with universities overseas and/or group works with classmates will be conducted. このクラスでは、いくつかの異なるアプローチを採用しています。講義では、学際的な視点から、異文化コミュニケーションと異文化接触の基本理論をカバーします。議論に積極的な参加が必要です。異なる文化的背景を持つメンバーとグループを構成して行うプロジェクトは、このクラスの主要なタスクです。各グループは、フィールドワーク、インタビュー、アンケートを使用して日本の社会に関連する、選択したトピックを調査します。英語での最終プレゼンテーションが期待されます。海外の大学との協同のオンライン授業やクラスメートとグループワークを行います。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	文化・芸術・歴史	生活の心理学	現代社会で生じる様々な問題を考える上で、人間の「こころ」の働きを理解していく重要性が認識されている。本講義では、臨床心理学的知見に基づき、これらの現代社会における困難の在り方を理解し、それらに向けた対処法・解決法を考えていく。特に、大学生活における心理的課題や、自己と他者との相互作用における「こころ」の働き、人間関係の形成等に注目して講義を行う。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	心の科学	大学で初めて授業として受けるであろう「心理学」の入門のための講義である。「心理学」に関して、しばしば間違った先入観を持っている学生が多いので、「心理学」の科学性の理解を目指した授業を行う。そのためには、心理学のさまざまな領域があること、心理学および領域ごとに独自の科学的な研究法があることの理解が不可欠である。そこで、「知覚心理学」「認知心理学」「発達心理学」「社会心理学」「計量心理学」を代表とした科学的な手法で行われている心理学の各領域の基本的な事項を、それが得られた研究手法を含め、幅広く紹介する。	
教養科目群	文化・芸術・歴史	ことばの科学	ことばの仕組みについての理論的研究、行動研究、脳・神経科学的研究について学ぶ。普段使用している「ことば」には、気がついていない側面が数多くあることを知り、自然科学の枠組みでとらえて探求する方法論を理解する。ことばを科学的に分析する能力を習得し、事象への認知科学的・神経科学的なアプローチの仕方を身につける。言語の獲得と使用の根幹をなす理論とその生物学的な基盤について、自ら問題を立てて考察する力を養う。 オムニバス方式(全１５回) (5 小川定義／３回)言語の違いと共通点 (40 橋本龍一郎／２回)言語科学と脳科学 (42 原田なをみ／３回)文の構造と意味 (45 藤川直也／２回)ことばの意味、コミュニケーションの仕組み (47 保前文高／３回)援護獲得と脳科学、 (22 本間猛／２回)ことばの音の仕組み	オムニバス方式
教養科目群	生命・人間・健康	生命を支える化学物質	私たちの体の中では、生命を保つためにいろいろな活動（反応）が営まれている。本講義では、私たちのからだを構成している生体高分子（蛋白質、核酸など）について、その分子構造の観点から、機能発現のメカニズムを概説する。特にこれらの生体高分子が担っている様々な生命現象の中でも、生命の設計図が読み取られ、機能を担う蛋白質が設計図に従って合成される仕組み、さらにその設計図が正確にコピーされ、維持される仕組みや、細胞内での信号伝達の仕組みを紹介する。	
教養科目群	生命・人間・健康	現代社会・化学の役割	生命科学は物理・化学の視点から多くの研究が行われ発展し、今日では私たちの日常生活に最も密接に関連する科学の一つとなっている。本講義では遺伝情報メカニズムを支える分子とその機能について、「現代生命科学における化学の役割」という視点から議論する。地球上の生物が共通に持つこの遺伝情報メカニズムを化学の観点から学び、生命と非生命の境界や、地球上の生物とは異なる生命の可能性について議論を行う。また、現代の科学技術を代表する研究領域の一つである構造生物化学とその応用について、いくつかトピックを概説する。	
教養科目群	生命・人間・健康	細胞の世界	（英文）This course will provide students with concepts and definitions in cell biology to help understand how cells are organized, with emphasis on intracellular trafficking and signaling mechanism. （和訳）この授業では，個々の細胞がどのように構成され，細胞間で協調しているか学ぶ．あわせて細胞内輸送について学ぶ． オムニバス方式（全15回） （285 高鳥直士／８回） 細胞内の代謝，細胞骨格　他 （381 武尾里美／７回） 細胞間シグナル伝達，細胞内輸送　他	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	生命・人間・健康	ゲノム科学	本講義は，理系・文系を問わず高等学校で生物が未履修の学生も対象とするため，ゲノム科学の基礎的な知識から最新の研究成果まで幅広く概説する。地球上の生物はDNAの塩基配列にゲノム情報を貯え子孫に伝えており，ゲノム情報は生命活動の設計図として利用されている。本講義では，ゲノムについての基礎的知識および解析手法，さらにゲノムと社会生活とのかかわりについて解説し，近年急速に進行しているゲノム解析の意義を理解することを目的とする。 オムニバス方式（全15回） （135 田村浩一郎／７回） ゲノム・DNAとは，DNA・遺伝子・染色体の構造，細胞分裂，突然変異 他 （284 坂井貴臣／８回） ゲノム情報の医療への応用，遺伝暗号解読，遺伝子発現調節　他	オムニバス方式
教養科目群	生命・人間・健康	神経生物学	脳・神経系のつくりと働きについて、広く動物界全体の中でヒトを位置づけながら生理学的、情報科学的観点から概説する。 あらゆる動物は体内外の環境からの様々な情報を刺激として受容し、それに対して適確に反応する。また動物はよりよく生きるために様々な刺激を経験として記憶し、学習をする。この講義では、動物にとって必須の生命活動である刺激反応性と記憶・学習の基本的なメカニズムを理解するために、脳・神経系に関する基礎的知識を得た上で、様々な動物の研究から得られて来た神経生物学の知見を学ぶ。	
教養科目群	生命・人間・健康	人間生物学	Better health is central to human happiness and well-being. This course will provide students a foundation to understand human biology in health and disease to help them to make informed health decisions and develop critical thinking. Course format: combination of didactic lecture and student presentation 健康は幸せな生活を送るために不可欠である。この科目では、どのように私たちの体が健康に維持され、またなぜ病気になるのかについて理解するため、生物学的な基礎を学ぶ。健康に関連する情報を正確に理解・判断し、健康に関するよりよい決断ができるようになることを目的とする。形式は授業と学生による発表。	
教養科目群	生命・人間・健康	先端生命化学入門	進化する生命化学や21世紀の先進医療について講義する。生命化学や先進医療を支える材料化学、生物化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーについて系統的に学び、これら技術が遺伝子工学や細胞工学等で果たす役割について学ぶ。さらに、これら技術を基盤としたガン治療、遺伝子治療、人工臓器、再生医療等の先進医療を学び、これを実現する上での技術の重要性を理解する。また、先進医療で問題となる社会的倫理面についても議論する。	
教養科目群	生命・人間・健康	先端生命化学入門	進化する生命化学や21世紀の先進医療について講義する。生命化学や先進医療を支える材料化学、生物化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーについて系統的に学び、これら技術が遺伝子工学や細胞工学等で果たす役割について学ぶ。さらに、これら技術を基盤としたガン治療、遺伝子治療、人工臓器、再生医療等の先進医療を学び、これを実現する上での技術の重要性を理解する。また、先進医療で問題となる社会的倫理面についても議論する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	生命・人間・健康	スポーツ・健康と脳科学	生涯を通じて健康であるために、運動・スポーツの実践が有効であることは疑う余地がない。本講義では、運動・スポーツを習慣化するための基礎的素養の育成を目指し、身体のしくみや運動による健康増進効果などについて、生理学・神経科学・スポーツ科学など幅広い視点から講義し、以下の知識・能力の習得を目指す。 ①運動を行う身体のしくみや、身体の適応に関する基礎的知識を身につける。②身体活動、運動、スポーツの違いについて、述べることができる。③運動・スポーツを習慣化するために、主体的に考え、実践することができる。	
教養科目群	生命・人間・健康	エクササイズ科学	エクササイズ/フィットネス科学、そして健康のことについて興味を持ち、生体機能適応と神経-筋生理学を軸に学び、効率的に身体機能を向上させるための知識を得ることを目的とする。また、それらの知識や情報を用いてアスリートや各個人に適したエクササイズ・トレーニング方法を指導できる能力と初歩的な科学研究を計画・実施し、結果をまとめて発表できる能力を得られる。	
教養科目群	生命・人間・健康	健康スポーツ科学	スポーツや身体運動がもたらす健康の恩恵効果、つまり健康を維持・増進し病気を改善する効果が、どのような仕組みで生じるかを、医学・分子生物学・細胞遺伝学の視点から学ぶ。「運動は健康によい」という自身の経験と、これまで学んできた科学（数学、物理学、化学、生物学など）の知識が邂逅する知的興奮を楽しみながら、健康の維持・増進および生活習慣病の克服にスポーツや運動がいかに重要な役割を果たすかを学習できる。	
教養科目群	生命・人間・健康	健康の栄養学	多様化する生活環境の中で、個人が健康を維持するための適切な栄養素摂取について、栄養素の働きと欠乏や過剰が引きおこす問題を中心に講義する。また、集団としての栄養問題や遺伝的素因と栄養、栄養素供給の問題など、栄養をめぐる広範な問題を幅広い視野から考察するための基礎知識を身につける。	
教養科目群	生命・人間・健康	行動生理学	生体のホメオスタシス（恒常性）のしくみについて、自律神経系、内分泌系、免疫系の観点から学習し、それらの相互作用及び脳神経系との関連を理解する。また、さまざまな環境要因や刺激による行動変化、生理的・心理的変化、生体適応を制御する脳神経メカニズムについて学習するとともに、脳の可塑性、認知機能、精神疾患などに影響を与える要因として、身体的刺激（運動、生活習慣など）のみならず心理的・社会的刺激の作用についても理解する。これらの学習を通して、「バランスのとれたこころとからだの健康」を育む能力を養う。	
教養科目群	生命・人間・健康	生活習慣と栄養	健康と生活・食生活との関係について基本的な考え方を解説する。また、日々の食事をどのようにとったらよいのか、具体的・実践的な食事学について講義する。さらに、健康と社会との関わりについて理解することで、健康的な生活習慣をベースにした生涯にわたる健康づくりについて、理論と実践とを結びつけて考える力を養うことをねらう。	
教養科目群	生命・人間・健康	認知と行動	私達は外界環境を知覚・認知し、その情報をもとに行動する。運動や行動はそれらの情報処理過程を背景に営まれている。本講義では、知覚・認知情報処理の一般的特性、運動や行動との関連性について講義する。特に講義では、スポーツ熟練者やプロのエンターテイナーの認知行動的な卓越性の理解や，こころの発達や犯罪、ヒューマンエラーなど、社会の実際的な問題との関連性について解説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	生命・人間・健康	生体機能調節学	生体は複雑な調節機構を有している。その調節機構に関して、生体における恒常性（ホメオスタシス）の維持機構を学ぶ。特に、我々の生命維持に必須であるエネルギーの摂取からエネルギー消費に至る過程について、細胞内で起きているミクロな視点から、生体調節へのマクロな視点まで統合的に学び、その理解を深める。さらに、その調節機構が破綻したときに生じる様々な疾病との関連についても学び、我々の生体の複雑さについて、「細胞レベルの反応」と「生体レベルの反応」を統合的に理解できるようになる。	
教養科目群	科学・技術・産業	科学哲学	現代の自然科学の諸理論は、典型的には、数学の言語を用いて厳密に展開され、また精確な実験・測定の手続きによって客観的な確証を得るという、大変強固と言うべき方法論的基盤を備えている。しかし同時に、帰納法ひとつを取っても、その認識論的正当化には多くの未解決の問題が残されており、更に、それぞれの理論の基底に据えられる概念（物理学で言えば「時空」「物質」「力」、生物学で言えば「生命」「進化」など）は、改めて検討するとさまざまの不明瞭さや謎を孕んでいることが判明する。こうした諸問題の検討を通じて、科学が真に明らかにしていると言ってよい事柄は何であるのかを考察する。	
教養科目群	科学・技術・産業	地球環境と人類の歴史	地理学と考古学の教員による講義形式の授業である。地球環境の変遷は人類社会の発展は、互いに大きな影響を与えて来た。過去数百万年間にわたる人類の進化と地球環境の変化の関係を理解するため、人類活動が引き起こした環境変化、環境変化と文明の興亡、自然環境と人類社会の調和などについて解説する。オムニバス方式（全15回）。 オムニバス方式（全15回） （143 渡邊眞紀子／７回） 担当範囲　地理学から見た環境変化と人類 （209 出穂雅実／８回） 担当範囲　考古学から見た環境変化と人類	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	日本の産業と企業	「首都大学東京同窓会」の協力により、産業界で活躍している卒業生を、毎回ゲストスピーカーとして招いて社会で培ってきた知識、経験、理念を在学生に伝える授業である。 現代の日本社会を支える主要産業の歴史、現状、課題を解説し、また現代日本を象徴する重要プロジェクトを紹介することを通じ、現代社会の諸課題とその解決に向けた取組を理解することを目標とする。産業別講義とプロジェクトに関する講義を行う。	
教養科目群	科学・技術・産業	現代物理学の考え方	宇宙の構造と進化、それらを明らかにする観測手段を知ることから物理世界の理解の基礎を与え、同時に携帯電話やパソコンなどのあらゆる最新の電子機器を生み出した現代物理学の考え方を学ぶ。全15回のオムニバス方式で行う。 オムニバス方式（全15回） （260 石崎欣尚／７回） 宇宙物理学の考え方、星の進化と超新星、高密度星とブラックホール他 （120 青木勇二／８回） 電子の粒子性と波動性、波としての電子と半導体、超伝導・超流動他	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	素粒子から宇宙	我々の身の回りの自然には様々な疑問が一杯ある。人類はギリシャ時代からこのような身の回りの不思議に挑戦してきた。素粒子から宇宙に至る自然の階層性を理解し、それぞれの階層でどのような物理法則が重要な役割を果たしているのかを学ぶ。20世紀初期に発見された量子力学と相対性理論は我々の自然観に大きな変革をもたらした。この２つに関しての基本的な考え方を学ぶ。授業では、自然界の成り立ちを理解するために素粒子から宇宙を俯瞰的に眺め、現代の自然観を一緒に探っていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	科学・技術・産業	科学史Ａ	16世紀後半以降の自然科学が社会の中でどのように誕生し、発展してきたのかを物理科学を事例にしてわかりやすく解説する。 この講義ではルネサンス期以降の科学（物理科学）を扱うが、その前提となる古代・中世における研究の成果はそれぞれ関連する箇所において簡潔、平易に解説する。また、自然科学の用語のほか自然科学史などで使用する独特の用語を用いる場合もあるが、そのさいにもなるべく易しい言葉で解説を加える予定である。	
教養科目群	科学・技術・産業	宇宙地球物質の化学	太陽系はいつ誕生し、どのような過程をへて、現在の姿になったのか。望遠鏡や人工衛星による天体観測・惑星探査による知識は、これを解く重要な鍵の一つであるが、太陽系を構成する物質の化学的手法による物質科学的研究から得られる元素の組成や同位体の組成もまた重要な鍵を握っている。本講義では、隕石を化学の目を通して見たことからわかる太陽系について講義する。また、宇宙や星の進化を学ぶために必須な原子核の基礎知識、実験手法なども講義する。	
教養科目群	科学・技術・産業	現代分子科学	分子科学における対称性の問題について講義する。まず分子の形を対称性によって点群に分類し、化学に関する基礎知識を習得するとともに、物の形とその性質について一般的な理解を深める。また対称要素により正多面体を分類し、サッカーボール型分子C60など、高い対称性を持つ分子について学習する。分子の色や光吸収、キラリティーについて対称性の観点から整理するとともに、最近の研究成果を紹介する。後半には、今日大きな問題となっているニセ科学について討論を行う。	
教養科目群	科学・技術・産業	バイオテクノロジー	現代社会において多大な貢献をなしているバイオテクノロジーについて、その基礎と最先端について解説する。ヒトを含めた動物の発生と遺伝子について概観し、その知識に基づいて発生医療、再生医療における最新のバイオテクノロジーを解説する。農業、食品そして環境分野で幅広く利用される微生物、植物のバイオテクノロジーを解説する。動物、植物および微生物それぞれの立場から解説し、将来の人間社会においていっそう重要性が増すと考えられるバイオテクノロジーの理解を促す。 オムニバス方式（全15回） （134 川原裕之／８回） 個体の発生過程と細胞の分化（I，II）、細胞分化と遺伝子発現（I，II）、クローン動物、ES細胞とノックアウトマウス、iPS細胞とその応用、バイオテクノロジーと生命倫理　他 （280 得平茂樹／７回） 醗酵、酵素、DNA、遺伝子、遺伝子工学技術、微生物バイオテクノロジー、　植物バイオテクノロジー、バイオエネルギー　他	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	人工物のテクノロジー	工学技術の成果である人工物は，豊かで利便性の高い社会を実現し，社会や生活に不可欠なものとなっている．本講義ではそのような人工物を対象とする工学分野を学修することによって，人工物のテクノロジーのあり方について考察する． オムニバス方式（全15回） （174 下村 芳樹／8回） サービス工学と人工物のテクノロジー　他 （177 増田 士朗／7回） サイバネティクスと人工物のテクノロジー　他	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	大気と水の循環を学ぶ	地球規模での大気と水の循環を理解し、日本の気候の特徴をグローバルな視点から確認すること、人間活動と気候変化との関係を理解し、自然環境と人間に関する地理学的な見方を身につけることが目標である。まず太陽系の中での地球大気の特徴を概観し、次いで身近な雲や風から出発して、地球全体の大気と水の循環に至り、その中での日本の気候や世界のモンスーン気候の特徴、人間活動の気候変化への影響について述べる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	科学・技術・産業	大地の成り立ちを探る	大地を構成する重要な要素である地形・地質について、どのような自然現象と人間活動が関わってきたか、またその将来がどうなるかについて解説する。このため、地球上で繰り広げられる地学現象の概要を解説するが、とくに日本列島を題材に、地震･火山活動・気候変化と平野の地形形成過程に焦点をあてる。また、自然現象が時として人間社会に対し自然災害というかたちで影響を与える点についても触れる。	
教養科目群	科学・技術・産業	自然災害と社会	地理学の研究成果に基づいて、さまざまな自然災害とそれに対する社会の対応、対策を概説する。自然災害の実態や発生メカニズム、人類社会との関わりを理解し、それにより防災意識を高めるとともに、人類活動が自然環境に大きな影響を与えていることを認識することが目標である。オムニバス方式（全15回）。 オムニバス方式（全15回） （139 鈴木毅彦／４回） 担当範囲　地震と火山噴火がもたらす自然災害 （289 白井正明／４回） 担当範囲　固体地球表層（地面や海底）で発生する自然災害 （140 高橋日出男／４回） 担当範囲　気象災害の種類・性質と大気現象 （288 川東正幸／３回） 担当範囲　自然災害に対する社会の対応、世界的に深刻な森林火災	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	ツーリズム産業論	観光関連産業（旅行業，宿泊業，運輸業，出版・情報産業等）や観光関連行政の一線で活躍する人々をゲストにむかえ（各回一人，計十人程度），ゲストの講演や教員・受講生との対談，教員によるフォローアップ講義を通じて，観光関連各産業の概要や今日的な話題について講義を行う．これにより，少子高齢化社会において観光が果たす社会的・経済的役割や，我が国の抱えるサービス産業の高度化・国際化という課題について，受講者の理解を深めさせる． オムニバス方式（全15回） （308 倉田陽平／4回）担当範囲　：第1回、第7回、第14回、第15回 （309 直井岳人／11回）担当範囲：第2回～第6回、第8回～第13回 第1回ガイダンス 第2～4回：旅行業の現場 第5～6回：宿泊業の現場 第7回：中間まとめ 第8～9回：運用業の現場 第10～11回：観光施設業の現場 第12～13回：行政の現場 第14回：まとめ 第15回：試験と解説	オムニバス方式
教養科目群	科学・技術・産業	生体と機械	人や生物は、その生命を維持して活動するために機械的な仕組みを多く利用している。本講義では、生体の機械システムとしてのとらえ方を理解するため、生体の組織や機能の機械的な側面とその医療・スポーツへの適用、および人の生活動作の機械的な側面とその福祉工学などへの適用について学修する。 オムニバス方式（全15回） （176 藤江　裕道／8回） 生体材料と機械、医用工学、スポーツと機械　他 （175 瀬尾　明彦／7回） 人の動作と機械、生活環境と機械、福祉工学　他	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	科学・技術・産業	デザインと生活	私たちの身のまわりにあるものは，デザインされたもので構成され，そのおかげで便利で豊かな生活を送ることができている．本講では，人々の生活をより豊かにデザインするために必要な要素について，人とモノ，空間，システムとの関係について演習を交えて講述する． オムニバス方式（全15回） （179 笠松慶子/5回） 人間の生活と道具の関わり，製品づくりのプロセスなど （404 茂木龍太/5回） CGの活用，3Dプリンタの活用，プロトタイピングデザインなど （402 土屋真/5回） モダニズム・ポストモダニズム，イノベーションなど	オムニバス方式
教養科目群	総合ゼミナール	総合ゼミナール	学部３・４年次の学生を対象とし、現代社会における様々な問題・課題について、異分野の学生とのディスカッション等を通じ、自らの専門を基盤としながら他者の視点から考えを深め、総合的な問題思考力、倫理観、社会的責任を涵養する。また、自身の専門分野の立場から、専門外の人にも分かり易く考えを説明できるよう、コミュニケーション能力や表現力の向上を図る。テーマに関する課題設定、調査、発表、討論、報告書の作成等を通じ、学生に生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を修得する。	
基盤科目群	人文科学領域	社会学Ａ	現代社会の諸問題をとりあげながら、それを通して社会学における基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や分析の仕方の基礎を習得する。さらに社会学的な知識や発想を理解することで、経済学や法学とは異なる人間や社会にたいする見方を自らのものとすることを目指す。ここでは特に社会学を初めて学ぶ者を対象にして、現在の具体的な社会現象を考察の事例としながら、社会学の基礎的な方法、概念、理論へと親しんでいくことを目標とする。	
基盤科目群	人文科学領域	社会学Ｂ	現代社会の社会構造とそこで様々な社会的行為を行う人間が、どのように絡み合いながら社会現象や社会問題を生み出していくのかを把握し、考察する。ここでは社会学の基礎的な理論と方法をある程度理解していることを前提として、その方法を、たとえばジェンダー、社会階層、若者文化、メディア論、産業・労働、エスニシティ、都市・地域、コミュニティ、医療などの具体的な問題や学説史上の課題に対応させて学んでいくことを目標とする。	
基盤科目群	人文科学領域	文化人類学Ａ	文化・社会人類学は文化相対主義の立場を掲げ、現地・現場でのフィールドワークと民族誌の記述を通じて私たちの「常識」を疑い、世界の見方やものの考え方を刷新させてきた。本授業では、文化人類学の研究動向をふまえ、文化・社会人類学に関する基本的な文献を紹介し、文化・社会人類学に特有の研究視点、理論的枠組み、フィールドワークの方法論について理解することを目的とする。とくに、主要な文化人類学者と民族誌の紹介を通じて、民族誌的記述の有効性に対する理解を深める。	
基盤科目群	人文科学領域	文化人類学Ｂ	文化・社会人類学は、「生活すること」を基盤とするローカルな現場でのフィールドワークの実践を通じて、独自の世界の見方やものの考え方を構築してきた。本授業では、これまでの研究成果をふまえ、文化・社会人類学に特有のフィールドワークの方法と研究視点について理解するとともに、その視点から現代社会に対してどのような問題を提示してきたかを理解することを目的とする。とくに、現代社会の諸問題に対する文化・社会人類学的な視点の有効性に対する理解を深める。	
基盤科目群	人文科学領域	社会福祉学	社会福祉学の入門として、社会福祉や社会保障に関する関心を高めることを目的とする。社会福祉が扱うさまざまな問題（貧困や格差、少子高齢化、高齢者介護、保育・育児支援、社会的孤立、障害者支援など）について学び、それらに対して政策がどのように対処してきたか、また、今後対処していくべきかを考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	人文科学領域	心理学の基礎	本講義はオムニバス形式で様々な心理学の基礎を学ぶものである。心理学が扱う領域のうち、知覚・認知、社会、発達・臨床といった分野における基礎的な内容を解説する。心理学の視点から、人間の知覚・認知、発達、社会行動のもつ意味を分析的、統合的に考えられるようになることを本講義のねらいとする。 オムニバス方式（全15回） （30 石原正規・18 沼崎誠／1回）イントロダクション、授業方針の説明 （30 石原正規／3回）知覚心理学を中心とした内容を担当する。 （18 沼崎誠／3回）社会心理学を中心とした内容を担当する。 （30 石原正規・18 沼崎　誠／1回）前半部分の試験と解説 （34 酒井厚／6回）発達・臨床心理学を中心とした内容を担当する。 （34 酒井厚／1回）後半部分の試験と解説	オムニバス方式、一部共同
基盤科目群	人文科学領域	心理学方法論	人の「こころ」を科学的に研究する為には、客観的・実証的に事物をながめ、論理的に思考していくことが重要である。心理学は、人の行動や反応についての一般的な法則性を導き、また個人の特徴を説明しようとする学問である。そのためには、実際に調査や観察などを行ってデータを収集し、ある理論的仮説が支持されるかどうかを検証するというアプローチをとる。本講義では、こうした「こころ」に対する科学的なアプローチ法について、心理学の歴史と心理学の諸領域における代表的な研究法を中心に解説する。	
基盤科目群	人文科学領域	教育学	教育について、現代社会において多くの人が最も自覚できる場は学校であろう。それゆえ、学校にかかわる問題は主観的に語られがちだが、学術的に学校について論じるには客観的なデータに基づくことが求められる。そこで、学校について論じるのにふさわしい客観的なデータについて、学校の特定の場面等をテーマに取り上げて、そのテーマに関するデータを紹介していきながら説明する。その過程を通して、データから学校を想像したり、学校についてデータを使いながら考えたりするための基礎的な知識・技法を修得することを目的とする。	
基盤科目群	人文科学領域	哲学Ａ	哲学とは、どこかに存在する絶対的真理へと我々を導くものでもなければ、また、答えの出ない問いを延々と問い続けるものなのでもない。何が絶対的真理なのかを問題にするのではなくて、どうして人は絶対的真理を求めるのかと問うもの、それが哲学である。あるいは、どうして哲学は論理的難問を次々と作り出す空虚な言語ゲームに堕してしまうのかと問うもの、それが哲学である。要するに、哲学とは、真理の場所、普遍性の場所、正しさの場所を開示するものなのであるが、このことを、古代から現代までの主要な哲学者の思索に触れつつ明らかにする。	
基盤科目群	人文科学領域	哲学Ｂ	卵子凍結、出生前診断、iPS細胞、動物の福祉等、科学の発展や文化の衝突等の要因により、伝統的倫理学が想定していなかった事態が生じている。本講義ではおもに生命倫理に焦点をあて、現状を理解し、問題点を把握し、あわよくばその解決の道筋を検討する。たんに対立する見解に賛成・反対する立場を強化するのではなく、対立する諸価値に正当に投錨する姿勢と、逆に、諸価値を批判的に掣肘する姿勢とを身につけることを目標とする。	
基盤科目群	人文科学領域	倫理学Ａ	昨今、自尊心（セルフ・エスティーム）の重要性が指摘されているが、他方で当然利己心は否定的な評価にとどまっている。すると、自愛感情のうちにも、肯定されるべきものと否定されるべきものがあるということになろうが、とりわけ肯定されるべき自愛心は西洋倫理学史上、どのような扱いを受けてきたのであろうか。本講義では、「肯定される自己愛」をめぐって、プラトン、アリストテレス、イエス、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、スピノザなど、古代から近代にかけての西洋哲学者の倫理思想を概観する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	人文科学領域	倫理学Ｂ	人類史上、倫理が問題とされなかった時代は一度もなかったが、倫理について一致した見解が共有されたことも一度もなかったと言ってよい。常なる対立にある倫理学に、正当な根拠は存在するのであろうか。本講義では、西洋倫理学の歴史を追うことをつうじて、道徳や善悪の観念の由来・根拠を考察し、学としての倫理学の正当性を確認する。	
基盤科目群	人文科学領域	論理学Ａ	論理学への入門として、命題論理の基礎を紹介する。このコースでの学習内容には、次のようなものが含まれる。(1) 命題論理の形式言語の構文規則。(2)日本語の文を命題論理の形式言語に翻訳（記号化）するためのテクニック。(3)命題論理の演繹体系、特に自然演繹体系の規則とテクニック。(4)議論の妥当性を評価する手段として、真理表や意味論的タブローの手法。入門コースとしての性格上、基礎的概念の習得が主な目的となるものの、折に触れて命題論理の歴史も簡単に紹介する。また、論理学が現代の哲学、言語学、コンピューター科学等に与えている影響についても言及する。	
基盤科目群	人文科学領域	論理学Ｂ	論理学Aに続くコースとして、述語論理の基礎を紹介する。このコースでの学習内容には、次のようなものが含まれる。(1)述語論理の形式言語の構文規則。(2)日本語の文を述語論理の形式言語に翻訳（記号化）するためのテクニック。(3)述語論理の演繹体系、特に自然演繹体系の規則とテクニック。(4)議論の妥当性を評価する手段として、モデルや意味論的タブローの手法。論理学Aと同様にこのコースでも、基礎的概念とさまざまなテクニックの習得が主な目的となるものの、折に触れて現代的な述語論理の歴史も簡単に紹介する。また、論理学が現代の哲学、言語学、コンピューター科学等に与えている影響についても言及する。	
基盤科目群	人文科学領域	言語・思考・行為	私たちが日常的に出会う様々の問題状況において、できる限り合理的な解決策を見つけ出そうとする場合、私たちが安心して採用することのできる一般的な思考規則・推論原理といったものとして、一体何があるのか。こうした問題を扱う分野はふつう「クリティカル・シンキング」と呼ばれ、本科目もその一例であるが、ただし、特に、(1)言語の解釈や用法に関わる諸問題を重視する、(2)論理学・認知科学から統計・確率論などにわたる多様な批判的思考の原理をカバーする、(3)行為の諸理論（意思決定論、ゲーム理論など）との関連を重視する、という点に、本科目の特色がある。 オムニバス方式（全15回） （67 岡本賢吾／３回） クリティカル・シンキング （64 大島資生／４回） 言語の論理 （45 藤川直也／４回） 論証の構造 （82 松阪陽一／４回） 合理的な思考	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	人文科学領域	人間・文化・社会	本講義は人文社会系の教室が提供するオムニバス形式の講義である。ひとつの総合テーマについて、コーディネーター役教員の司会にそって、各学問分野の教員が各1回を担当する。「オムニバス（omnibus）」とは元来、「たくさんの人間が乗った乗合馬車」の意味だが、本講義では、ひとつの目的地（テーマ）を目指す複数の講師から多面的なものの見方を学び、人文社会系の知識を全方位的に開くことができる。もちろん、他学系の学生が受講しても有益な内容である。 オムニバス方式（全15回） （219 西山雄二／15回）オムニバスの視点 （24 宮臺眞司／１回）社会学の視点 （3 綾部真雄／１回）文化人類学の視点 （11 杉野昭博／１回）社会福祉学の視点 （34 酒井厚／１回）心理学の視点 （35 杉田真衣／１回）教育学の視点 （5 小川定義／１回）言語科学の視点 （41 長谷川守寿／１回）日本語教育学の視点 （82 松阪陽一／１回）哲学の視点 （68 鎌倉佐保／１回）歴史学の視点 （218 中嶋　泉／１回）表彰文化論の視点 （64 大島資生／１回）日本文化論の視点 （62 大久保明男／１回）中国文化論の視点 （223 安井マイケル／１回）英語圏文化論の視点 （224 山本　潤／１回）ドイツ語圏文化論の視点	オムニバス方式、共同
基盤科目群	社会科学領域	民事法入門	判例・論文等を素材として、民事法の、さらには法律学の入門的講義を行う。民事法（を含めた、実定法）の学部専門科目を受講することにも耐えうる基礎学力を養成することを目標とする。条文や判例、論文等、法律学を学習する際の最も基本的な素材に実際に触れながら、その扱い方を学ばせる。民事法に関しては、本来学部1年生の間に学習しておくことが望ましいにもかかわらず、時間の都合等から学部専門科目の授業では充分に取り扱うことのできない事柄もあるため、これらについて充分な理解を促すことも本科目の目的・目標である。	
基盤科目群	社会科学領域	刑事法入門	刑法・刑事訴訟法をはじめとする刑事法の基本思想、犯罪論の基礎、刑事手続の概要を踏まえつつ、近時の犯罪情勢や各種犯罪への対応、刑事手続の概要などについて講義をする。犯罪の実態や、それに対する刑事法的対応について、基本的な理解を得ることを目的とする。併せて、刑法と刑事訴訟法を題材に、法的な思考力を身に付けることも目的とする。刑事法分野の法学系専門科目への導入講義として位置づけられるものであり、法学系推奨科目として、法学系学生は1年次に履修することが強く期待される。	
基盤科目群	社会科学領域	法学入門	本講義は、法律学の基礎的な概念や知識を習得するとともに、特に、法解釈とは何か、裁判とはどのようなものかなどのテーマを中心に学ぶ。なお、本科目は法学系の専門科目への導入科目としての性格も有するので、法学系学生の受講を推奨するが、法学系以外の学生もこれらの知識などを習得することで、今後の社会生活に役立てる内容とする。法とは何か、法的な思考とはどのようなものか、法律の解釈とは何か、裁判制度はどのような役割を果たすかなど、法律学の基本的知識の習得を目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	社会科学領域	政治理論入門	政治の歴史や概念、思想の基礎的事項について概説する。本講義は、政治学コースの専門教育科目を学ぶための導入科目であるとと同時に、政治学を専攻しない学生が政治理論に関する基礎的な知識を習得し、各自の専攻分野の学修における視野を広げることを目的とした入門科目である。権力や正統性、紛争、利益、イデオロギー等の政治学の基礎概念を解説するとともに、ジェンダーやエスニシティ等、現代の政治理論に関わるトピックをとりあげ、歴史と思想の視点を踏まえて政治の理論・概念を明らかにする。	
基盤科目群	社会科学領域	現代政治入門	現代の政治過程や政治行動に関する基礎的事項について概説する。本講義は、政治学コースの専門教育科目を学ぶための導入科目であると同時に、政治学を専攻しない学生が現代政治に関する基礎的な知識を習得し、各自の専攻分野の学修における視野を広げることを目的とした入門科目である。政党や官僚制、利益集団、マスメディア、国際機関等、現代政治のアクターの特徴について解説するとともに、政治参加、政権運営、外交と安全保障等のトピックをとりあげ、政治学の研究成果を踏まえて現代政治の動態を明らかにする。	
基盤科目群	社会科学領域	入門マクロ経済学	本講義では、マクロ経済学についての基礎的な内容を理解することを目的とする。GDP・失業率・物価水準などマクロ経済を理解する上で不可欠な指標や、家計・企業・政府・中央銀行といった主要なプレイヤーが果たす役割を解説する。その後、財・サービス市場、金融市場、労働市場の相互連関によってGDP・利子率・物価水準が決定されていく基本的なメカニズムを簡便なモデルを紹介しながら解説する。	
基盤科目群	社会科学領域	入門ミクロ経済学	本講義では，ミクロ経済学の基礎を学ぶ．まず完全競争市場下における消費者行動と生産者行動を学び，上級財・下級財・代替財・補完財・価格弾力性・限界代替率・固定費用・可変費用・限界費用など基本的なミクロ経済学の用語に慣れ，限界概念や制約下での最適化などの概念を理解する．さらに市場における価格の決定のしくみを学び，消費者余剰や生産者余剰の概念を用いて，市場の効率性について理解する．次に外部性，情報の非対称性がある場合，不完全競争市場など市場の失敗について学ぶ.	
基盤科目群	社会科学領域	経済史・思想入門	本講義では、経済史や経済社会の思想史を初めて学ぶ学生に対して、基本的な史実や理論の修得を目指す。経済史や経済社会の思想に関する意義を理解したうえで、人類による経済社会の形成、資本主義社会の展開、産業革命、グローバリゼーションといった世界の経済社会の歴史、経済成長、工業化、公共部門と民間部門の相互関係等に注目した日本の経済社会の歴史、市場、労働、貨幣、公共部門に注目した経済社会の思想史について理解を深める。 オムニバス方式（全15回） （96 岩間俊彦／５回） 世界経済史 （239 竹内祐介／５回） 日本・アジア経済史 （238 高見典和／５回） 経済社会思想史	オムニバス方式
基盤科目群	社会科学領域	経営学入門	産業社会において企業は主要な主体の１つである。経営学は、企業の行動メカニズムを明らかにしようとする学問であり、企業に焦点を当てることで、人と企業（組織）との関わり、企業と社会の関わりを探求する。本講義では、特に、具体的な企業事例を通じて，経営学の基本知識を学んでいく。経営学に関する基本知識の習得、経営学的な考え方の習得を目的とし、さらには経営戦略論や経営組織論などの専門科目への導入とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	社会科学領域	会計学入門	会計言語はビジネスの基本言語であり、その運用能力は現代社会において求められる常識的なスキルとして幅広く認知されている。会計言語を通じたメッセージは財務諸表と総称されるコミュニケーションツールを通じて伝達される。本講義では、簿記や会計基準など、会計情報を作成するためのシステムについて一通り学習したのち、その会計システムを通じてアウトプットされる財務諸表の読み方を、実際の企業の決算書を用いて学習する。	
基盤科目群	社会科学領域	統計学Ⅰ	本講義では、前半でデータのまとめ方・特性値（記述統計）について、後半で「統計学Ⅱ」の準備としての確率論について講義する。 データをまとめること、確率論の初歩を理解すること、代表的な確率分布の性質を理解することを目標とする。 内容は、記述統計（平均・分散等）・物価指数・ローレンツ曲線・多変数データ・確率・確率変数である。授業中には可能な限り練習問題を解く時間を設ける。	
基盤科目群	社会科学領域	統計学Ⅱ	本講義では、得られたデータを用いて母集団のパラメータを推定したり、仮説を検定したりする方法を学ぶ。さまざまなパラメータの統計的推測・仮説検定について理解することが目標である。 内容は、確率変数・標本分布・推定（母平均・母分散の点推定・区間推定）・検定（平均・分散の検定・適合度検定・独立性の検定）である。授業中には可能な限り練習問題を解く時間を設ける。	
基盤科目群	社会科学領域	デザインマネージメント概論	社会に生きる一生活者の視点から，創造力，クリエイティビティを切り口として，商品としてのコンテンツ流通，コミュニケーションツールとしての製品の現状を概観し，それを取り巻く制度，業界構造，産業構造，市場規模等について考察を深め，今日のインダストリアルデザイン・マネージメントについての基本素養を身につける. また，非デザイン専攻者において常識的に知っておくべきデザイン戦略を学ぶと共に実際のプロダクトデザイン開発プロセスなどを分かりやすい事例など通じて直・間接的に体験できることを目指す.	
基盤科目群	自然科学領域	数学の歴史	数学的な知識・技術の歴史は、パピルス文書や楔形文字による粘土板文書等によってほぼ３，５００年を遡ることができる。しかし、学問・科学としての数学（Mathematics = ４学科：算術、幾何、天文、音楽）は約２，５００年前のピュタゴラスに遡る。彼とその学派は人間の理性・知性の開発を目途とした「知育」を興し、そのための４学科を整えた。特に、非直感的な「証明」による論証を数学の方法として採用し、以来、数学は長い歴史をはぐくんできた。人類の文明史の根底に流れる人間精神の営みとしての数学を紹介する。	
基盤科目群	自然科学領域	計算の理論	主に数理科学科以外の学生を対象として、計算とは何かと言う問題から出発して、コンピュータで計算するとは何か、計算とはどんな基本構成要素からなるのか、計算の実行には基本要素を正しく構成する必要がある事を解説する。その具体例として簡単なプログラミングの読み方を学び、その構造を解析することにより、アルゴリズムとデータ構造の数学的なしくみを体験してほしい。具体的には、計算するとは何か、計算の手間と正しさ、標準データ型、構造データ型などを説明する。	
基盤科目群	自然科学領域	現代的教養のための確率統計	偶然に支配される事象でも繰り返し起こると、何らかの法則性を持つ事が多い。確率統計は、頻繁に繰り返されると現れる「偶然の中の法則性」を扱う数学で、物理学、生物学、気象学などの自然科学以外にも、生命／損害保険や金融などの経済学や、カジノなどの実社会にも広く応用されている。この科目では確率統計の基礎を説明し、その応用として、オプションの価格付けなど、近年著しい発達を遂げている「数理ファイナンス」の幾つかのトピックをわかりやすく紹介する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	自然科学領域	建築文化論	首都大学東京の学生が持つべき一般的教養として、また、建築を志す学生が持つべき基礎的知識として、建築と文化との関わりについて講述する。 オムニバス方式（全15回） （301 鳥海基樹／6回）都市と形態他 （152 吉川徹／3回）都市と尺度他 （149 竹宮健司／3回）建築と尺度他 （148 小泉雅生／3回）環境と建築他	オムニバス方式
基盤科目群	自然科学領域	環境と建築	首都大学東京の学生が持つべき一般的教養として、また、建築を志す学生が持つべき基礎的知識として、地球スケールでの持続可能性問題と建築・都市、また、そこに住む人との関わりについて講述する。 オムニバス方式（全15回） （151 永田明寛、299 一ノ瀬雅之／1回）環境と建築 （151 永田明寛／7回）気候と風土、空気室と必要換気量、機械換気と自然換気　他 （297 一ノ瀬雅之／7回）都市のエネルギー、水環境・給排水設備の基礎　他	オムニバス方式、一部共同
基盤科目群	自然科学領域	情報科学入門	コンピュータやインターネット，データベース，人工知能などといった様々な情報技術が我々の日常生活を支えている．本講義では，身近な情報技術や最先端の情報技術・システムに関する話題を題材としながら，情報科学の基本概念や基礎知識について学ぶ． オムニバス方式（全15回） （169 高間康史／8回） 情報科学の基礎，インターネットとWeb，人工知能，他 （170 山口亨／7回） 情報化社会への展開，サイバーフィジカルシステム，他	オムニバス方式
基盤科目群	自然科学領域	エアフレームデザイン概論	航空力学にもとづいた，航空宇宙輸送機のエアフレームデザインに関する初歩について学ぶ．空気力学などから揚力と安定の原理を理解し，紙飛行機などの模型デザインの実習をもとに，実際の設計を試みたうえで，構造・制御などとの相反関係を理解する．実習したデザインを履修生で共有し，自分だけでは思い至らなかった他者の工夫を知ったうえで，世界的な学会などで提供されている航空宇宙機の研究開発に関する最新トピックを学び，今後の航空宇宙輸送のあり方について考える．	
基盤科目群	健康科学領域	人間発達学	人間発達学とは、人間の一生、ヒトの受精から誕生・死に至る各時期を発達的に変化するという立場から、生物学的に、社会学的に、心理学的に体系的かつ総合的な理解を促すものである。その各段階やその後の段階に関連して出現する様々な問題を考える際の基礎知識の習得や医療などの臨床場面で人を視るために必要不可欠な知識の習得を目標とする。 オムニバス方式（全15回） （346 薗牟田洋美／5回） 成人期、老年期発達学　他 （458 田中元基／10回） 新生児期、乳幼児期、学童期、青年期発達学　他	オムニバス方式
基盤科目群	健康科学領域	医療統計学	統計学の基礎である母集団、標本、平均、分散等の知識を習得し、標本と母集団の関係を理解した上で、医療統計に必要な推定法や検定法の基礎について学ぶ。統計学が確率論を基礎として構築されており、これがどのように医療統計の実践につながるのかについて理解し、自ら基本的な医療統計の諸問題を解決できるようになるために、随時、医療統計に関する基本問題の演習を行いながら講義を進める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	健康科学領域	移動の人間工学	人間の移動動作の基本と、移動障がい者（移動に障害を有する方々）の障害別に、特徴的な移動方法を紹介し、運動学の補助的基礎知識として、移動障がい者の身体の動きを観察するための知識の習得を目的とする。起居・移動という人間の基本動作について、身体の重心の移動を中心に理解し、身体の障害や運動能力の低下による移動の困難さ、歩行を補助する杖の使用、歩行に替わる方法として用いる車いすによる移動、また、視覚障がい者の移動方法などを取り上げて、多様な移動障がい者の特性を理解することを目標とする。	
基盤科目群	健康科学領域	医療と情報	医療関係の学問を学ぶ学生として必要となる、情報に関する基礎知識を習得する。本授業を通じて、情報化が進んでいる現代の医療現場において必要とされる、ネットワークやデータ等、情報学の基礎知識を学び、守秘義務、情報倫理、医療の情報化を取り巻く課題等を理解した上で、それらを有効に活用することができる医療人の育成を目的とする。	
基盤科目群	健康科学領域	保健医療概論	統一テーマである「保健・医療・福祉専門領域間の連携と協働」を中心に、現代社会における様々な保健医療福祉の課題を解決するための基盤としてチーム医療、チームケアの多角的な視点から講義をおこなう。 オムニバス方式（全15回） （181 安達久美子／3回） 助産師の役割　他 （189 大嶋伸雄／3回） 多職種連携教育　他 （192 渡邉賢／2回） 医療における説明と告知　他 （185 網本和／3回） 理学療法の専門性　他 （182 石井良和／2回） 遺伝性神経難病における妊娠・出産問題　他 （415 衣斐達／1回） 医療現場で遭遇する「死」について （437 金寿蓮／1回） 地域問題解決のための専門職連携	オムニバス方式
基盤科目群	健康科学領域	リハビリテーション概論	リハビリテーションとは、身体的、精神的、かつまた社会的にもっとも適した機能水準の達成と社会的な環境の整備により個人の社会的参加を実現することを目指している。また、病気や障害を有しつつ新たな生活に適応するための学習過程と考えることもできる。本講義では、ゼロ歳から高齢者にわたる人間に生ずる“障害”に対する支援方法を、医学的リハビリテーションの視点、心理・社会的リハビリテーションの視点、地域リハビリテーションの視点、教育リハビリテーションの視点、職業リハビリテーション等々の視点から捉え、リハビリテーション概要を学ぶ。 オムニバス方式（全15回） （189 大嶋伸雄／7回） リハビリテーションの概念・評価・国際障害分類　他 （344 古川順光／8回） リハビリテーションと専門職　他	オムニバス方式
専門教育科目群	社会学教室	都市社会学I	都市と都市社会に関する基礎的な知識と理解を得ることを目的とする．都市社会学の専門的な課題領域全般についての網羅的な概説を通して，都市と都市社会に関する様々な学説史の展開，諸理論の検討，それぞれの課題領域と調査・研究の具体的な方法などについて，修得することを目標とする．具体的には，都市社会学の歴史，都市と都市化の概念規定，都市研究の方法，都市の社会構造，都市のコミュニティと市民意識，都市社会学の課題などについて学んでいく．	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会学教室	都市社会学Ⅱ	都市と都市社会に関する基礎的な理解を前提として、より限定された専門分野としての都市社会学についての理論と方法に関する体系的な概説を行う。具体的には、都市社会学研究の諸系譜、都市の構造と機能、都市住民の社会的世界と生活意識、日本都市の歴史的展開、世界都市化とグローバル化などの諸問題をより実践的な観点から検討することを通して、都市社会学に関する高度な専門性をもった理論的・方法論的技法の修得を目的とする。	
専門教育科目群	社会学教室	社会調査法I	社会学実証研究の方法論に関する基礎的な知識を習得することを目的とする．まず，社会調査の目的・意義は何か，科学的方法とは何か，そして調査の倫理などを議論しながら，社会調査法の原理を理解する．さらに，実際によく使われているいくつかの社会調査（量的および質的調査）の方法に触れ，正しい調査の仕方を学びながら，それぞれについての利点と限界を考察する．学期の後半では，同様の興味を持ついくつかのグループに分かれ，実際に調査票を作成し，予備調査を実施して検討を行う．	
専門教育科目群	社会学教室	社会調査法Ⅱ	社会調査によって得られたデータの分析法を学ぶことを目的とする。特に、量的なデータをまとめたり分析したりするために必要な統計分析法に焦点をあてる。 近年コンピューターの統計ソフトの普及とともに、統計分析も容易になってきてはいるが、その反面、統計学の基礎概念がしっかり理解されていないと、解釈の時点で大きな過ちを犯すことになりかねない。この授業では必要な社会統計法の基礎的な知識の習得と、統計を正しく用いて分析する能力を養うことを目指す。	
専門教育科目群	社会学教室	社会学原論Ⅰ	社会学がこれまでに確立してきた主要な理論的立場と方法、およびその歴史について網羅的な理解を得ることを目的とする。具体的には、理解社会学、社会学主義、史的唯物論、相互作用論、機能主義などの基礎概念、成立の事情、現代にいたるまでの展開のあらましを修得することを目指す。また、この学修の応用可能性を、現代社会の具体的な諸課題に対する社会学的な事実認定、論点整理、解決の方向の提案などの実例に即して理解する。	
専門教育科目群	社会学教室	社会学原論Ⅱ	社会学の多様な概念や理論を媒介する試みについて、体系的な理解を得ることを目的とする。具体的には、１９世紀の社会有機体論と２０世紀半ばの行為システム理論を引き継いで現代の最有力の一般理論と目されている社会システム理論を中心に、機能主義社会学における中範囲の理論、理解社会学と史的唯物論の統合を図るコミュニケーション的行為の理論、相互作用論と社会学主義を媒介する構造化理論などによる達成を理解することを目指す。	
専門教育科目群	社会学教室	社会学基礎演習	社会学においてすでに古典的な評価を得ている基礎的な文献を、実際に自ら講読し、ディスカッションをおこなうことを通して、社会学の基礎的な理論と方法を身につけることを目的とする。また、それらの基礎文献の購読を通して得られた社会学的な思考の伝統への理解を前提にして、自らの関心を社会学的な問題として構成し直し、卒業論文のテーマとしてふさわしいものへと高めていくことを準備していく際のきっかけにすることを目標とする。 オムニバス方式（全30回） （9 左古輝人／15回）　近代社会と社会学の形成と展開 （12 玉野和志／15回）　社会学の古典的な著作を講読	オムニバス方式
専門教育科目群	社会学教室	社会学演習	社会学の理論や個別分野における基礎的な文献の講読とその批判を通して、社会学的なものの見方や考察の方法を学ぶことを目的とする。具体的には様々な個別分野の問題、たとえばジェンダー、社会階層、若者文化、メディア論、産業・労働、エスニシティ、コミュニティなどの問題を扱いながら、自分の関心に応じた個別の問題を社会学的に考察していく力量の取得を目標とする。それら自らの関心に応じた具体的な問題への社会学の適用を通して、実践的な応用能力を養っていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会学教室	社会調査法演習	調査の企画から分析結果の報告まで、社会調査の全過程を実際に行ってみることを通して、社会調査に関する実践的な知識を身につけることを目標とする。調査の方法については、サーベイ調査によるデータの分析やインタビューなどにもとづく事例研究など、いわゆる量的調査と質的調査の両方を含んだ総合的な内容を想定している。そのことであらゆる問題の解決に向けて、より適切な方法を選択し、応用していくだけの実践的な能力を養成する。	
専門教育科目群	社会学教室	都市社会学演習	都市社会学における基礎的な文献の講読や実際の調査研究活動などを通して、都市社会学についての専門的な知識と方法を身につけていくことを目的とする。世界都市化やグローバル化の理論、都市下層の問題など、現代都市に特徴的な課題に関心を持つ者が、より専門的にその問題へと取り組んでいくための力量を習得することを目標とする。演習では常に具体的・実践的な問題の解決を意識しながら、都市社会学の理論と方法を実践的に応用していくだけの力量を要求していく。	
専門教育科目群	社会学教室	社会学特殊講義	社会学のできるだけ多様な個別分野における専門知識の習得を目的とする。たとえば、ネットワーク論、ジェンダー論、社会階層論、若者文化論、メディア論、産業・労働社会学、エスニシティ論、コミュニティ論、情報社会論、世界都市論、社会学史、政治社会学、家族社会学、環境社会学、少子高齢社会論など、様々な分野の社会学を知る機会を提供する。そのうえであらゆる問題領域において社会学の理論と方法を応用していくことができる力量の習得を目標とする。	
専門教育科目群	社会学教室	社会調査法特殊講義	社会調査における量的および質的データの分析に関する基礎的な知識の習得を目標として、できるかぎり限定された個別の技法について、具体的に学ぶ機会とする。たとえば、社会統計学の基礎、サーベイ調査のデータによる多変量解析の手法、インタビューや文書資料にもとづく事例研究におけるデータ収集の技法や分析方法など、社会調査の方法を具体的な問題解決に活用していくことができるだけの、より実践的な技法と知識の習得を目的とする。	
専門教育科目群	社会学教室	都市社会学特殊講義	都市社会学における個別のテーマについて深く学ぶことを目的とした講義をおこなう。具体的には、都市住民の生活と意識、地域社会論、郊外化、グローバル化などの今日的な問題を扱い、学生が都市社会学におけるより具体的なテーマを設定し、より専門的な探求を自ら行っていくだけの力量を習得していくことを目標とする。それを通して、具体的な問題に対して都市社会学の理論と方法を応用して行くだけの実践的な力量を養成していく。	
専門教育科目群	社会学教室	社会学特論演習	各学生が卒業研究を構想し、その一環として調査・文献研究を行うことを目的とする。まず，3年次までの科目の履修などを通じて見いだされた各自の関心からそれを社会学的な課題へと焦点化する。そのうえで、なんらかの調査によるデータの収集や文献による確認のプランを立案し、実際の調査なり、文献研究に従事する。それらを踏まえて研究の構想をまとめていく指導を行う。この間、指導教員と密に連絡をとって、研究の計画・構想および調査の実施・進捗状況等について相談することが必要となる。	
専門教育科目群	社会学教室	卒業論文	『社会学特論演習』で計画した研究構想をもとに、実際に卒業論文を仕上げていくことを目標とする。社会学分野で学んだことの集大成として、自らの関心にもとづいた研究課題について執筆・推敲作業を通じて学術論文へとまとめていくことにより、社会学的な知識と方法による問題解決能力を習得する。指導教員と定期的に連絡を取って執筆状況を報告し、原稿の加筆・修正等を行うことが求められる。最終稿を「卒業論文」として提出する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学基礎演習	2年次生を対象とし、社会人類学・文化人類学の基本的な研究視点、研究方法、研究動向、調査方法などを演習形式で学ぶ。毎回、日本語の基本文献（テキスト）を精読し、発表者とコメンテーターを事前に指定し、発表者が発表を、コメンテーターが問題提起を担当し、受講者全員で議論をおこなう。このような形式によって、（1）人類学の基礎理論やフィールドワークの方法論の意味を理解し、（2）プレゼンテーションと議論のスキル向上を目指す。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学Ａ	2年次以上の学生を対象とし、社会人類学の基本的な研究視点、理論的枠組み、学説史、方法論などを習得する。社会人類学が国家・エスニシティ・政治・経済・開発・宗教・性などの事象にかかわる現代的諸問題をどのように分析してきたのかということを世界各地の民族誌的資料を参照して解説し、人間社会に普遍的な問題を通文化的視点から理解することを目指す。なお、必要に応じて受講者に課題や発表を課すことがある。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学Ｂ	2年次以上の学生を対象とし、社会人類学の基本的な研究視点、理論的枠組み、学説史、方法論などを習得する。社会人類学が国家・エスニシティ・政治・経済・開発・宗教・性などの事象にかかわる現代的諸問題について、その独自の視点からどのように問題設定をしてきたのかということを、これまでの研究を参照しながら解説し、人間社会に普遍的な問題を通文化的視点から理解することを目指す。なお、必要に応じて受講者に課題や発表を課すことがある。	
専門教育科目群	社会人類学教室	民俗学特殊講義	「国」という意識を超えて、東アジアの諸地域（日本、沖縄、中国漢族地域、中国少数民族地域、韓国、台湾など）を取り上げ、その民俗社会および伝統文化について講義する。 民俗学に関する基礎知識を講義し、対象地域における日常生活を民俗学的な視点から分析し、論じる。対象地域の民俗文化に対する認識を深めると同時に、民俗誌などの講読に必要な基本的な知識も習得し、自文化・異文化を民俗学的な目で見る能力を養う。	
専門教育科目群	社会人類学教室	地域研究特殊講義	2年次以上の学生を対象とし、講師が対象としてきた地域、テーマの先駆的な業績を残す人類学者とその仕事を紹介し、人類学は無からフィールドワークを行うのではなく、先人の蓄積のうえに自らの発見を積み重ねるリレーを行っていることを示す。履修者は、講義を聴くだけでなく、それらの仕事を直接読み、考えをまとめる作業を通じて、先人の仕事と講師、そして自分の生をつなげるという人類学的な思考法を実践的に身につける。	
専門教育科目群	社会人類学教室	民族誌特殊講義	2年次以上の学生を対象とし、毎年度、世界各地の民族誌的事象から現代世界を考察するための（テーマ）を選び、その問題が文化人類の理論においてどのように用いられてきたのか、どのような通文化的研究が提示されてきたのかを解説し、世界のさまざまな問題を受講者が自分で考えられる能力の習得と異文化理解の深化、専門知識の応用法と研究方法の向上を目指す。	
専門教育科目群	社会人類学教室	文化人類学特殊講義	2年次以上の学生を対象とし、毎年度、文化人類学で注目を集める問題 （テーマ）をひとつ選び、その問題が文化人類学においてどのように調査・研究されてきたのか、どのような事例研究が提示されてきたのか、どのような問題が検討されているのかを解説し、受講者が文化人類学の基礎知識を学習していることを前提として、専門知識の習得、異文化理解の深化、研究方法の向上を目指す。なお、必要に応じて、受講者に課題と発表を課すことがある。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学特殊講義	2年次以上の学生を対象とし、毎年度、社会人類学で注目を集める問題（テーマ）をひとつ選び、その問題が社会人類学においてどのように調査・研究されてきたのか、どのような事例研究が提示されてきたのか、どのような問題が検討されているのかを解説し、受講者が社会人類学の基礎知識を学習していることを前提として、専門知識の習得、異文化理解の深化、研究方法の向上を目指す。なお、必要に応じて、受講者に課題と発表を課すことがある。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会人類学教室	文化人類学演習Ⅰ	社会人類学分野の3年次生を主対象とし、古典的な人類学関係の英語文献を読み進めながら、それを新しい問題に結びつけるスタディスキルを習得することを目的とする。より具体的には、課題文ごとのグループ発表を通じ、高度な英語文献を読みこなすことができるようにするだけでなく、文献検索の方法、レジュメの作成方法、口頭プレゼンテーションの技法、論理的思考、ディスカッションの技法等についても指導を行い、総合的な学力を一年をかけて涵養する。本演習の受講後には、各受講生は最終年度に卒業論文を執筆するために必要なスキルを一通り習得していることを目指す。	
専門教育科目群	社会人類学教室	文化人類学演習Ⅱ	社会人類学分野の3年次生を主対象とし、相対的に新しい人類学関係の 英語文献を読み進めながら、多岐にわたったスタディスキルを習得することを目的とする。より具体的には、課題文ごとのグループ発表を通じ、高度な英語文献を読みこなすことができるようにするだけでなく、文献検索の方法、レジュメの作成方法、口頭プレゼンテーションの技法、論理的思考、ディスカッション（ディベートを含む）の技法等についても指導を行い、総合的な学力を一年をかけて涵養する。本演習の受講後には、各受講生は最終年度に卒業論文を執筆するために必要なスキルを一通り習得していることを目指す。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学演習Ⅰ	社会人類学は、生活現場の観察と時空間を超える比較研究とを組みあわせる手法により、人類文化の多様性（多様な生の可能性）と普遍性（交渉を通じた新しい共生の可能性）を考える学問である。本演習では、社会人類学分野の主要文献（古典的著作から最先端の著作に至るまでの）のなかから、紛争、政治、法、平和、人権、家族、生命倫理等を題材に相対主義と普遍主義の緊張関係について正面から論じた重要文献１冊を選んで精読・輪読するところから始める。そのことで、隣接学問分野の成果をも取り入れながら上記課題を一貫して追究しながら発達してきた社会人類学的思考の実践例に学び、受講生それぞれの発問力と探究力を鍛錬する。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学演習Ⅱ	人類学的調査に不可欠なフィールドワークを行ううえで基礎となる物の見方、聞き方、書き方を実践的に習得する。前期ではフィールドワークに関する文献と民族誌の読み込みと議論を重ねた後、実際に聞き取り（インタビュー）調査を行い、民族誌的作品としてまとめる。後期では、参与観察に関わる先行研究の読み込みと教室内の演習を行った後、実際に現場（フィールド）で参与観察を行い、その結果を民族誌的作品としてまとめる。文献講読を交えながらフィールドワークに欠かせない聞き取りと参与観察を実践することによって、座学のみではとらえられない「民族誌を書く」という営為を理解し、体得することを目的とする。	
専門教育科目群	社会人類学教室	民俗学演習	「国」という意識を超えて、東アジアの諸地域（日本、沖縄、中国漢族地域、中国少数民族地域、韓国、台湾など）を取り上げ、それぞれの民俗社会および伝統文化について、文献購読と討議形式によって授業を進めていく。 個々の民俗社会に関する歴史資料とフィルドワークに基づく民俗誌の講読と討議を通して対象地域の民俗文化についての認識を深めていく。それによって、自文化および異文化に対して民俗学的な視点に立脚した観察・理解能力を養うことが本授業の目的である。	
専門教育科目群	社会人類学教室	地域研究演習	社会人類学の基礎を学んだ３年次の学生を主に、現代的なテーマを中心としたテキストを輪読しつつ、参加者どうしの間で議論を深め、現代の世界の諸問題についての視野を広げることを目的とする。卒業論文執筆に先立ち、身近な題材を人類学的な視点で扱うためのヒントとなる文献を正確に読み込みこみ、他人の意見に耳を傾け、独自のテーマ設定を行い、調査を行うための能力を養うため演習を行ない、卒業論文の作成のための土台をつくる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会人類学教室	民族誌研究演習	社会人類学分野の3年次生を主対象とし、人類学の基礎を学んだことを前提に、現代的なテーマを中心としたテキストを輪読しつつ議論を深め、現代世界の諸問題を受講者が自分で考える能力を広げる。卒業論文執筆に向けて、身近な事象を人類学的な視点で扱うためのヒントとなる文献を読んで他のテーマに応用する力と、異なる地域の事象をつなぎ合わせる視点を獲得し、独自の問題設定を行うための基礎能力を養う。	
専門教育科目群	社会人類学教室	社会人類学特論演習	4年次生を対象とし、全教員が卒業論文執筆者に対して論文の書き方についての指導をおこなう。まず、前期のうちに論文執筆の計画、文献の表示、注の書き方等の執筆ルール、章構成、論述の方法を解説し、前期末に開催する卒業論文中間発表会に向けて、全受講者に中間報告の指導をおこなう。その後、後期にゼミ単位で論文指導をおこない、後期末に卒業論文発表会に向けた最終報告の指導によって、論文執筆の技法の習得、プレゼンテーション能力の向上を目指す。	
専門教育科目群	社会人類学教室	卒業論文	4年次生を対象とし、社会人類学特論演習における論文の書き方の指導をふまえ、全受講者に卒業論文の執筆・提出を義務付ける。まず、前年度末に決定した指導教員の計画にしたがって、履修年度前期からの社会人類学特論演習での個別あるいは集団で論文指導を経て、前期に卒業論文中間発表会、後期に卒業論文発表会を開催し、社会人類学分野内で研究成果を報告してもらう。卒業論文は毎年度1月上旬に提出する。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術論Ⅰ	現代社会におけるソーシャルワーカーの位置づけについて歴史的背景をふまえて学び、大学教育における専門職養成教育の意味について考える。そのうえで、社会福祉とその援助技術に関する基礎知識を身につける。ソーシャルワークを定義することがもつ意味内容について考え、ソーシャルワークの定義や倫理綱領を実践に結びつけて考える力を身につけることを目標とする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術論Ⅱ	ソーシャルワークの基盤と専門職としての意識を確立していく上で重要となる、ソーシャルワーク実践の価値と倫理について学ぶ。ソーシャルワーク実践には、倫理ジレンマが伴う。 なぜジレンマが発生するのかについて、「価値」の対立の構造を理解しつつ、ソーシャルワーカーとしての「価値」の実現について考える。取り上げる価値は、人権、尊厳の保持、利用者主体（利用者本位）、ノーマライゼーション、社会的包摂、社会正義、権利擁護、自立支援である。その上で倫理的ジレンマに直面したときに現場レベルでどう対処するか協議する。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学原論Ⅰ	社会福祉政策の歴史を概観した上で、現代におけるさまざまな社会福祉の具体的政策課題を取り上げる。それらのなかで議論され、蓄積されてきた社会福祉の理念や概念、そして論点について考える。これらを通じて、社会福祉をめぐる議論の現状を理解し、具体的な政策課題を論じる視点や枠組み、論じ方を習得することを目指す。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学原論Ⅱ	社会福祉政策や制度の背景にある概念や考え方などについて掘り下げて考える。また、社会福祉にまつわるイデオロギーについて考察する。社会福祉に関わる歴史や原理的な諸問題を学ぶことを通じて、現実の政策や制度を表層的にとらえるのみならず、それらを支える基本的な考え方を身につけ、さまざまな問題について自分の力で考える力を養うことを目標とする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会保障論Ⅰ	社会保障制度の概念、歴史、意義等を学び、主要な制度についての基礎知識を身につける。また、社会保障制度が抱える今日的課題を学び、その解決策を考える。制度としては、公的年金制度、公的医療保険制度、公的介護保険制度、雇用保険制度、生活保護、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉制度について、その仕組み、対象者、内容、課題を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会保障論Ⅱ	格差、貧困、雇用の悪化（非正規雇用の増加、ワーキングプア、ブラック企業、長時間労働など）、少子高齢化にかかわる諸問題（待機児童、晩婚・未婚化、ワークライフバランスなど）など、日本社会の抱える課題とそれらに対応する社会保障制度のあり方について、国際比較や各種統計、文献などから学び、それらを解決する方法について考える。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	児童家族福祉論Ⅰ	現代家族の構造と変化をデータと理論から学んだ後に、児童の発達に必要とされる養育環境についての理論を把握する。ついで、子どもの養育環境をめぐる問題、夫婦関係・親子関係を中心とした家族生活の諸問題に焦点を当て、問題の態様とその発生を説明する理論を解説する。さいごに、わが国において展開されている児童福祉・家族福祉政策の概要とその効果について検討し、諸外国における政策と比較してその有効性と問題を考える。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	児童家族福祉論Ⅱ	児童養護問題、児童虐待、ひとり親家庭問題、非行少年問題、DV等について理解を進め、これらに対する福祉対策を、児童福祉法、児童虐待防止法などの法制度、児童養護施設、専門里親、児童自立支援施設等のサービス体系、ファミリーソーシャルワーク、児童セラピーなどの援助方法について解説する。そのうえで、これらの児童問題、家族問題に対する予防や法制度の改正、サービスの整備、援助方法の発展等について論じる。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	高齢者福祉論Ⅰ	高齢者保健福祉に関わる制度・政策について講義する。具体的には、高齢者の身体的、心理的、社会的特性・ニーズの理解を図るとともに、少子高齢社会の特性を把握する。そのうえで、高齢者保健福祉制度・政策の理念、形成過程、法体系、課題について概観する。さらに、当該制度のなかでも介護保険制度に焦点をあて、その基本的枠組み、制度の仕組み、サービス体系について詳述し、加えて高齢者を支援する諸組織とそれらの役割についても言及する。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	高齢者福祉論Ⅱ	高齢者を支援（ケア）する方法論について講義する。高齢者、家族、地域社会が抱える高齢者支援のニーズを理解するとともに、高齢者支援に必要な相談援助（ケアマネジメントとソーシャルワーク）およびケアの技術と方法について概観する。また、高齢者支援の多様な実践活動のあり方を学び、具体的な事例を通して必要な技術と方法の展開過程を理解する。さらに、介護の概念、対象、過程について整理したうえで、認知症、終末期、環境上必要なケアのあり方について論じる。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	障害福祉論Ⅰ	個人の自由と利他主義との調整が福祉国家理論の基本課題であることを示したうえで、優生政策からノーマライゼーションに至る戦後障害福祉理念の形成を講義する。その後、日本の障害福祉制度の発展過程を、家族ケア、施設ケア、自立生活運動、基礎構造改革などに焦点をあてて概観する。全体を通じて、障害問題を当事者の視点から理解し、適切な支援をおこなうための基本姿勢を身につけるとともに、障害福祉施策の必要性について福祉国家理論との関連で理解させることを目標とする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	障害福祉論Ⅱ	障害者の生活基盤となる年金、医療、介護についての社会保障制度を概観したうえで、障害福祉サービス制度について詳しく紹介する。このほか、障害者雇用制度や精神保健福祉制度についても概説する。全体を通じて、日本の社会保障制度の概要のなかで障害者福祉制度の基本を理解すること、障害のある人の生活場面全体のなかで多様な社会保障制度を複層的に利用した支援アプローチを考えられるようになることを目標とする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	公的扶助論Ⅰ	近代における貧困の社会的意味および貧困に対する諸政策の社会的機能を学ぶ。「貧困」に与えられてきた社会的含意について考え、現代日本における貧困の現状を理解する。また、貧困に対する政策である公的扶助制度の歴史を国際比較も交えて理解する。さらに、公的扶助制度に内在する統治の問題、スティグマの問題などを考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	公的扶助論Ⅱ	公的扶助とは、経済的に困窮している国民の生活を国が保障する制度であり、社会保険などとともに社会保障制度の一翼を担っている。本講義では、日本における公的扶助の歴史を振り返った上で、生活保護制度の具体的な運営及び運用を、近年の生活保護法の一部改正や生活困窮者自立支援制度の内容も含め、理解する。また、低所得者対策全般の把握に努める。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	地域福祉論	日本における地域福祉の実践をひもとくための知識と分析の視点を身につけることを意識し、自身の言葉で地域福祉について説明できるように理解を深める。そのうえで、日本の地域福祉が歩んできた実践の歴史や研究の蓄積を参考にしながら、福祉の実践現場がこんにち直面している地域福祉の課題を理解し、今後の展開について考察する力を身につけることを目標とする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助実践の基盤となる基本的な理論と方法を学ぶ。特にミクロレベル～メゾレベルまでのソーシャルワーク実践を視野に入れた実践理論を学ぶ。援助とはどういうことか、ソーシャルワークの定義と倫理綱領、ソーシャルワーク実践で有用な多様なアセスメントに役立つ理論を学び、応用する。またソーシャルワークの基本プロセスを理解する。代表的な支援アプローチについて学び、事例にあわせて応用できるようにする。記録の意義と有用性を理解し、ソーシャルワーク実践記録が取れるようになる。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助の理論と方法Ⅱ	こんにちの日本における相談援助のあり方を、文献や報告書、実践事例、新聞・雑誌記事、視聴覚教材などをとおして学び、社会福祉実習の経験に照らし合わせながら、それらを批判的に検討する。また、コミュニティを基盤に展開される社会福祉援助（主としてメゾレベルからマクロレベル）に関する最新の実践動向を学び、現場で求められる実践のあり方について考える知識と能力を身につける。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉法制Ⅰ	社会福祉の法律的基礎について学ぶ。はじめに総論として、社会福祉法制の目的、歴史、理論、仕組みなど、社会福祉法の全体像を理解した上で、各論として社会福祉各法の概要を理解する。つぎに、福祉サービスの権利主体と実施主体、福祉サービスにおける公的責任、福祉サービスの権利性、福祉サービスの基準、費用負担などの社会福祉をめぐる論点について整理・検討することを通して、社会福祉法制の問題点を分析し、具体的な提言を行う基礎力の形成を目指す。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉法制Ⅱ	社会福祉法は「生きた法」である。法が現実社会においていかに機能しているのかについて、具体的な社会福祉・社会保障関連裁判事例（児童・障がい者・高齢者福祉、生活保護、医療、年金、介護、虐待、差別等）の検討を通して考える。社会福祉法が現代社会における諸問題に適切に対応しているのか、現行法制の問題の所在を明らかにし、問題解決方法を提言する力をつけることをめざす。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会統計学Ⅰ	社会調査データの分析に必要とななる統計学的方法の入門的講義と演習である。記述統計学および推計統計の基礎（なぜ統計学を学ぶのか、度数分布表の作成・グラフ、変動の指標、確率論の基礎、母平均の推定、母平均に関する仮説の検定、相関係数）の講義と演習を行う。数学的知識は前提としないが、数学は授業内で学習してもらう。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会統計学Ⅱ	推計統計学を学ぶ。推計統計学の初級レベルの知識（記述統計学および推計統計学の基礎の復習、クロス集計とx２検定、２群の平均値の差の検定、２群の比率の差の検定、１元配置分散分析、相関と回帰）の習得をめざす。社会統計学Ⅰを履修していなくとも統計学の知識があれば履修を認めるが、社会統計学Ⅰの知識を前提とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学基礎演習Ⅰ	社会福祉学でとりあげられる課題にはどのようなものがあるかを、文献・資料、インタビューなどを通じて理解していく。関心の提示・共有化⇒テーマ設定⇒情報収集⇒考察⇒分析⇒プレゼンテーション・レポート作成というステップを辿ることで、社会福祉学を学ぶ基本を身につける。社会福祉学基礎演習Ⅰでは、福祉に関する社会問題に関心をもちそれらについて能動的に調べ、プレゼンテーションする能力を身につけることに力点を置く。グループ内、あるいはグループ間の学生同士の議論を促進するとともに、プレゼンテーションの質を学生に相互評価させることを通じて、プレゼンテーション能力の向上を図る。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学基礎演習Ⅱ	社会福祉学でとりあげられる課題にはどのようなものがあるかを、文献・資料、インタビューなどを通じて理解していく。関心の提示・共有化⇒テーマ設定⇒情報収集⇒考察⇒分析⇒プレゼンテーション・レポート作成というステップを辿ることで、社会福祉学を学ぶ基本を身につける。社会福祉学基礎演習Ⅱでは、調べた事実や知見をもとに論を組み立て、レポートを完成させることに力点を置く。レポートの書き方の基本的なルールを習得し、レポート・卒業論文等の学問的文章作成のための基礎力を培う。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術演習Ⅰ	事例分析やロールプレイのほか、見学や体験学習や援助者／当事者のゲストスピーカーによる講義など多様な形態を通して、社会福祉実践の目的や価値・倫理、実践過程や援助技術・方法について具体的に学ぶ。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）障害領域演習 （26 和氣純子／3回）高齢領域演習 （38 長沼葉月／3回）児童領域演習 （48 室田信一／3回）地域領域演習	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術演習Ⅱ	「社会福祉援助技術演習I」で学んだ基礎的な援助技術を、さらに発展させていく。基礎実習の振り返りを行い、3年次以降の「相談援助実習」に向けた準備を行う。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）アドボカシー、ソーシャルアクション、スーパービジョン （26 和氣純子／3回）面接、ケアマネジメント、ケアカンファランス （38 長沼葉月／3回）アセスメント、心理社会療法、カウンセリング （48 室田信一／3回）グループテクニック、ネットワーキング、コラボレーション	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術演習Ⅲ	ソーシャルワーカーとして必要となる専門的な援助技術（特にケースワーク場面で必要になる技術）の習得を図る。自己覚知や自己理解を基底に、コミュニケーション能力や面接技法について、ロールプレイやワークを活用しながら学ぶ。また実践事例を検討しながら、アセスメントや危機介入、処遇計画を試行する。自己覚知・他者理解、ニーズや問題の発見、援助計画と相談援助、ナラティヴとリカバリーの概念、暴力や虐待へのアプローチ、スーパービジョンについて扱い「相談援助実習」に備えさせる。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術演習Ⅳ	グループワークやネットワークアプローチを中心に、ソーシャルワーカーとして必要となる専門的な援助技術のうちメゾ・マクロの技術について学ぶ。具体的にはグループワークについて、グループの体験を通してグループ力動や具体的な介入を学ぶ。サイコドラマやエンカウンター、心理教育、SSTといったいくつかの具体的なアプローチにそったグループワークの体験を通して実践的に理解する。またネットワークアプローチや連携については実践事例の模擬カンファレンスを実施し理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉援助技術演習Ⅴ	「相談援助実習」での体験をもとに、社会福祉援助技術の展開場面と過程を事例に即して実践的に理解し、必要な技術の習得を図る。具体的な事例を取り上げながら、利用者のニーズと社会福祉援助技術の相互作用プロセスについて分析し、効果について検討する。初回、中間回、最終回は4名教員全員で担当し、それ以外の回を杉野昭博（障害領域）、和氣純子（高齢領域）、長沼葉月（児童・医療領域）、室田信一（地域領域）が3回づつ担当する。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）障害領域演習 （26 和氣純子／3回）高齢領域演習 （38 長沼葉月／3回）児童領域演習 （48 室田信一／3回）地域領域演習	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助実習	社会福祉の相談機関または施設における180時間の現場実習を行う。実習では、利用者のニーズや社会福祉実践活動の実際の展開過程を理解するとともに、利用者や関係者と適切な援助関係を形成する能力や、組織やチームの一員として業務を遂行する能力の総合的な習得を図る。なお、実習中は「実習日誌」を作成し、現場指導者および担当教員によるスーパービジョンを行う。実習機関・施設に応じて全教員が巡回指導および帰校指導を行う。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助実習指導Ⅰ	社会福祉関連の相談機関又は社会福祉施設における180時間の「相談援助実習」のための事前指導を行う。各自の実習の課題と目的の明確化を図るとともに、実習機関・施設における社会福祉実践において求められる知識、方法、技術、倫理の理解とそれらの習得を図り、実習計画書を作成する。初回、中間回、最終回を全教員（杉野昭博・和気純子・長沼葉月・室田信一・岡部卓・矢嶋里絵・堀江孝司・阿部彩・安藤藍）が担当し、それ以外の回を杉野昭博（障害領域）、和気純子（高齢領域）、長沼葉月（児童医療領域）、室田信一（地域領域）が3回づつ担当する。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）障害領域演習 （26 和氣純子／3回）高齢領域演習 （38 長沼葉月／3回）児童領域演習 （48 室田信一／3回）地域領域演習	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助実習指導Ⅱ	「相談援助実習指導Ⅰ」による指導内容をさらに発展させ、社会福祉相談機関又は社会福祉施設における「相談現場実習」のための事前指導を行う。各自が実習する実習機関・施設について、組織体系、実践活動、利用者ニーズ、職種間連携、地域との関わり、職業倫理等について事前学習を行う。初回、中間回、最終回を全教員が担当し、それ以外の回を杉野昭博（障害領域）、和気純子（高齢領域）、長沼葉月（児童医療領域）、室田信一（地域領域）が3回づつ担当する。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）障害領域演習 （26 和氣純子／3回）高齢領域演習 （38 長沼葉月／3回）児童領域演習 （48 室田信一／3回）地域領域演習	オムニバス方式、一部共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	相談援助実習指導Ⅲ	社会福祉の相談機関または施設における180時間の「相談援助現場実習」の事後指導を行う。各自の実習体験を個別指導および集団指導によって振り返り、それらを言語化するプロセスを通して体験を深化させ、各自の実習課題の達成状況を評価し、援助技術の改善を図る。最終的に『実習報告書』を完成させる。初回、中間回、最終回を全教員（杉野昭博・和氣純子・長沼葉月・室田信一・岡部卓・矢嶋里絵・堀江孝司・阿部彩・安藤藍）が担当し、それ以外の回を杉野昭博（障害領域）、和氣純子（高齢領域）、長沼葉月（児童医療領域）、室田信一（地域領域）が3回づつ担当する。 オムニバス方式（全15回・初回と中間回と最終回の3回は4人全員で担当） （11 杉野昭博／3回）障害領域演習 （26 和氣純子／3回）高齢領域演習 （38 長沼葉月／3回）児童領域演習 （48 室田信一／3回）地域領域演習	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学卒論演習Ⅰ	卒業論文指導のための演習。卒業論文指導教員とテーマの設定、研究デザインを策定することを目的とする。主指導教員と副指導教員による個別指導や、小集団指導を受けながら、リサーチクエスチョンを明確化していく。また社会調査を取り入れた研究を立案する場合には、必要な倫理的な配慮について学ぶなど、学生が1つのテーマを長期にわたり追求し、検証、考察できる力を育成することを目標をする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学卒論演習Ⅱ	卒業論文指導のための演習。研究テーマにそって研究論文をまとめるために、データ分析手法や学術論文の記述方法に関して個別指導や小集団による指導を受ける。また全教員参加の中間報告会に向け研究のプレゼンテーションの仕方についても学ぶ。主指導教員、副指導教員をはじめとした全教員からの多様な指導形態を適宜取り入れて、学生が１つのテーマを長期にわたり追求し、検証、考察できる力を育成することを目標をする。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉学特論演習	社会福祉学的な研究手法について、以下２点を学ぶ。①研究計画の立案にいたるプロセスを学ぶ。まずは洋書も含めた関連文献資料についてクリティカルリーディングを行い、研究レビューを作成する。またリサーチクエスチョンに添ったデータ収集の方法を検討し、実現可能な研究計画の立案方法を身につける。②研究計画に沿って資料・データを収集し、分析し、それを考察して論述構成に取りまとめるプロセスを学ぶ。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉行政論	第二次世界大戦後の日本の社会福祉行財政の歴史を概観した上で、社会福祉基礎構造改革以降の近年の動向について学び、現在の社会福祉行財政システムを把握する。具体的には、日本における税財政、政府間関係、政策決定過程を踏まえ、国と地方公共団体の役割分担、社会福祉の財政、社会福祉の実施体制、地域福祉計画その他の福祉計画の知識を得る。その上で、社会福祉行財政の全体像を捉えるとともに、現状と課題を理解する。	
専門教育科目群	社会福祉学教室	社会福祉組織論	社会福祉基礎構造改革以降の新しい法制度システムのもとでは、これまで「処遇」とされたものが、「サービス」と呼ばれるようになった。これからの社会福祉サービスの提供のあり方を検討するとともに、どのような理念のもとで社会福祉サービスが提供されるべきか、基本的な社会福祉の経営・管理はどこに重点をおくべきか等について整理する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （人文社会学部　人間社会学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	社会福祉学教室	卒業論文	社会福祉学の卒業論文では、社会福祉が対象とする諸問題を、構造的・社会的文脈の中でとらえ、その解決方法を見つける能力と専門的知識を有しているかが問われる。履修者は、ひろく社会福祉に関連する問題について卒業論文として取り組むことができ、先行研究のレビューと、理論的・経験的分析の双方が必要とされる。また定期的に進捗状況の報告が求められる。	
専門教育科目群	心理学教室	心理学概論Ⅰ	心理学にはさまざまな領域があるが、それらについて幅広い知識を持っていることが、人の 「こころ」の全体的理解に欠かせない。本授業では、以下の領域における重要な研究を取り上げ、英文テキストや英文の雑誌論文を講読する。研究事例を素材として心理学の研究の進め方や考え方について学びながら、基礎的かつ重要な概念や理論についても学んでいく。また英語の文献を読む力を養う。 オムニバス方式（全15回） （21 平井洋子／2回）導入 （21 平井洋子／6回）方法論や測定論の領域を担当する。 （49 山際勇一郎／6回）社会心理学、人格心理学の領域を中心に担当する。 （21 平井洋子・49 山際勇一郎／1回）まとめ	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	心理学教室	心理学概論Ⅱ	心理学にはさまざまな領域があるが、それらについて幅広い知識を持っていることが、人の 「こころ」の全体的理解に欠かせない。本授業では、以下の領域における重要な研究を取り上げ、英文テキストや英文の雑誌論文を講読する。研究事例を素材として心理学の研究の進め方や考え方について学びながら、基礎的かつ重要な概念や理論についても学んでいく。また英語の文献を読む力を養う。 オムニバス方式（全15回） （34 酒井厚／2回）導入 （34 酒井厚／4回）発達心理学や情動、文化などの領域を担当する。 （30 石原正規／4回）実験心理学の領域を中心に担当する。 （10 下川昭夫／4回）臨床心理学や医療心理学の領域を担当する。 （34 酒井厚、30 石原正規、10下川昭夫／1回）まとめ	オムニバス方式、一部共同
専門教育科目群	心理学教室	心理統計学Ⅰ	統計学の初学者を対象に、基礎的な記述統計学の手法を学ぶ。講義と問題演習によって統計的な概念や考え方についての理解を深め、心理学研究で適切に使用したり文献中の記述を理解したりするための注意点などを学ぶ。本授業では、データの要約と表示に用いられる図表、代表値や散布度などの要約統計量、相関係数、回帰分析、正規分布などを取り上げる。	
専門教育科目群	心理学教室	心理統計学Ⅱ	『心理統計学Ⅰ』で取り上げた統計手法や指標についての知識があることを前提に、データから判断を導く推測統計学の基礎的な考え方を、講義と問題演習を通じて身につける。標本と母集団の考え方、推定の考え方、標本誤差の考え方、平均値や相関，比率に関する基本的な統計的検定法などを取り上げ、それらのしくみや用いる場面、結果の解釈のしかた、限界などについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	心理学教室	心理学方法論演習Ⅰ	心理学の諸領域で発達してきた研究法は種々あるが、そのうち基本的なものについて、実際に自分たちで遂行しながら心理学研究の方法論を身につける。取り上げる研究法は、実験室実験の行いかた、各種の心理検査の実施のしかた、行動観察や面接でのデータの収集方法などである。それぞれの研究デザインの持つ意味や特徴についての理解を深めるとともに、心理学という学問の特徴である、事象に対する実証的・客観的な視点を養うことを目的とする。 オムニバス方式（全15回） （18 沼崎誠、21 平井洋子／1回）導入 （10 下川昭夫／1回）心理検査や面接法などを担当する。 （18 沼崎　誠／2回）対人場面を中心とした実験室実験を担当する。 （21 平井洋子／1回）質問紙法や研究法概論を担当する。 （30 石原正規／2回）知覚や行動を中心とした実験室実験を担当する。 （34 酒井厚／1回）行動観察や面接法による子どものデータの収集方法を担当する。 （49 山際勇一郎／1回）対人場面を中心とした実験室実験を担当する。 （51 天野陽一／3回）質問紙法や統計ソフトによる分析を担当する。 （54 佐藤章子／3回）心理検査や臨床技法などを担当する。	オムニバス方式 一部共同
専門教育科目群	心理学教室	心理学方法論演習Ⅱ	この授業では、学生は自分の関心に従って研究テーマを選び、それを検証するための実験・調査・観察・面接などを自ら企画し実施する。はじめの漠然とした興味・関心から検証可能な研究仮説へと具体化していくまでのプロセス、読むべき文献や先行研究の紹介、調査等の進め方やデータ処理のしかたなどにおいて、各教員は個々の学生に合わせた指導を行い、学生が自らの力で研究を遂行できるように支援する。『心理学方法論演習Ⅰ』を履修していることを前提とする。	共同
専門教育科目群	心理学教室	心理学方法論演習Ⅲ	心理学分野で『卒業論文』の単位を取り卒業しようとする学生を対象とした演習である。この授業では、学生は自分の研究テーマをさらに深め、より進んだ実験・調査・観察・面接などを自ら企画し実施する。各教員は、個々の学生の関心や進捗状況に合わせた指導を行い、研究仮説の構築、研究の具体的なデザイン、データの処理、結果の解釈などについてアドバイスを行い、より精緻で内容豊かな研究に結びつくよう支援する。	共同
専門教育科目群	心理学教室	実験心理学	実験心理学の概説授業である。実験心理学が扱う研究領域について、例えば感覚・知覚、記憶、学習、認知、行動など、基本的な事柄を方法論も交えながら解説する。人間の心のはたらきの諸側面のうち、知覚、記憶、学習、認知の領域は、人間の心のはたらきの基礎をなす基本的な領域であり、これらのメカニズムと機能的特徴を理解する。またこれらがどの様に行動と関わっているかについての理解も深める。実験心理学の基本的な手法を理解することにより、心理現象を実験心理学的にとらえることの意義の理解と、実験心理学的なものの見方の修得を目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	発達心理学	発達心理学を専門的に学ぶための入門科目である。人間の生涯における心理社会的な発達について、乳児期から高齢期までの各年齢段階で特徴的な事柄を中心に講義を進め、学生の発達観を養うことを目的とする。また、発達心理学と関わりの深い近接科学である発達精神病理学や行動遺伝学などの先端的な知見にも触れ、学生が発達心理学への関心を高め、個人の発達を多角的な視点から包括的に捉えられるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	心理学教室	臨床心理学	臨床心理学の基礎と実践に関する概観について論じる。基礎的理解の視点として、心の問題について、その「病理の理解」について説明し、さらに実際的関わりにおいて重要となる「人格の理解」「発達的理解」「社会・文化的理解」を概観する。次に実践的治療の方法としての「治療技法」の基本的特徴について解説し、実際の事例報告やビデオ等の教材を用いた具体例を示しつつ、実践的理解を深めるとともに、実学としての臨床心理学のありかたを学んでいく。	
専門教育科目群	心理学教室	医療心理学	医療現場で必要となる臨床心理学・精神医学・福祉・コミュニティなどの基礎知識の獲得を目指す。そもそも心理査定・心理面接といった臨床心理学の重要な分野は、医療現場で心理学がどのような貢献ができるかという観点から発展してきた。これらの臨床心理学的知識に加えて、医療現場では脳・神経・精神に関する精神科的知識が必要とされる。また虐待や発達障害、地域臨床などに関する知識も必要である。これらを総合的に講義することで、医療現場で働く心理士が必要な知識の基礎を身につけることが目的である。	
専門教育科目群	心理学教室	社会心理学	本講義では、社会心理学の幅広い領域の基礎的な知見を紹介する講義を行う。社会心理学では、社会的場面における個人の認知・感情・動機づけ、そして個人の社会的行動に関する科学的研究を目指している。社会的とは実在および想像上の他者の存在を前提とするような状況であり、我々の生活のほとんど全ての状況が含まれる。個人の行動の原因を、それをした個人ばかりではなく、行動のなされた状況にも求め、それらの相互作用の産物と見なすことに社会心理学の研究視点がある。社会心理学の知見ばかりでなく、それらが得られた研究手法まで含めて理解を深めることを目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	認知心理学	認知心理学に関わるさまざまな基礎的な問題を取り上げ、認知心理学についての幅広い知識の獲得を目指す講義を行う。内容としては、パターン認知、意識と注意、情報処理、記憶システム、知識の表象、心的イメージ、記憶の神経学的基礎、言語理解の心理学的メカニズム、言語学習、認知学習、問題解決と意思決定、思考のメカニズムなどが含まれる。また、認知心理学の応用的な側面についても概説する。また、認知心理学に関する基本的な方法論と歴史について講義する。	
専門教育科目群	心理学教室	実験心理学特殊講義	前期の「実験心理学」で扱わなかった研究領域に関する概説授業である。人間の感覚・知覚系、認知系、および運動系機能についての特徴を解説する。また神経心理学、身体性や社会性の脳科学についても触れ、今日の実験心理学がどの様な方法で行われ、発展しているかを紹介する。実験心理学の視点から、人間の知覚、認知、行動のもつ意味を分析的、統合的に考えられるようになり、環境への適応に関わる諸問題の理解、解決に役立てるための能力の修得を目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	発達心理学特殊講義	発達心理学が乳児期から高齢期までの生涯発達において対象とする主要なテーマ、例えば乳児期の愛着や児童期の仲間関係、青年期のアイデンティティなどについて、学生がそれらの一般的な発達と発達の個人差について詳細に学ぶ機会を提供する。授業では、当該の研究テーマに関わる社会的なトピックスを挙げたり、具体的な研究の方法論を解説することを通じて、学生が発達心理学をより専門的な水準で理解することを促す。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	心理学教室	臨床心理学特殊講義	臨床心理学の中で特に重要となる理論について、その理解を深めていく。臨床心理学の理論は、心理臨床の実践をしていく上で必要となる技法論を問題とする、きわめて方法論的な学問である。しかし、その背景には、その理論を構築した治療者の人間理解の知見がある。今日大きな影響力を持っている理論として、S.フロイト、C.G.ユング、K.ロジャースなどの考え方には、彼らの臨床体験や人生経験が大きく影響している。そのような個人的体験と結びつけながら、理論についての理解を深めていく。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	計量心理学特殊講義	研究で収集されたデータ検討するための具体的な手法や実例、および問題点についての解説を行う。年度により、心理測定論やデータ解析法の中から学生のニーズを考慮してトピックを選ぶ。心理測定論では、質問紙法の諸問題、測定の信頼性と妥当性などを、データ解析法では、多変量解析（探索的因子分析や確認的因子分析、重回帰分析、構造方程式モデリングなど）や統計的検定法の諸問題などがトピックとなる。講義のほか、解析の実演や簡単な実習なども取り入れ、各種の手法が実際に使えるようになるよう配慮する。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	医療心理学特殊講義	医療現場で遭遇する様々な課題について、応用的視点から様々なトピックと取り上げ講義する。従来、医療現場では心理士は神経症や人格障害、うつといった精神科的課題のクライエントに対して心理検査や心理療法などを担当することが多かった。しかしながら近年、認知症・発達障害・児童虐待など様々な現代的課題を扱う機会も増えてきている。そのため、それぞれの課題の特殊性を理解すると共に、様々な関係機関の特性も理解し、連携が必要となってきている。このような様々な現代的要請に対して心理臨床の基礎的知識をどのように応用して考えていけばよいのか論じる。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	社会心理学特殊講義	本講義では、社会心理学の特定のトピックスに関して専門的で掘り下げた内容の講義を行う。社会心理学は、社会的場面における個人の認知・感情・動機づけ、そして社会行動に関する科学的研究である。実証的研究の手法で得られた社会心理学の最新の研究知見を紹介する。単独の実証研究で明らかにできることと、複数の実証研究の中で明らかにできることを区別し、社会心理学的知見が複数の実証研究の中で蓄積されていく研究過程に関する理解を深めることも本講義では目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	認知心理学特殊講義	認知心理学の諸領域のうち、パターン認知、意識と注意、情報処理、記憶システム、知識の表象、心的イメージ、記憶の神経学的基礎、言語理解の心理学的メカニズム、言語学習、認知学習、問題解決と意思決定、思考のメカニズムなどの中から、今日的なトピックスを取り上げ、そのメカニズムについて解説する。また、認知心理学の応用的な側面についても具体例をあげ、説明する。さらに、認知心理学に関する基本的な方法論と歴史について講義する。	
専門教育科目群	心理学教室	心理学特殊講義	心理学の主要な領域には、感覚・知覚、記憶、学習、認知・思考、社会行動、対人認知、感情・動機づけ、人格、発達、臨床などがある。これらの領域は、それぞれに歴史を持ち、知見を積み重ねてきた。それだけでなく、現代社会で生じる今日的な問題に対処すべく、新たな研究テーマも次々と生まれている。本講義では、これら心理学の主要な領域の中から特定の研究テーマを取り上げ、それについての歴史的な経緯や蓄積されてきた知見、最新の研究動向、今後の課題などについて講義と解説を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	心理学教室	応用心理学特殊講義	心理学は、人の「こころ」のはたらきや行動を探る学問である。人の「こころ」は、現代社会の中で人間が関与するあらゆる側面に関連してくる。実際、工学、生理学、教育学、社会学、経済学、法学、その他の学問と隣接した分野で、心理学的な視点とアプローチ法を活かした応用的な研究がなされている。本講義では、心理学が日常生活のさまざまな場面にどのように関われるのかについて、学際的・応用的なトピックスや最新の研究テーマを取り上げ、講義形式で解説していく。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	実験心理学演習	実験心理学、認知脳科学、運動行動科学領域における人間の知覚や行為に関連する研究論文を講読することを通して、人間の知覚-運動系のメカニズムと機能的特徴を理解する。研究論文の読み方、先行研究に対する客観的な批判能力、研究を進める上で必要とされる論理的な思考能力を培うことを目指す。主に、英文で書かれた研究論文を取り上げることで、英語論文を読んで理解する能力も身につけさせる。また、研究論文で取り上げられている手法や関連する問題についての解説も行う。	
専門教育科目群	心理学教室	発達心理学演習	学生が発達心理学における著名な研究についてプレゼンテーションを行い、研究の具体的な方法や結果がその後の学術的な発展や社会に与えたインパクトについて、批判的な視点も含めて学ぶ。また、学生同士でグループを形成し、発表された研究テーマをさらに発展あるいは応用する研究計画を立案し、自らのアイディアを具体的な研究実施につなげる力の習得を目指す。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	臨床心理学演習	臨床心理学における技法や理論について、具体的な体験学習を中心に行いながら習得していくための演習である。体験的学習の内容としては、ロールプレイ、サイコドラマ、箱庭療法、コラージュ療法など、実際の臨床場面で用いられている技法について学んでもらう。個々人が体験した技法の理解をさらに深めるために、関連する文献等を取り上げ、各自がレポーターとなり、まとめて発表する。これにより、さらに主体的な姿勢での理解を深めることを目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	計量心理学演習	心理統計学の基礎を一通り学んだ学生を対象として、心理学研究に必要なデータ解析の知識とスキルを身につける。基礎的な内容については、統計ソフトを用いてデータの編集、各種の図表の作成、記述的指標の出力、統計的検定の実行ができること、および統計ソフトの出力から適切な情報を読み取り論文やレポート中に記述・解釈できるように実習を行う。多変量解析などやや高度な統計手法については、詳しい解説を行って知識を身に付けた上で実習を行い、実際に使えるようになることを目指す。	
専門教育科目群	心理学教室	医療心理学演習	医療現場で必要となる基礎知識や応用的考え方を身につけることを目指す。医療現場での心理士は主に、心理査定・心理療法の知識や考え方が必要とされる。そのため本演習では演習・講義・輪読などを通じて、心理査定や心理療法の基礎的な知識や考え方を十分に身につけてゆく。また今後、医療と緊密に連携してゆく必要がある教育・福祉現場での見学や実習も可能であれば、実現できるかもしれない。これらの演習を通じて医療現場での心理士に必要な知識や考え方を身につけるのみならず、関係機関と連携したクライエント中心の心理臨床的支援の可能性を議論してゆく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	心理学教室	社会心理学演習	本演習では、社会心理学の主に英文学術論文（和文論文を用いることもある）の講読を行う。社会心理学は、社会的場面における個人の認知・感情・動機づけ、そして社会行動に関する科学的研究である。社会心理学の古典的な研究から、最新の研究まで、学術誌に掲載されたあるテーマに沿った論文を講読することにより、学術雑誌論文を自由に読みこなせるようになることを目指す。その中で、社会心理学的考え方、実証的研究手法、統計的手法を習得することにより、自分で研究を計画し、実施できるようになることも本演習の目的となる。	
専門教育科目群	心理学教室	認知心理学演習	パターン認知、意識と注意、情報処理、記憶システム、知識の表象、心的イメージ、記憶の神経学的基礎、言語理解の心理学的メカニズム、言語学習、認知学習、問題解決と意思決定、思考のメカニズムなどに関連する内外の研究論文を講読することを通して、人間の認知メカニズムを理解するとともに、研究論文の読み方、先行研究に対する客観的な批判能力、研究を進める上で必要とされる論理的な思考能力を培うことを目指す。英語の読解力を身につけさせるとともに、研究論文で取り上げられている実験手法や関連する問題についての解説も行う。	
専門教育科目群	心理学教室	応用心理学演習	人の「こころ」は、現代社会の中で人間が関与するあらゆる側面に関連してくる。実際、工学、生理学、教育学、社会学、経済学、法学、その他さまざまな学問と隣接した分野において、心理学的な視点とアプローチ法を活かした応用的な研究がなされている。本演習では、学際的・応用的なトピックスや最新の研究テーマに関わる書籍や論文を取り上げ、演習形式で講読することで、現代社会に生きる人間の理解を深めることを目指す。	隔年
専門教育科目群	心理学教室	心理学演習	心理学の主要な領域には、感覚・知覚、記憶、学習、認知・思考、社会行動、対人認知、感情・動機づけ、人格、発達、臨床などがある。これらの領域は、それぞれに歴史を持ち、知見を積み重ねてきた。またそれだけではなく、現代社会で生じる今日的な問題に対処すべく、新たな研究テーマも次々と生まれている。本演習では、これら心理学の主要な領域の中から特定の研究テーマを取り上げ、それについての文献を講読したり、心理技法を実習・検討したりすることで、人の「こころ」の理解を深める。	
専門教育科目群	心理学教室	卒業論文	学生は、心理学の諸領域における内容について、自分なりの関心にもとづき、文献研究等をふまえて研究テーマをさらに深め、より進んだ実験・調査・観察・面接などを自ら企画し、学術論文を仕上げていくことを目標とする。	
専門教育科目群	教育学教室	教育原理Ⅰ	人間の成長・発達という相から教育とは何かを問い直す。人間の成長・発達は社会と文化の中で、大人や周りの人々からのさまざまな働きかけを媒介としながら実現していく。それと同時に、それぞれの個人がおかれた社会的諸環境は、その成長・発達にさまざまな影響を与える。そうした中で、教育とは何か、何ができるのか、教育は他の社会的諸機能とどう関連し合うのかなどを考えてゆきたい。	
専門教育科目群	教育学教室	教育原理Ⅱ	教育に関する法制度的な根拠を踏まえながら、教育機関の運営、そしてそこで働く教育職員の専門性をめぐる現状と課題について学ぶ。そのことを通して、教育と社会との関わり・教育機関の役割と機能について、その基礎を理解できるようにする。特に、教育基本法（人格の完成、不当な支配、教育を受ける権利）、学校の運営と評価（学校評価、教育課程、学校運営）、義務教育費の負担、教師の力量形成（養成、採用、研修）を扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	教育心理学	青年期の自己形成、子どもから大人にいたる人格や認知・社会性などの発達について講義する。心理学的な知識を学ぶだけでなく、受講者には自分自身の小学校高学年から現在に至るまでの長期の体験を思い出していただきながら、自分の生きてきた道筋をあらためて振り返る機会とする。また、青年期をテーマに取り上げた様々な題材なども用いて、発達の諸問題を考察する。また、学校における発達障害児への理解と支援などについても取り上げる。	
専門教育科目群	教育学教室	青年心理学	教育実践の前提として、児童･生徒の心と行動を理解することが求められる。その際、人間発達の視点から理解することは重要かつ有力な視点である。そこで、まず「青年期の発達」に関して、聴講者自らが自分と自分の周囲にいる人達の青年期について自省し、交流することに取り組む。さらに、青年期に関する今日的な問題と、その心理学的な理論について紹介しつつ考察する。つぎに、発達の初期の問題をとりあげる。人間の初期発達に関する理論や現代の子育ての状況について概説し、考察する。さらに、学ぶことの前提としての、学習の心理やコミュニケーションの成立という視点からも児童・生徒の心と行動がどのように理解できるのかについても取り上げて考察する。	
専門教育科目群	教育学教室	教育方法論	教育方法は、学力観・子ども観・発達観などによって影響を受け、時代と共に変遷していく。今日、期待される教育がいかなる方法を必要としているのか、以下の3つの視点から考察する。 学習と教授の理論からみた教育の方法について 教育評価の目的と方法について 授業実践と授業論から学ぶ とくに、授業に関して、学習感、能力感が授業の形式といかに関係するかについて、受講者の授業に関するイメージを題材として討論することによって考察を深める。	
専門教育科目群	教育学教室	視聴覚教育	学校教育・社会教育における視聴覚教育の基礎を、教育という営みについての基本的理解を前提にして、メディア・リテラシーの立場から考察するとともに、視聴覚教育の教育方法上の特徴をとりあげる。内容は、メディアの歴史と役割、教育における直接経験と間接経験、メディアとしてのコンピューター、教育方法としての視聴覚教育、視聴覚教材作成の基礎知識である。	
専門教育科目群	教育学教室	教育課程論	教育課程の編成の方法およびその意義について講義する。教育課程の編成権の所在、教育課程編成の歴史について概論を講義した上で、いくつかの事例に則してカリキュラム編成法についての基礎的な素養を養成する。	
専門教育科目群	教育学教室	道徳教育の理論と方法	道徳とは何か、それは教えられるのか否か、教えられるとすれば誰がどのように教えるのか、といった道徳と教育との関わりを根元的に問い質し、道徳教育を人間の共同生活全体から捉え返すことの重要性について考察する。とりわけ、知識や技術を「教育する」ことと、道徳を「教育する」ことの本質的な相違について理解させる。 また、日本の学校における道徳教育の歩みを概観し、問題点を明らかにするとともに、世界の主要諸国における道徳教育の現状及び宗教教育との関わりについて分析する。道徳性の発達についてのピアジェ、コールバーク及びブル等の理論を検討し、生徒の道徳性の発達を促す諸要因について考察する。	
専門教育科目群	教育学教室	進路指導	進路と職業の選択は中等教育（中学・高校）からそれ以降の段階の若者にとって中心的テーマの一つである。それとともに近年の雇用と職業をめぐる社会の変化、学校から仕事への移行過程をめぐる変化などは、一層問題を複雑にしている。この科目では、思春期・青年期の発達の中での進路や職業選択をめぐる原理的な問題を明らかにするとともに、今日の社会的な変化の中での進路指導の課題を掘り下げる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	特別活動	我が国の学校教育では、教科教育と並んで特別活動が大きな比重を占めてきた。中学校・高校における学級活動/ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、また集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、どのような指導をしていけばよいのかを、具体的な事例をもとに検討し、実践的な指導力を養う。	
専門教育科目群	教育学教室	教育相談	現在、不登校など学校教育の諸問題が注目されている。教育相談は、子どもの心がより伸びやかになり、自己実現をめざしてすすんでいけるように、周囲にいる関係者がより適切な心理社会的環境を作り出す実践的援助活動である。 学校教育における教育相談の意義について考えながら、生徒理解や相談活動についての基礎知識を講義、グループでの学習活動、討議などを通して学ぶとともに、援助活動の基盤となる対人関係のあり方や自分の心の動きについて体験的理解をめざす。	
専門教育科目群	教育学教室	教育学入門	教育学分野を専攻する学生の必修授業であり、教育学の基礎的知識、考え方、研究方法について修得することを目的とする。 オムニバス方式（全30回・全スタッフで担当） （以下の全教員／1回）ガイダンス （58 松下丈宏、56 哈斯格日楽／1回）文献検索 （20 濱谷直人／4回）臨床発達支援 （19 野元弘幸／4回）多文化教育論、社会教育施設見学 （4 荒井文昭／4回）教育行政学 （39 西島央／4回）教育社会学、学校見学 （35 杉田真衣／4回）ジェンダー論、青年論 （33 金侖貞／4回）現代社会教育 （36 田中浩司／4回）発達心理学	オムニバス方式
専門教育科目群	教育学教室	教育史	日本近現代教育制度の成立と展開を、それを生みだした教育思想を交えて講義する。近代学校「学制」（1872年、皆学）は徴兵令（1873年、皆兵）とともにはじまる。帝国憲法（1889年）と教育勅語（1890年）によって天皇制教育制度は確立する。アジア太平洋戦争の人々の犠牲（2000万人以上）を経て、民主的な戦後の教育制度は成立する。そして、戦後70数年、経済成長とグローバリゼイーションのなかで、「教育の本質」は問われ続ける。教育史の理解を通して、現代の教育がより深くみえてくる。	
専門教育科目群	教育学教室	教育哲学	教育という行為が、人をある目標に向かって育てるための意図的組織的な働きかけであるとすれば、その行為は価値と不可分の関係にある。だが同時に人をある目標に向かって意図的組織的に育てる行為はすべて教育であると果たしていえるか。その行為が「教育である」とする判断は何に基づいて可能か。本講義では、「教育的価値」とは何かを中心に、教育と価値との関係について検討を加える。	
専門教育科目群	教育学教室	教育社会学	教育を社会事象としてとらえ、社会においてどのような機能を果たしているのか理論的に考察する。その対象は、制度・政策、学校文化、学校知、社会および文化の再生産機構としての学校、社会移動の手段としての学校など、多様である。またそのアプローチも、機能構造主義、社会構築主義、社会的リアリスト、葛藤論、エスノグラフィー、参与観察など多様である。本講義では、とくに学校の社会的機能である〈社会化、選抜、正当化〉を具体例に取り上げて、教育社会学のさまざまなアプローチから考察を深めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	教育社会学演習	教育を社会事象として捉え、社会においてどのような機能を果たしているのか考察するためには、理論的な検討だけでなく、実証的な検討も必要である。とくに近年ではエビデンスベースドに教育を論じることが求められるようになってきている。そこで本演習では、小・中・高・大学生または教員等を対象にした質問紙調査または観察・インタビュー調査などを実際に経験しながら、社会調査に関わる資料の蒐集のしかた、調査方法の選択のしかた、質問紙のつくりかた、調査の実施のしかた、クロス集計などの分析のしかた、レポートのまとめかたなどを習得していく。	
専門教育科目群	教育学教室	学校文化研究	学校を訪れると、そこには学校それぞれに独特の空気がある。暖かみがあって居心地のいい学校、生徒たちがのびのびとしている学校、どこか緊張感の走る学校、整然としたしかし冷たい空気の学校等々。学校の持つ教育力・人間形成力は、その学校の個々の教師の力量や授業を単純に合計したものではなく、教師集団と生徒集団との共同の中でつくり出される「学校空間」「学校文化」そのものにある。この演習では、学校観察を通して、一つ一つの学校がもつ文化に迫り、それぞれの学校がどのような人間形成力をもつかを、ともに検討する。授業中の教室、休み時間や昼休みの生徒、保健室、廊下や校舎の片隅など、学校を多面的な角度から観察し、総合的にとらえることを通して、「一つの学校空間」を共同して描き出すことを目標とする。	
専門教育科目群	教育学教室	臨床教育学演習	幼児期から学齢期までの教育，保育実践の諸問題を捉えるための理論的，方法論的枠組みについての理解を深めることを目的とする。全体で保育，幼児教育，放課後児童クラブに関わる基礎的な文献購読を行いながら，受講者が自らの教育的関心を出しあう中でテーマを設定し，小グループでの調査を行い，発表，討議を行う。	
専門教育科目群	教育学教室	教育行政学Ⅰ	この授業では、教育の決定をだれがおこなっているのかを基本テーマとしながら、日本における教育行政のあり方、および教育行政学の基礎について学ぶ。特に、憲法（教育を受ける権利、子どもの権利）、教育基本法（教育の目的・目標、教育の機会均等、教育と教育行政）、教育委員会制度（教育委員会法、制度の変遷）、教育機関（教育機関とその組織、教育職員）について扱う。	
専門教育科目群	教育学教室	教育行政学Ⅱ	この授業では、教育の決定をだれがおこなっているのかを基本テーマとしながら、日本における教育行政のあり方、および教育行政学についての基礎をふまえながら、その発展を追求する。特に、憲法（教育を受ける権利、子どもの権利）、教育基本法（教育の目的・目標、教育の機会均等、教育と教育行政）、教育委員会制度（教育委員会法、制度の変遷）、教育機関（教育機関とその組織、教育職員）について扱う。	
専門教育科目群	教育学教室	教育行政学演習	「だれが教育を決めているのか」という視点から、自治体の教育調査を設計し実施することにより、人事・予算・カリキュラムをめぐる教育法規定とその運用動態を分析していく。教育調査を設計し実施することを通して、教育行財政制度にかんする法規定とその運用動態についてゼミ集団で議論し、自分の研究テーマをみつけだし、それを追求していける力を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	臨床発達学演習	幼児期から思春期前期頃までの子どもがかかえる発達上の困難（不適切な養育、障害などに起因する）について、その実際を理解し、それに対してどのような教育的、心理的支援が行われているかについて学びます。 全体で、子どもの精神病理的な発達に関する基本的な文献講読を行いながら、同時に受講者それぞれが臨床発達に関する具体的なテーマにそって小グループで調査などによる研究を行います。	
専門教育科目群	教育学教室	生涯学習概論Ⅰ	社会教育の法と制度、社会教育・生涯学習概念の整理、社会教育の歴史、公民館における具体的な学習活動など、生涯学習に関する基礎知識を習得する。その際、現代社会における青年・成人の学習活動の意義について、ユネスコの学習権宣言や震災と社会教育という具体的な事例を参考としながら考える。また、今日的な課題である「社会教育における自由と自治」の問題について、社会教育法制定時の寺中作雄氏の法解釈を振り返りながら考える。	
専門教育科目群	教育学教室	生涯学習概論Ⅱ	生涯学習が、人々の一生の問題であることと、人間発達の各時期における学習課題を明らかにする。生涯発達心理学の知見を生かしながら、人間発達の各時期、特にこども、青年、高齢者の発達課題を明らかにする。そのうえで、各時期の学習課題と社会教育の活動を事例をあげて説明する。特に、青年期はこども期と大人期の移行過程であるので、職業的アイデンティティ、資格習得の意味、人生展望の獲得などの学習機会と活動について力をいれる。同時に、ユネスコ、国際連合などの国際機関の取り組みを説明し、わが国の生涯学習の国際的位置をたしかめる。	
専門教育科目群	教育学教室	社会教育計画論Ⅰ	まず、現行社会教育法制（社会教育法、図書館法、博物館法）及び生涯学習関係法（生涯学習振興整備法、職業能力開発促進法など）による社会教育計画及び生涯学習計画の理念、在り方を考察する。つぎに、社会教育計画の主体の問題について考察すると共に、生涯学習計画との異同を明らかにすることによって、社会福祉、職業訓練と社会教育・学校教育の連携を基礎とした計画づくりの必要性と意義をとりあげる。そのうえで、ケースの学習をおこなう。	
専門教育科目群	教育学教室	社会教育計画論Ⅱ	社会教育計画を具体的に策定し推進するうえで欠くことのできない社会教育施設の具体的運営、とりわけ公民館の運営や事業展開についての見識と具体的スキルについての理解を深める。公民館活動の先進的取り組みを行う市町村に注目し、公民館における学習活動、職員の仕事、教育委員会における計画策定の手続きなどを具体的に見ながら、理解を深める。講義形式ではあるが、地域調査や施設見学などを、公民館職員や社会教育主事などのゲストを招いて講義してもらう。	
専門教育科目群	教育学教室	社会教育学特殊講義Ⅰ	社会教育学、生涯学習への理解は、学校や社会教育施設、市民団体における学習活動の理解や理論学習だけでは深まらない。それは一般的な社会理論、財政学、経済学、労働論、文化論、芸術論、科学論、生命倫理、身体論、余暇論、環境、保健衛生など、多岐にわたるものである。特殊講義IIでは、社会教育関連領域で、社会教育実践の理解に不可欠な領域の専門家に講義を依頼し、幅広い知識、智慧と経験を学生に提供するものとして想定している。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	社会問題と社会教育Ⅰ	現代社会が抱える様々な社会問題の解決にとって、学習・教育活動が不可欠であることをまずは認識するために、部落解放運動など差別や人権に関わる民衆運動の歴史の中での学習運動の特徴と原理を紹介する。次に、現代社会において最も大きな課題の一つである国際化や多文化・多民族化へ対応するための社会教育のあり方を検討する。その際、外国人学校や地域における日本語教室の見学を行い、実際にどのような学習活動が行われているか、そのような課題を抱えているかを知る。	
専門教育科目群	教育学教室	社会問題と社会教育Ⅱ	社会問題の解決に不可欠な学習活動の原理論として知られるパウロ・フレイレの教育論を中心に、社会問題と社会教育という視点からの学習を深める。すでに、世界的な古典となっているパウロ・フレイレの『被抑圧者の教育学』を読みこなし、社会問題の解決に求められる学習活動に活かすには、著作の深い理解が求められる。そのため、エーリッヒ・フロム、ヘ―ゲルなど、関連の思想家の著作も読み進める。講義形式ではあるが、学生は中身の濃い事前学習、レポート作成などが求められる。	
専門教育科目群	教育学教室	社会教育施設論	公民館、図書館、博物館等の社会教育施設における事業展開、施設運営・管理、職員配置、設置計画作成などについて、地方自治体の先進的な事例および過去の注目されるテーゼなどを参考としながら学ぶ。その際、今日的課題である、学習の自由を保障することの重要性について自覚できるようにする。一方、施設運営にとって重要な職員体制や職員の専門的な力量について、現場の職員や利用者をゲストスピーカーとして招くなどして、可能な限り生の声を聴き、実践的力量を高められるようにする。	
専門教育科目群	教育学教室	青少年問題と社会教育Ⅰ	社会教育活動における重要な位置を位置を占める学校外における青少年の学習・文化活動について、活動を支援するという社会教育職員の立場からの専門的な理解を深める。現代社会の生活様式、人間関係の変化、SNSなどIT機器の発達により、地域や家庭での子どもたちの人間形成の条件も大きく異なってきた。これらに対応して、ボーイスカウトなど主として地域で活動している青少年団体の活動の意義と課題について講義する。	
専門教育科目群	教育学教室	青少年問題と社会教育Ⅱ	青年期教育は、歴史的に社会教育を構成する重要な活動の一つで、時代を越えて、青年の自己形成や人格発達に関わる学習活動のあり方に関わってきた。若者の失業問題や貧困問題が世界各国で問題となるなかで、日本も含め、社会教育において青年問題に取り組んでいくことが重要となっている。青年の意識と高齢者の意識とのズレ、政治参加における積極性の違いなど、青年問題が顕在化することを議論の柱に据えて、学生の当事者性を尊重しながら授業をすすめる。	
専門教育科目群	教育学教室	社会教育学演習	社会教育、生涯学習の原理や法・制度に関する知識をベースにして、公民館等で具体的に展開される地域住民の学習・文化活動に参加し、学習・文化活動を支える社会教育活動の意義と具体的活動内容について学ぶ。その際、公民館職員などの社会教育職員から具体的指導を受け、実践的な力量を身に着けることに重点を置く。一方、実践的課題を解決するために必要な高度な知識を得るために、並行して、社会教育。生涯学習に関する文献の講読を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教育学教室	多文化教育論	現代日本社会の多文化・多民族化が進行することによって、教育のあり方も大きな変革を迫られつつある。学校教育では、バイリンガル教育や多文化教育をどのように進めるか、社会教育においては、地域に住む外国人住民のための日本語教育を公民館等の社会教育機関でどのように展開するかについて、具体的事例などを示しながら講義する。授業では、多文化・多民族化の背景にある、歴史やグローバリゼーションについても学び、質の高い実践的な力量を身につける。	
専門教育科目群	教育学教室	多文化教育学演習	多文化教育に関する文献講読および地域調査等を中心に学習をすすめる。その際、まず、欧米での多文化教育の先進的な取り組みに学ぶことを重視し、国際的な比較検討の機会を多く設ける。地域調査については、主に外国人集住地域をフィールドに、多文化・多言語社会の実現のための教育の課題について具体的な調査・分析を行う。文献講読や地域調査の成果を報告書にまとめて、地域に還元していくところまで演習受講者の全員で集団的に行っていく。	
専門教育科目群	教育学教室	文化・芸術体験型演習	教育や学習に関する本質的な理解を深めるために、芸術・文化活動の第一線で活躍する職人・芸術家を講師として招き、演劇、伝統芸能など、それぞれの文化・芸術活動において、「学ぶ」「遊ぶ」「つながる」「コミュニケーションをとる」などの基本的人間行動がどのように捉えられているかについて認識を深める。授業は、講義だけではなく、学びの基本である「まねる」こと重視した、身体を動かしながらのワークショップ形式の授業も行う。	
専門教育科目群	教育学教室	教育学特殊講義Ⅰ	子どもの成長・発達や学習・遊びのようす、それらを支える教育の制度・しくみ、学校教育のあり方、家族・地域社会の住民・教員などの人のかかわりのようすといった、教育に関わるさまざまな側面について、その現場の実態に即したデータや教育諸学の知見を紹介しながら講義する。	
専門教育科目群	教育学教室	教育研究法	教育学の研究論文として質の高い論文を作成することができるまでに、全教員が担当して指導する。 4年次生を対象として、4月にオリエンテーションを行い、5月中旬に研究論文構想発表会をもち、10月中旬に中間発表会を行いながら研究論文を提出するするまで指導する。オリエンテーションと構想発表、中間発表には、全教員が出席し、それぞれの専門を活かした助言・指導を行う。 日常的には、論文執筆者本人の希望により決定する指導教員の研究方法や論文の内容に関わる指導を、週1回程度行う。	
専門教育科目群	教育学教室	卒業論文	4年次に、自主的・主体的に、教育学に関わるテーマの課題を見出し、そのテーマに関わる先行研究を整理し、科学的な方法論に基づいて、論理的で意義のある論文として執筆し、1月上旬に提出する。4年間の学習と研究の集大成として、学術的・実践的に意義とオリジナリティーのある一定程度の質の論文作成を求める。分量は400字原稿用紙で約100枚が目安である。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語科学概論	自然科学の一分野としての言語学の導入を目的とする。言語学を通して「人間の本質」について考える。この授業では，特に生成文法という枠組みを用いながら，人間言語の音韻論、統語論、意味論、語用論、形態論などについて、理論的研究の方法を学ぶ。さらに生成文法の究極的目標である人間言語の特性まで検討する。また、人間言語の生物学的基盤、言語の脳科学、言語の遺伝学についても取り扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	言語科学教室	音韻論基礎	音声学と音韻論はともに言語の音声を研究対象とする学問分野である。音声学が自然言語の音声事実そのものに注目し、その調音の仕組みや音響的特性を明らか にしようとするのに対して、音韻論は、言語音の間に見られる体系や規則性に注目する。この講義では、英語・日本語を中心に諸言語の音声における基本的かつ 実践的な知識を踏まえた上で、英語・日本語および諸言語の音韻論上の諸問題を考察する。また、最近の音韻理論の動向などについても触れることとする。	
専門教育科目群	言語科学教室	心理言語学	ヒトのことばの性質を概観し、言語の発達と障害の仕組み、および、発話と言語理解に焦点を当てて、ヒトに備わっている言語運用能力のメカニズムを探る。具体的には、言語知識、音声知覚、単語理解、語彙処理、統語処理、統語−意味処理、言語産出、第二言語習得、失語症、遺伝性言語障害等を扱う。言語学と心理言語学の基礎知識を習得した上で、日常におけることばの分析を通して人間のことばと心の仕組みに関する理解を深めることを目標とする。理論言語学と脳科学を架橋する科目である。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語科学文献講読	言語科学の様々な分野の研究課題に関する英語文献を読む。扱う文献は、担当の教員の専門分野から音声学、音韻論、形態論、意味論、統語論、心理言語学、社会言語学、言語獲得論、認知神経科学、脳計測科学、発達科学、精神神経科学、言語情報処理の統計学などの研究テーマに関するものが選ばれる。文献の購読を通して、文献の作成法についても理解を深める。それぞれのテーマに関して、より深く、幅の広い知識や技術を身につけることを目指す。総合的な英語の読解力の向上を目指すとともに、言語科学に関する文献調査や情報収集に必要とされる英文読解力を養成することを目的とする。	
専門教育科目群	言語科学教室	音韻論	自然言語に潜む音韻現象とその法則についての知識を身につける。また、自分で新たな音韻現象を見つけ出し、その法則を明らかにできるための研究方法の習得をめざす。日常的に接する話し言葉には、多くの音韻論的現象が観察されるのだが、一般の言語使用者は、そのことに気がつかない。気がついても、その根本原理までさかのぼって理解しようとはなかなか思わない。この授業では、多くの音韻現象に気付くところから始めて、さらにその音韻論的原理や原則について考察できるようになることを目指す。	
専門教育科目群	言語科学教室	統語論	自然言語の形式的特徴を統語論の面から学ぶ。単語がどのような生得的な規則に基づいて組合わさって文が構築されるのか・読み書きする文からは必ずしも自明でない抽象的な文構造とはどのようなものか、という点を中心に、講義と問題演習を通して自然言語の文構造にまつわるさまざまな現象と規則を身につけていく。可視的な文の背後にある抽象的な構造を客観的な分析手法を通して理解し、理論言語学における基本的な概念の理解、およびデータの分析方法を習得することを目指す。	
専門教育科目群	言語科学教室	生成言語理論	統語論の論文を精読し、日本語を中心とするさまざまな言語に見られる統語事象の理解を深めると共に、統語理論の諸概念（句構造・数量表現・束縛理論・移動など）について知識を深める。数多くの文献を精読し、批判文を書くことによって、統語論において仮説を立て、それを検証するという過程を身につけ、専門論文の執筆に備える。言語知識を対象とした科学の一分野として理論言語学を理解するため、生成文法理論の中のさまざまな枠組みや、認知科学という大きい学問領域の中での言語学について考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	言語科学教室	統語論基礎	自然言語の持つ形式的な特徴を、実際の言語データに接しながら、統語論を中心に考察する。（必要に応じて、音声学・音韻論・形態論・意味論・言語獲得など、言語学の他の下位領域も扱う。）理論言語学の研究に必要な、データを集める手法を、演習や課題を通して学ぶ。一見不規則に見える言語データの背後にある抽象的な規則の存在、およびその規則が各自に内在していることを実感するような演習を通して、理論言語学における基本的な概念の理解、およびデータの収集方法を身につける。	
専門教育科目群	言語科学教室	比較統語論Ⅰ	Frellesvig (2010)を使い、日本語の文法の変遷をごく大雑把に概観する。この英語文献を解説しながら読んで行く。おもに文法事項を追って行くが、適宜、音韻・音声、書記方法も参照する。日本語の歴史は、国語学、国文法では枚挙に暇がないが、この本は、言語学のニュートラルな立場で書かれたもので、特殊な術語や概念はあまり使われなく平易である。内容は、他の言語と日本語を比較するときに役立だろう。欧米語等との比較検討も視野に入れる。	
専門教育科目群	言語科学教室	比較統語論Ⅱ	Roberts(2007)を使い、生成文法での通時言語学（言語の変化）の考え方を学ぶ。第一章「原則とパラメタのアプローチでの比較・歴史統語論」を読み、ロマンス語や英語、ドイツ語の統語変化の一部を概観する。また適宜、日本語との比較も考慮する。ロマンス語や英語の歴史変化の概略、言語学の基礎、生成理論の基礎などの知識を身につけ、言語学の英語文献の読み方などを学ぶ。	
専門教育科目群	言語科学教室	社会言語学	社会が言語に及ぼしているさまざまな事象の考察・分析を行う。ことばを操る人間の集団は、互いに関わり合いをもつ人の共同体組織として分化し、社会を形成している。そして、社会に属する人々の思考・行動がことばに反映される。従って、言語現象を分析することによって、社会構造、つまり人間の社会的関係を知るための分析を試みる次第である	
専門教育科目群	言語科学教室	言語と文化	言語というものを、「文化」という大きなフレームワークから考察・分析を行う。言語使用はすぐれて文化現象であるが、例えば、英語の文化という表現で、イギリス人とアメリカ人をひとまとめにすることには無理がある。このように一つの言語と一つの文化が必ずしも対応するわけではないが、言語と文化は切り離すことのできない密接な関係があり、文化が言語に与えている影響に着目した考察を試みる。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語脳科学	ヒトが言語を使用するメカニズムの心理的プロセスおよびその脳内基盤に関する認知脳科学の知見を学習する。脳の解剖と機能に関する基礎的な知識を学びながら、言語に関する理論、心理学、脳科学の統合的アプローチについて学習する。特に、事象関連電位(ERP)，脳磁図(MEG)，機能的核磁気共鳴画像法(fMRI)などの脳機能計測機器、および経頭蓋磁気刺激法(TMS)など認知脳科学の研究技術を用いた知見を学び、言語研究全体における脳科学的アプローチの意義について考える。	
専門教育科目群	言語科学教室	認知神経科学	我々は日々の生活の中で、多種多様な情報を見聞きし、言語や行動によって情報を発信している。このような能力の基盤である脳の機能について学び、認知神経科学の基本的な考え方を構築する。具体的には、研究方法と神経活動についての基礎から学び始め、視覚、聴覚、運動、体性感覚、学習と記憶、言語、発達等を扱う。脳の構造と機能に関する基礎知識を習得した上で、日常生活の事象について疑問を持って問題を設定する能力を身につける。また、現象を分析して、自分の意見を発表することができるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	言語科学教室	脳計測科学	「脳のシステム」を明らかにすることが、ヒトの言語機能を理解する手がかりになるという前提のもとに、脳活動を計測する基本的な方法論を学ぶ。方法論と準備から始めて、脳波計測、近赤外分光脳機能計測、行動指標計測の実践と解析、プログラミング、データのまとめと発表を行う。計測の実施、解析、考察を一連の流れとして実行する能力を養うと同時に、ヒトを対象にした研究を行うために必要な準備、心構え、倫理的配慮の習得を目指す。レポートの作成と口頭発表を通して、論理的な思考力と表現力を養うことも目標とする。	
専門教育科目群	言語科学教室	発達科学	乳幼児期の言語獲得過程を検討する方法には様々なアプローチがあるが、特に脳の発達と言語獲得の関係性に注目する。認知神経科学と脳機能計測に関する基礎的な知識を前提として、発達初期に固有な事象について学ぶ。具体的には、英語の原著論文の読み方から始めて、視覚の発達とコミュニケーション、乳幼児の音声知覚、脳機能計測による言語獲得研究等を扱う。講義と発表を通して、学術用語を正確に理解し、使用する能力を身につける。習得した知識をもとに、自ら検討して発表する能力を養うことを目標とする。	
専門教育科目群	言語科学教室	精神神経科学	言語や社会機能をはじめとして、ヒトにおいて高度に発達した高次認知機能に関する脳科学の知見を習得する。とくに、これらの機能が障害される精神・神経疾患に言及しながら授業を進める。基礎・臨床研究の知見を通して、高次脳機能に対する総合的なアプローチを学ぶ。脳科学と人文社会学の融合分野である認知神経科学の方法論と知見を理解することにより、精神機能に関する文系・理系の区別を問わない総合的な研究に触れる。	
専門教育科目群	言語科学教室	意味論・語用論	意味論・語用論基礎の授業を踏まえ、様々な自然言語のデータに関する意味論的、語用論的な分析について学ぶ。 いくつかの具体的なテーマ（動詞句の意味構造、前提と照応、問いとフォーカス、命題的態度報告文、条件文、尺度推意など）を取り上げながら、現代の意味論および語用論における標準的な理論について学ぶ。意味論・語用論の専門的な文献を読む際に必要となる理論的知識を身につけ、意味論的・語用論的分析の手法に習熟し、ことばの意味について自ら考察する力を身につけることを目標とする。	
専門教育科目群	言語科学教室	意味論・語用論基礎	ことばの意味やことばを用いたコミュニケーションに関する研究である意味論と語用論の基礎について学ぶ。(1) 簡単な英語断片を例に、自然言語形式意味論、特に真理条件的意味論の観点から、意味の合成性について考察する。形式意意味論の基本的な分析ツールである集合論と述語論理についても学ぶ。(2) 会話的推意についてのグライス的な語用論理論を学ぶ。その上で真理条件的意味論と語用論の関係について考察する。多様な言語現象を意味論的・語用論的に分析するための概念的基礎の習得が目的である。	
専門教育科目群	言語科学教室	形態論	この授業では形態論および語彙意味論の基本事項を講義と演習を通して学ぶ。実践的な取り組みを通じて受講者が［1]語や句，形態素といった言語単位に関する基礎知識［2］語の意味と文法に関する一般的な規則［3］具体的な意味分析の作業に基づいた類義関係にある表現間の共通点・相違点を的確に捉える能力の3点を身につけることを目標とする。授業では主に日本語・英語の語彙に関わるさまざまな現象を扱う。実際に取り上げるテーマを含めた授業内容については，受講者の背景や予備知識を考慮して柔軟に調整していく予定である。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語獲得論	０歳から６歳程度の子供による第1言語の獲得を概観する。子供の言語獲得は、自然界に存在する驚異の一つである。子供は皆、生まれて数年のうちに、特別な努力や苦労もなしに、自分の周りで話されている言語を自然と身につけてしまう。これがどれだけ驚くべきことなのか、を正しく理解することを目指す。様々な研究事例を紹介しながら、子供の言語獲得のメカニズムが如何に精緻に組み上げられているかを考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	言語科学教室	言語情報処理の統計学	統計の基本的な考え方を学ぶとともに、統計解析を行うソフトRの使い方を習得し、実際にデータを分析するためのスキルを身につける。統計と言語学に関する基本的概念を押さえた上で、推測統計、統計的仮説検定、t検定、分散分析、といった統計手法を学び、複数の統計的手段から仮説を検証する能力を養う。カイ２乗検定、相関分析、単回帰・重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析についても扱い、統計を用いた言語研究に幅広く対応できる力を身につけることを目標とする。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語科学特殊講義	言語科学の様々な分野の基礎的な知識や技術を修得していることを前提に、様々な研究課題に関する講義を行う。音声学、音韻論、形態論、意味論、統語論、心理言語学、社会言語学、言語獲得論、認知神経科学、脳計測科学、発達科学、精神神経科学、言語情報処理の統計学などの研究テーマに関して、より深く、また、幅の広い知識や技術を身につけることを目指す。4年次に取り組む卒業論文のテーマを決めるためのにも重要な講義である。	
専門教育科目群	言語科学教室	言語科学卒業論文	3年次までの授業を踏まえて、指導教員の指導のもとに卒業論文を執筆する。研究計画は自分の力で立案する。論文を完成させるために、文献や資料を収集し、必要な実験や調査を行う。また、明解かつ論理的な論述の技術を学ぶ。論文を完成するというプロセスを通じて、研究遂行のためのスキルの向上をはかる。また、個々の指導教員のもとでおこなう個別指導に加え、全教員の前でおこなう中間発表、卒業論文発表を行い、発表する能力の向上を目指す。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語表現法Ⅰ	東京の言語景観を題材に、周りで使われている言語の実態を分析してその意義について考える。受講したら、三つの「力」を身につけることができる。一つ目は「観察力」、すなわち、日常生活に出てくる日本語表現の特徴（新語、方言など）により敏感になる力である。二つ目は「分析力」、すなわち、日本語の書記言語の背景にある様々な要素（発音、文法的要素、意味など）を分けて考える力である。三つ目は「考察力」、すなわち、看板にみられる言語使用と他の社会現象との関連や意義（例えば、多言語表示と多文化共生）について考える力である。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語表現法Ⅱ	日本語の自然談話、敬語表現に関する主な先行研究を理解するとともに、論文精読や談話コーパスの分析をもとに、口頭発表、レポート・論文による表現の技法を学ぶ。日本語の最近の談話研究について以下の概要を講義により理解する。1. 聞き手としての談話行動、 2. 敬語とポライトネス理論、3. 談話コーパスの構築法と分析（コーパスの操作実習を含む）。また、関連論文の口頭発表（レジュメ作成を含む）演習、談話コーパスの分析と実証論文としてのまとめ方の検討を通じ、実践的な言語表現技法を学んでいく。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本言語学概論	日本語教育を行う上で必須となってくる現代日本語学に関する基本的知識を学ぶ。対象とする項目は、語彙・意味・文法・文章と文体・文字と表記・音声と音韻・敬語・方言と共通語などである。さらに数量的観点から、語彙、文字と表記、方言と共通語について深く掘り下げ、先行研究で示された図表を基に、対象・調査方法について理解し、結果を正確に読み解く能力を身につけていく。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本言語学講義	現代日本語文法について、歴史的な言語変化を前提とした観点を以て修養を深める。まず、歌学・国学から近代文法研究を経て学校文法の成立に至る学説史の概略について理解し、次に、学校文法（特に口語文法）に基づいて現代日本語文法に習熟することを目標とする。また、学校文法の枠組みを活用して、古代語（古代日本語）から、近代語（現代日本語）に至る日本語文法の変遷の過程について理解し、日本語文法に対して総括的に理解することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本言語学演習	『源氏物語』の影印本を教科書として源氏物語の翻刻演習を行い、校訂して本文を整える。草書体の変体仮名を読めるようにする。次に、中古語の語彙・語法（助詞・助動詞）についての基礎的知識を培い、正確な現代語訳ができるように古文の読解力を養う。本文の解釈に関連して、日本語史に関する重要な事項（文法・音韻・表記など）を採りあげ解説する。作品中の漢字語彙について、古代中国語音に遡りその音韻を復元し、テキストの仮名表記との比較を試みる。また、中古語の敬語法の学習を通じて、現代日本語の敬語の使い方についても学ぶ。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語教育実習	日本語初級後半から中級前半の会話クラス、中級から上級を目指す聴解クラス、上級から超上級レベルの文法クラスの運営に参加し、日本語学習支援および教室実践に取り組む。そのレベルになるために必要な能力を高めるには何が必要なのかを考えながら、担当教員と受講者が、共同で授業を実施する。その中で日本語学習とはどのような営みなのか、日本語学習者とはどのような人たちなのか、直に触れて理解する。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語学概論	日本語がどのような言語であるかを概説し、日本語の音声学と音韻論について分野別に講義する。『万葉集』『源氏物語』『天草版伊曽保物語』などの資料が実際にどのような発音で読まれていたかを実証的に復原する。また、古代日本語の音韻が、どのような形で現代日本語の音韻と表記（仮名遣い）に影響を与え続けているかを豊富な資料を使って考察してゆく。この講義を通じて日本語の音声学・音韻論について体験的に学習し、国際音声字母（ＩＰＡ）に習熟するようにする。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語習得論概論	日本語の習得研究の基礎的な知識を学ぶ授業である。日本語の習得研究に必要な基礎的概念を知り、日本語学習者のことばがどのようなものかを知ることができる。具体的には、第二言語習得研究の意義、歴史的背景、理論・モデルを理解した上で、第二言語習得研究に関わる多様な要因を学ぶ。さらに、学習者の習得レベルの評価や、バイリンガリズムと年少者教育、第二言語習得研究の方法論を学び、日本語においてどのような研究がなされてきたかを概観する。そして、最後に習得研究と日本語教育の関係について考察する。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語習得論講義	通年を通して、日本語学習者の書き言葉、話し言葉の使用実態、評価について総合的に学ぶ授業である。前期では書き言葉を扱い、「書き言葉コーパス」を用いて、各タスクの特徴、評価方法について学び、コーパスを用いた研究論文を読み、コーパスを使ってどのような研究が可能かを学ぶ。後期では、話し言葉を扱い、口頭運用能力を測るOPIの基本を学び、プロフィシェンシーの観点から日本語教育について考える。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語習得論演習	日本語学習者の書き言葉、話し言葉の使用実態、評価について総合的に学び、実際各自研究課題を設定し、分析・発表・小論文を作成する授業である。前期では書き言葉を扱い、「書き言葉コーパス」を用いて演習を行う。後期では、話し言葉を扱い、口頭運用能力を測るOPIのインタビュー音声を用い、演習を行う。発表はポスター発表形式で行い、ポスター作成技術や、質疑応答の仕方についても学び、研究成果の発信能力を養う。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語教育学概論	日本語を外国語として教授するとき、何に配慮すればいいのか、言語教授法の変遷、日本語教育の歴史や制度を基礎から包括的に検討していく。日本語教育施策や制度、言語教授法とその理論的背景に関する基本的知識の習得と、それをもとにした議論の能力を高める。具体的には、日本語教育の歴史と制度・外国語教授法の基本・日本語音声の教育・文型を積み上げる教え方とそのポイント・教材と教具・これからの日本語教育を扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語教育学講義	日本語教育学の実証的な研究を幅広く吸収し、その理論的背景を把握する。日本語教育学演習での教材開発プロジェクトの理論的基礎を学ぶことも目的の一つとする。日本語の自然談話、音声教育（特に言語音声のカテゴリー的な知覚）、メディア利用教育などについて実証的手法の先行研究を講読・発表し議論を行う。前半は講師による先行研究のまとめのレビューを行い、後半は受講者による論文のまとめと発表を行う。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本語教育学演習	日本語教育学に関する実証的な研究を踏まえた上で、教材開発プロジェクトを実施する。プロジェクトの内容については受講者と議論しながら決定するが、これまでは、音声教育（促音、アクセント、有声無声子音と有気無気音、オノマトペ、ポライトネスと自然談話、敬語、待遇表現、言語景観などのマルチメディア教材の開発を行ってきた。受講者には日本語教育学の基礎と同時に、実際の制作技法、プログラミング、仕様と評価の方法などが求められる。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本社会言語学概論	社会言語学を学ぶために必要となる「一般言語学概論」を学ぶ。人間にとって言語とはどういうものか、他のコミュニケーション手段とどう違うか、文字と言語との関係などの課題をまず取り上る。次に言語学の中心分野である音声学、音韻論、形態論を概説する。それぞれの分野は何を問題にし、その問題点をどのように解明しようとするかを考える。日本語を中心に、具体例を考えながら授業を進めていく。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本社会言語学講義	「中間言語の文法」、「文法事象のバラエティ」をテーマに、外国人が日本語を覚える時に犯す文法的な間違いに見え隠れしている「パターン」を追究する。「間違い」はすべて恣意的ではなくて、中には規則性が見られる間違いもある。それが「中間言語」である。また、面接調査（半構造化インタビュー）のデータの採集の仕方や文字起こしの方法、分析方法を実践することによって、卒業論文や修士論文でそうした手法を身につける。データとして海外の日本語話者（日系移民、「残存日本語」の話者など）扱う。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	日本社会言語学演習	第二言語として日本語を学んでいる人の中間言語に関する研究の収集方法、分析方法、並びにその理論に関する研究を行なう。また日本国内外にいる非母語話者の日本語学習者の置かれている言語生活環境がその習得にどう関与するかを考える。言語学、社会言語学、言語習得論の基本概念やデータ収集法、分析法を学び、日本語の使用や習得に関する卒業論文を書くのに必要な知識や技術を身につける。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	言語習得論演習	言語教育・学習を支援するCALLを及びe-ラーニングの沿革および理論的背景を学び、学習者の動機付け、自律学習にむけての教材作成や授業運営を考える。例えば、イントラクシナル・デザイン、ゲーミフィケーション、ラーニング・アナリティクスなどの視点から、教室内外での指導や支援に役立てるかを検討する。また演習として、CALL教室の諸機能、eラーニングの基盤であるLMSでそれらをどう具体化するかを考え、教材作成や授業方法を検討する。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	比較言語文化論	グローバル化社会の中での多文化接触における日本の問題を考える。それらには多文化共生におけるコミニティにおける諸問題、異文化コミュニケーションにおける個人の問題、そして日本言語文化固有の概念をどうグローバル化の中で表現して、理解させるかなどを扱う。これらにより日本の抱える社会としての、個人としての、言語文化としての問題への理解を深め、解決策を考える。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	学外演習	この科目は指導教員との相談の上で登録する。教員の指導の元で学外における研究計画を立て、学生が日本国内外において日本語教育学や日本語学の研究や教育活動（日本語教育実習、フィールド調査、文献調査など）を行ない、指導教員に報告し、単位認定が行なわれる。この科目の受講生は研究や教育活動を計画から実践まで自立してできるようになる。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	日本語教育学教室	論文指導	指導教授を中心とする学部生を対象としたゼミナール形式の授業。卒業論文等の学術論文を作成するための研究実務の方法について実践指導する。高度な専門科目として受講者が積極的な授業参加をしてゆくことで、各自の研究テーマについて視野を拡げ、論文として発表できるようにまとめあげる。周回表による発表分担を定め、演習形式で各自の研究テーマによるレジュメを用意し、そのレジュメに基づいて研究発表を行い、全員で質疑・討議を行う。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	卒業論文指導	3年次より卒業論文作成の指導を行う。日本語教育学研究の方法を専門分野に即しながら習得できる。通常の授業とは違い、年に何度か実施する中間報告会などの形で行う。教員によって指導方法が異なるので、希望する指導教員とコンタクトをとって、指導について必ず相談することが必要となる。教員との連絡を密にして、教員の指示に従い、普段から準備を進めることが求められる。	
専門教育科目群	日本語教育学教室	卒業論文	４年次の学生は６月に設けられる卒業論文構想発表会において研究テーマに関する発表を行い、目的・方法等について、教室所属教員から指導を受ける。続いて夏休み明け10月の中間発表会で、資料調査、執筆状況の報告が義務づけられる。それらの報告での不備・不足の指摘を受けて、補足調査や原稿修正を行い、最終完成稿を１月に提出する。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	人間社会学科の方法論	人間社会学科における研究方法に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。まず、実証研究の意義とは何かについて理解する。また、研究倫理について議論しながら、研究法の原理を学ぶ。さらに、実際によく用いられているいくつかの研究方法（インタビュー調査、文献調査、量的・質的調査など）に触れ、正しい研究の進め方を学びながら、それぞれについての利点と限界を学ぶ。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	社会調査の国際比較	社会調査は，社会状況を把握・理解する上で重要な役割を果たす．しかし，調査を設計し，そのデータを分析するにあたって，問題となる点も少なくない．特に国際比較を念頭におく研究では，調査設計の違いが，結果に及ぼす影響が大きい．標本の抽出方法や問いの聞き方が異なれば，分析結果も異なってくるからだ．国の法律が異なると，標本抽出方法も異なってくるだけでなく，使用言語が異なる場合には，同じ意味合いで回答者が理解できるかも確定できない．この授業では，このような点に留意しながら，どのように社会調査を用いて国際比較分析を行うかを学ぶことを目的とする．	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（古代中世Ⅰ）	西洋哲学の歴史は、今から2500年以上前の古代ギリシャに始まると言われるが、古代ギリシャの哲学は、現在では歴史的価値しか認められないような過去の遺物ではなく、現代におけるさまざまな哲学上の問題をその根底で支える重要な意義をもつ。本講義では、そのような観点から、たとえば自然、心、物、実体、本質、因果、必然性、行為、善悪など、現代でも重視される種々の基本的な哲学的概念について、ソクラテス以前、ソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの古代の哲学者が行なってきた議論を検討し、その哲学的意義を考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（古代中世Ⅱ）	哲学（古代中世I）の内容を踏まえた上で、更に、ヘレニズム哲学、アウグスティヌス、新プラトン派の哲学、アヴェロエス、トマス・アクィナスなど、後期古代から中世にわたって歴史に名を連ねる代表的な哲学者たちまでに考察対象を広げ、より包括的な視野から、いっそう詳細に問題を検討する。現代においても重視される様々の基本的な哲学的諸概念を中心に検討するという、古代中世哲学史Iでも採用した基本的に方針に変わりはないが、後期古代・中世の哲学者に特有の問題意識にも注意を払い、その独自性を明らかにすることで、彼らがわれわれ現代人に問いかける問題の固有の意義について理解を深める。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（近世Ⅰ）	近世哲学の祖とされるデカルトをまず取り上げ、時代の課題を一身に背負い格闘したこの天才が、ついには「近代」という″原理″を創設するに到った、その軌跡をたどる。ついで、「真理」概念、主観−客観図式などの哲学的検討を行いつつ、即ち客観主義的先入観を克服しつつ、スピノザ、ライプニッツ、ロック、ヒュームなど、デカルト以後の１７−１８世紀の代表的な哲学者において、デカルト的伝統がいかに継承され変容されて行ったのかを調べ、そのことを通して、大陸合理論・イギリス経験論と呼び習わされてきた諸哲学を根底から見直すことを試みる。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（近世Ⅱ）	哲学（近世Ⅰ）を踏まえて、まず、伝統的形而上学の批判および道徳哲学という新たな領域の開拓という、カントが果たした偉大な業績を十分時間をかけて検討する。ついで、カントによって創設された道徳論、言い換えれば自由論が、ヘーゲルによっていかに継承され乗り越えられたのかを調べることによって、現代哲学によって厳しく批判され続けてきた近世哲学は、その最良の部分においては、即ちその根本的な本質においては、むしろ現代哲学を凌ぐものであること、即ち現代の社会的諸問題に関して原理的指針を与えるものであることを、明らかにする。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（美学）	芸術とはなにか。この問いを、自ら問うための手がかりを獲るために、西欧における美術の歴史的展開を視野に入れつつ、芸術をめぐる現代的･今日的諸問題の根源を探り、考察し、あわせて美学という学問そのものを批判的に問い直すことを試みる。その際、個々の美術作品の背景をなす地理的･歴史的要因を考察し、美術作品が歴史の中で果たす役割についても解説を加える。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	哲学（日本倫理思想史）	われわれ日本人は古来、原理的で体系的な日本独自の哲学とか思想を形成してこなかった。その代わりに、時代の折々に外国から入ってきた宗教や思想や哲学、広くは文明や文化に触れて、それらを吸収咀嚼し、さらにはそのエッセンスを純化しつつ、驚くほどの柔軟な理解力でわがものにして、日本人独自の精神と呼べるようなものを形成してきた。わが国においては日本精神史と呼べるものは脈々と存在してきたのである。本講義では、こうしたわが国の精神形成の特質を踏まえて、そうした日本精神史という観点から日本倫理思想史の歴史的な概観をおこなうことにする。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本史概説Ａ	古代から現代までの日本の歴史について、様々な視点から概説する。環境史・災害史の視点から、気候変動と歴史の関わり、地震・火山噴火などの自然災害、複合的災害としての飢饉や疫病、戦災など、歴史上の災害の実態と対策・復興のあり方からその時代の特徴を捉える。歴史的事象・事件を歴史の流れのなかで捉える。外国人の視点から、日本という一国史ではなくグローバルな視点から日本史を捉える。現在の日本の政治・経済・社会の抱える問題を理解するうで重要な戦後史、日本の昭和～平成の歴史を概括的に捉える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	外国史概説（東洋史）Ａ	古代から中近世をへて近現代アジア社会がいかにして形成されていったかを概観する中で、アジアという多様な歴史的世界の特質を世界史的視点から考察する。アジアは決して閉じられた空間ではなく、様々な政治集団が移動し、多彩な文化交流が繰り広げられてきた。王朝論や土地制度史など伝統的なアプローチや、比較帝国論など近年の新たな歴史学の潮流も踏まえた上で、アジアの歴史理解を深める。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	外国史概説（西洋史）Ａ	古代地中海世界から中世・ルネサンス世界を経て近現代ヨーロッパ社会がいかにして形成されていったかを概観し、ヨーロッパという固有の歴史的世界の特質を世界史的視点から考察する。その際、世界システム論やグローバル・ヒストリーの発展など、近年の歴史学研究の方法論や視座の変化を踏まえ、現代のわれわれの問題意識から、ヨーロッパの歴史をとらえていく試みとしたい。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本言語文化概論ⅡＡ	日本の文化すなわち生活・行動・思考の様式、その歴史的伝統と現在的様態とを、言語との相互作用を焦点として多角的に論じる。そこでは歴史的に正典として確立した多様な文学作品・思想的言説等をさまざまなテーマのもとに分析し、学生に日本の言語文化を研究するための基礎的な知識と広い視野を身につけさせることを目指すと同時に、サブカルチャー等、現在の日本の未だ正典化されていない流動する言語文化をもとりあげ、学生に自らの問題として現在と過去の日本の言語文化を研究するための手がかりを提供する。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本古典Ａ	多様なジャンルの日本の古典に触れ、古典に対する興味を持たせる機会とする。古代文学、中古文学、中世文学、近世文学などについて、幅広い知見をもたせることを目的とし、古典研究のための基礎的な技術を身につけさせる。具体的には、さまざまなジャンルの古典文学について、比較的平易な作品を取り上げながら、古典文学の豊かさや楽しさに触れさせる一方で、写本や版本などの文献資料の取扱いの方法、古典語の表記や仮名遣いの解読の方法、古辞書の利用の方法、参考文献の探索の方法、読解・分析の技法など、自立的な学修を支援するための技術の習得を行う。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文学講義ⅠＡ	古代文学や中古文学を取り上げ、個々の作品の主題、表現、思想、社会的な背景などについて考える。それとともに、現在書かれている古典文学に関する様々な論文を紹介しつつ、文学研究の可能性を探る。近世文学、近世文化の特質について、文学の社会的なありかた、また、文学作品の主題、表現、文芸思想など内容上の問題、文献資料、注釈、批評、様式、ジャンルなどトピックスを設定して概説講義する。近現代の日本文学・日本文化・日本思想の多様な流れを、研究の最新の成果を紹介しつつ、体系的に講じる。半期２単位科目。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文学講義ⅡＡ	古代文学や中古文学を取り上げ、個々の作品の主題、表現、思想、社会的な背景などについて考える。それとともに、現在書かれている古典文学に関する様々な論文を紹介しつつ、文学研究の可能性を探る。近世文学、近世文化の特質について、文学の社会的なありかた、また、文学作品の主題、表現、文芸思想など内容上の問題、文献資料、注釈、批評、様式、ジャンルなどトピックスを設定して概説講義する。近現代の日本文学・日本文化・日本思想の多様な流れを、研究の最新の成果を紹介しつつ、体系的に講じる。通年４単位科目であり、日本文学講義Ⅰではカバーできない長期にわたって研究し習熟することが必要なテーマ・テクストを対象にする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文学史Ａ	日本古典文学および近代文学について、通史的な文学史、または局面的な問題史を講義を中心にして行う。物語から読本・黄表紙・合巻、近代小説にいたる小説史、和歌・連歌・俳諧、短歌・詩の韻文史などのジャンル別の文学通史、主題や話型の通時的展開、『源氏物語』などの物語文学史、自然主義、白樺派、戦後文学などの近現代の文芸思潮などの批評的な文学史を想定している。知識の習得に留まらず、受講者の積極的な読書研究を促し、史的展開を把握する能力を養成する。教職希望者に必修の授業科目である。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文学演習ＩＡ	古代から現代に至る日本文学の代表作品を取り上げて、テキストを正確に読解する能力を養うことを目的とする。学生自らの力で読む実践に取り組み、レポートの作成、プレゼンテーション、参加者との討論、教員の助言指導を基本的な授業構成とする。主体的自立的な問題解決と相互批判のプロセスを経験することで、より高い言語の運用理解能力の涵養を行う。基本的な文献の調査能力を身につけさせ、古典文学の理解に必要な技術の向上を促す。加えて、文学テキストの主題や文体、内容と表現の分析能力を養い、文学理論の実践的な応用能力の養成の場とする。半期２単位科目。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文学演習ⅡＡ	古代から現代に至る日本文学の代表作品を取り上げて、テキストを正確に読解する能力を養うことを目的とする。学生自らの力で読む実践に取り組み、レポートの作成、プレゼンテーション、参加者との討論、教員の助言指導を基本的な授業構成とする。主体的自立的な問題解決と相互批判のプロセスを経験することで、より高い言語の運用理解能力の涵養を行う。基本的な文献の調査能力を身につけさせ、古典文学の理解に必要な技術の向上を促す。加えて、文学テキストの主題や文体、内容と表現の分析能力を養い、文学理論の実践的な応用能力の養成の場とする。日本文学演習Ｉではカバーできない長期にわたって研究し習熟することが必要なテーマ・テキストを対象にする通年４単位科目。	
専門教育科目群	人間社会学科共通科目	日本文化特殊講義Ａ	日本文学とそれに関連する日本文化の諸分野（古代から近現代）における、従来の研究の蓄積から最新の知見までを講義形式によって教授する。必要に応じて非常勤講師を任用し、可能な限り広い領域を扱うよう努める。担当者の専門領域を中心に、日本文学研究・文化研究の研究姿勢、知見を丁寧に教授していくことを通して、日本文学と日本文化に対する総合的理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	比較文学史	時代や地域を越えて存在する共通の文学的テーマや手法、例えば英国18世紀の怪奇小説に端を発し、今日のＢ級ホラーや現代的なグロテスクネスにも通じる「ゴシック」のような概念をとりあげ、これを多方面から考察するといった文化比較の視点を培う。ひとつの言語文化圏や、限られた時代・風土の枠内ではなかなか見えてこない、より大きな文化的展望を獲得すると共に、鋭利な批評眼を養うことが目的である。	集中
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	書道	国語科の教員養成のための書道について、実践的に指導することを目的とする。総説として、「文字の特質と書写教育」「学習指導要領と書写の指導」などについて講義する。また、実技としては、「姿勢・執筆法」「用具・用材」「筆使いと基本点画」「漢字の字形」「仮名の字形」「文字の大きさ・配列と字配り」「諸書式の書き方」「芸術科書道」の各項目などについて指導する。 さらに、その上にたって、書道の授業計画の作り方や指導方法などに関しても教授する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館学概論A	「博物館とは何か」、「博物館学とはどういう学問分野なのか」といった命題に対して、博物館の語源、欧米と日本における博物館学の歴史、博物館に対する多様な定義、資料の収集や調査研究に代表される博物館の諸機能とその時代的な変化などを講義する。そして、現代社会における博物館の役割とそこで働く学芸員のあり方を見直す。博物館の起源やその歴史、欧米と日本における博物館学の研究史を通して、博物館学の魅力や各国の博物館の個性などを理解する。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館資料論	博物館法や博物館学の研究史を踏まえて博物館資料の基礎を学ぶだけでなく、受講生が実際に資料に触れながら、資料の特性に応じた収集から展示・普及活動までの過程を考えていく。そして、博物館を身近に感じ、現代社会の中で博物館の役割を思考するために、博物館資料はどのように工夫される必要があるのかについて、教員との意見交換や映像などを通じて追求する。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館経営論	博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。この理念と現実の課題を具体的に把握するため、とくに学芸員の視点から具体例を提示しながら理解および活用できるよう努める。また同時に、博物館は公共機関ではあるが、管理職、事務職、研究職などの面々から構成されているので、複雑な管理運営についても留意していくこととする。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館教育論	生涯学習における博物館の役割、および博物館教育の理念をふまえたうえで、博物館が主体となっておこなう教育活動、利用者にとっての博物館の活用と学習、といった双方向性のもとにある博物館教育の特性・意義・方法などについて、講義形式で授業をおこなう。授業に際しては、東京・多摩地域を中心とした博物館の多様な教育実践を参照することによって、博物館教育の方法や課題を現場に即して考えることに重きをおく。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館情報・メディア論	博物館の学芸員を目指す人を対象として、博物館における情報の活用方法や各種メディアを活用した効果的な公開・展示方法に関する実践的な能力を養うことを目標とする。その方法として、博物館における情報の意義とその活用方法及び収集・発信の方法、視聴覚メディアが博物館活動において果たす役割などについて、様々な実例を参照しながら学ぶ。さらに情報・視聴覚関連機器を用いた演習を行う。 オムニバス方式(全15回) (77 谷口央／2回) 博物館情報・メディア論のねらい・成績判定 (379 加藤英寿／13回) 影像活用・データベース構築	オムニバス方式
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館資料保存論	博物館に収蔵されている各種資料の保存修復及びその展示・収蔵環境の原理や基本的な考え方を総合的に捉えるため、本授業では、まず文化財保存修復の理念や概念、歴史に関する概要を講義する。続いて博物館や資料館で実践されている各種の資料保存と保管に関する科学的な理論と実務について講義する。さらに、どのような資料が博物館収蔵施設に収蔵されているのかを理解する目的で、収蔵品資料自体が今日に至るまで、どのような保存修復の作業が為されていたのか資料のジャンル毎に解説する。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館展示論	博物館における展示の目的・意義を理解し，実務的な展示作業の流れを把握するため、博物館展示の意義や展示形態などの基本的事項を講義する。また、種々の展示を開催するための注意点である，計画から終了までの留意点等を解説し，実務的事項及び教育普及活動、展示のメンテナンス・展示に対する評価とそれへの対応についても講義を行うこととする。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館実習Ⅰ	学内において、学芸員の実務に必要な資料の取り扱いおよび収集・保管・展示等の方法を実際の資料を用いて学び、基礎的かつ汎用性の高い技術を理解・修得する。 オムニバス方式(全30回) （以下の全教員／1回）博物館実習のねらい （77 谷口央／2回）歴史文献史料の取り扱い （209 出穂雅実／3回)考古資料の取り扱い （279 江口克之／3回）昆虫標本の取り扱い （139 鈴木毅彦／3回）岩石・鉱物標本の取り扱い （331 楠見清／3回）アート・デザイン資料の取り扱い （281 角川洋子／3回）植物標本の取り扱い （29 石田慎一郎／3回）民俗資料の取り扱い （331 楠見清、139 鈴木毅彦、77 谷口央／5回）展示制作実習 （77 谷口央、551 村田昌則／4回）博物館見学実習	オムニバス方式
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	博物館実習Ⅱ	博物館実習を主に登録博物館で行い、現場で活躍する学芸員等の博物館職員から直接指導を受ける。博物館実習Ⅰ等で習得した知識や技能・技術を実際に現場で検証することはもちろんのことであるが、学芸員等の博物館職員が社会において博物館が果たす役割についてどのように捉えているか。また博物館職員のやりがいと同時に難しさなどを、直接職員から聞くことなどを重視し、学内の展示実習施設にて、実習前と実習後に少人数あるいは個別に指導を行い、当該実習におけるポイントや留意点などを伝える。また、事後指導においては、実習の詳細な報告を受けて、今後の学習計画等について、個別に指導する。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	民俗学実習	民俗学は、明治期に柳田国男が生み出した学問であり、日本に暮らすふつうの人びとの出来事（神話、伝承、家族・親族、慣習、信仰など）を見つめなおすことから始まる。本授業では、柳田国男の著作を丹念に精読することによって、民俗学の文献研究・調査、聞き取り調査、参与観察の方法論を習得する。毎年度、受講者に聞き取り調査にもとづくレポート提出を課し、自分たちの身近な事象を取り上げ、民俗調査の技術を習得してもらう。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	国際教育論Ⅰ	現代社会が抱える様々な社会問題の解決にとって、学習・教育活動が不可欠であることをまずは認識するために、部落解放運動など差別や人権に関わる民衆運動の歴史の中での学習運動の特徴と原理を紹介する。次に、現代社会において最も大きな課題の一つである国際化や多文化・多民族化へ対応するための社会教育のあり方を検討する。その際、外国人学校や地域における日本語教室の見学を行い、実際にどのような学習活動が行われているか、そのような課題を抱えているかを知る。	
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	国際教育論Ⅱ	社会問題の解決に不可欠な学習活動の原理論として知られるパウロ・フレイレの教育論を中心に、社会問題と社会教育という視点からの学習を深める。すでに、世界的な古典となっているパウロ・フレイレの『被抑圧者の教育学』を読みこなし、社会問題の解決に求められる学習活動に活かすには、著作の深い理解が求められる。そのため、エーリッヒ・フロム、ヘ―ゲルなど、関連の思想家の著作も読み進める。講義形式ではあるが、学生は中身の濃い事前学習、レポート作成などが求められる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	人文社会学部共通科目	インターンシップ	この授業は、国の官庁や地方自治体の機関において実際の業務に携わるものである。大学におけるさまざまな学習をふまえて、学生諸君が主体的・積極的に業務に参加することを期待する。希望者は、キャリア支援課をつうじて申し込む。実際に実習を行う際には、その日の業務内容について日誌をつけ、インターンシップの終了後には、報告書を提出してもらう。なお取得できる単位は、従事する期間によって異なっている。	
専門教育科目群	教職関係科目	教職入門	授業に参加する学生の教育体験をもとに、中学校や高校の一日のようすや一年の流れなどの具体的な場面や、学校現場で起きるさまざまな問題を取り上げながら、教員の職務内容がどのようなものか、生徒の進路選択に資する機会がどのように提供されているかなどを確認していく。それらの作業を通して、教職の意義や教員の役割について学び、教職を理解するための基礎的な知識や考え方を習得することを目的とする。	
専門教育科目群	教職関係科目	国語科教育法１	国語科教育の意義・目標・歴史について理解する。 学習指導要領の内容を理解し、国語表現、文学の読解、説明的文章の読解、評論の読解の指導について学ぶ。中学校・高等学校の国語科教育の理論について学ぶ。 国語教育の理論と実践を学び、学習指導案の作成、模擬授業を通して、実践的基礎力を身につける。学習指導要領に基づき、国語教育の内容、教材研究の方法、指導法、評価の方法を理解する。あわせて教材の分析能力を高め、学習指導案作成の方法を身につける。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	国語科教育法２	国語科教育法IIでは、Ｉの国語教育の基本的全体像とその実践理論を踏まえて、その指導についてより具体的に学んでいく。国語科教育の意義、国語科教育の目標と内容を受けて、指導計画、教材研究、指導の方法と実際、評価の問題等、教師になったとき実際にどうするかという教育実践者としての立場と、言語とは何かという深い言語理論を基にして、教材の作品分析、その指導案づくり、教室空間づくりの力をつけていく。国語教育の理論と実践を学び、学習指導案の作成、模擬授業を通して、実践的基礎力を身につける。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	社会科教育法１	中学社会科について、公民、歴史、地理、経済や憲法などにそくして授業を展開していく方法を習得する。そのため授業案の作成と授業づくりを行う能力を身につけ、受講する学生による模擬授業を行い、参加者による分析と討議を行う。これらをつうじて、授業をみずからの手で点検、更新する方法を学ぶ。 （オムニバス方式　全30回） （532 杉浦正幸／15回）　公民的分野の実践例を中心とした考察 （566 齋藤一晴／15回）　地理、歴史、経済、憲法などの授業方法を中心に。	オムニバス方式
専門教育科目群	教職関係科目	社会科教育法２	歴史、地理を中心に、授業づくりのための方法を具体的に学んでいく。学生がみずから学習指導案を作成できるようにする。また教材研究の方法を習得する。さらに現代社会が抱える問題に向き合い、また学校現場の状況についての理解も深める。	
専門教育科目群	教職関係科目	地理歴史科教育法	現行の学習指導要領に基づき、地理歴史科の目標や教科教育のあり方について講義すると共に、授業の指導案の書き方について、模擬授業をおこないながら検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教職関係科目	公民科教育法	現行の学習指導要領に基づき、公民科の目標や指導方法について講義する。公民の授業の組み立てについて、授業実践記録から学ぶと共に、授業の指導案を自ら作成し、全員で検討する。	
専門教育科目群	教職関係科目	数学科教育法A	教職科目として、数学科教員に必要な、基礎的教養と教育技術について、主として中学校学習指導要領に基づき講義する。具体的には、数学および数学教育の歴史を概観し、現代の数学教育の意義、位置付けについて解説すると同時に、数学教育の目的、内容、方法、カリキュラム等を概観し、指導案の作成、授業展開の方法、評価方法等の指導を行う。教職につかない受講者に対しても、数学および数学教育の社会的重要性を認識し、理解を深めることを目的とする。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	数学科教育法B	教職科目として、数学科教員に必要な、基礎的教養と教育技術について、主として高等学校学習指導要領に基づき講義する。具体的には、数学および数学教育の歴史を概観し、現代の数学教育の意義、位置付けについて解説すると同時に、数学教育の目的、内容、方法、カリキュラム等を概観し、指導案の作成、授業展開の方法、評価方法等の指導を行う。教職につかない受講者に対しても、数学および数学教育の社会的重要性を認識し、理解を深めることを目的とする。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	数学科教育法C	数学科教育法Aに引き続き、数学科教員に必要な、基礎的教養と教育技術について、主として中学校学習指導要領に基づき講義する。具体的には、数学教育の目的、内容、方法、カリキュラム等を概観し、指導案の作成、授業展開の方法、評価方法等について解説すると同時に、授業教材の具体例、授業の実践例を提示することで、教材研究、実践方法の指導を行う。教職につかない受講者に対しても、数学および数学教育の社会的重要性を認識し、理解を深めることを目的とする。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	数学科教育法D	数学科教育法Bに引き続き、数学科教員に必要な、基礎的教養と教育技術について、主として高等学校学習指導要領に基づき講義する。具体的には、数学教育の目的、内容、方法、カリキュラム等を概観し、指導案の作成、授業展開の方法、評価方法等について解説すると同時に、授業教材の具体例、授業の実践例を提示することで、教材研究、実践方法の指導を行う。教職につかない受講者に対しても、数学および数学教育の社会的重要性を認識し、理解を深めることを目的とする。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	理科教育法A	前期中等教育を中心に、理科教育の現実と問題点に配慮しつつ、学習指導における基礎的な理論を把握し、教員として必要とされる資質や技能を身につける。また、理科を学習する生徒たちが興味をもち、わかりやすい理科授業ができるようにする。そのために理科の指導内容を理解し、基礎・基本の充実を図り、教材の精選や思考力を中心とした理科教育法について理解を深める。全１５回の講義で、理科の各学科に共通する内容について、学習指導要領を理解した上で授業計画をたて教材選択を行えるようにし、模擬授業を通じて基本的な指導技術を取得する。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教職関係科目	理科教育法B	後期中等教育を中心に、理科教育の現実と問題点に配慮しつつ、学習指導における基礎的な理論を把握し、教員として必要とされる資質や技能を身につける。また、理科を学習する生徒たちが興味をもち、わかりやすい理科授業ができるようにする。そのために理科の指導内容を理解し、基礎・基本の充実を図り、教材の精選や思考力を中心とした理科教育法について理解を深める。全１５回の講義で、理科の各学科に共通する内容について、学習指導要領を理解した上で授業計画をたて教材選択を行えるようにし、模擬授業を通じて基本的な指導技術を取得する。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	理科教育法C	専門科目を学習し、教職科目を履修したからといって、すぐに中等教育の理科教師が勤まるわけではない。そこで理科教育の真の姿をきわめるため、さらに基礎学力の充実を図り、理科に興味を持つ人材の資質向上を目指す。また、教職につかなくても、社会の中で科学的な志向を説き、啓蒙できるような人材の育成をも意識する。前半は生物又は地学、後半は物理又は化学を選択する。中学校における学習指導要領による授業の計画と展開、学習指導案の作成等を中心とし、高等学校における授業についても解説する。 オムニバス方式（全15回） ・前半 （533 木部貞善／８回） 中学の理科における生物分野の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 （535 浅野俊雄／８回） 中学の理科における地学分野の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 ・後半 （534 土屋博／７回） 中学の理科における物理分野の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 （536 松原静郎／７回） 中学の理科における化学分野の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。	隔年、オムニバス方式
専門教育科目群	教職関係科目	理科教育法D	専門科目を学習し、教職科目を履修したからといって、すぐに中等教育の理科教師が勤まるわけではない。そこで理科教育の真の姿をきわめるため、さらに基礎学力の充実を図り、理科に興味を持つ人材の資質向上を目指す。また、教職につかなくても、社会の中で科学的な志向を説き、啓蒙できるような人材の育成をも意識する。前半は生物又は地学、後半は物理又は化学を選択する。高等学校における学習指導要領による授業の計画と展開、学習指導案の作成等を中心とし、中学校における授業についても解説する。 オムニバス方式（全15回） ・前半 （533 木部貞善／８回） 高校の生物の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 （535 浅野俊雄／８回） 高校の地学の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 ・後半 （534 土屋博／７回） 高校の物理の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。 （536 松原静郎／７回） 高校の化学の授業において、生徒たちが興味を持つようなわかりやすい指導技術を中心に解説する。	隔年、オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教職関係科目	情報科教育法Ⅰ	高等学校における普通教科「情報」および専門教科「情報」の基本理念や必要性などを理解し、（中学校での情報とのつながりを踏まえた上で）その教育目標と教育内容を情報教科のカリキュラムに位置づけて把握する。その上で、倫理教育、著作権、マルチメディア表現など情報科の教員として指導に必要な基礎的教養や、生徒の個性を伸ばす為に必要な要素について学習する。また、「情報Ａ」「情報Ｂ」「情報Ｃ」それぞれにおける『情報活用の実践力』の中味を把握させる。	
専門教育科目群	教職関係科目	情報科教育法Ⅱ	情報科教育法Ⅰに引き続き、高等学校における普通教科「情報」および専門教科「情報」の教員として備えておくべき指導方法や指導技術の修得を目的とする。具体的には、授業を行う上で、必要となる授業計画の立案とその実施・評価に関する過程を、実際に模擬授業と討議を通して経験し、授業の実践能力および科目の目標に沿って生徒の主体的な学習を促す指導能力を養う。また、生徒が『情報活用の実践力』を身に付ける上で発生する困難を解決できるだけのソフトウェアとハードウェアを含めた基礎技術を習得する。	
専門教育科目群	教職関係科目	工業科教育法	高等学校における工業の教科を教授する上で必要となる基礎知識及び教育方法のあり方について講義する。工業教育の歴史を知り、工業科教育のあり方や諸問題を通して現在の高等学校工業教育に至る背景と中等工業教育の意義を知る。また、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに将来の工業技術者にとって必要な知識と技術の教授方法や工業の社会発展を図る創造的な能力と実践的な態度の育成について研究、学習を行う。さらに教育者として必要な資質、能力を実践的に身につける。	
専門教育科目群	教職関係科目	英語科教育法1	本講座では、英語教員になるために必要な英語教育学についての知識、英語教員として必要な指導技術を習得する。前期は理論編で、主として講義形式で授業を行うが、後期は実践編で、模擬授業、ビデオ視聴による授業研究を演習形式で行う。本講座では、特に： １）中学校・高等学校の英語教員として必要な英語基礎力を養う ２）中学校・高等学校の英語教員に必要な英語教育に関する知識を養う ３）中学校・高等学校の英語教員として身につけておくべき基本的な指導技術を養うことを目標とする。（奇数年度開講）	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	英語科教育法２	本講座では、英語教員になるために必要な英語教育学についての知識、英語教員として必要な指導技術を習得する。前期は理論編で、主として講義形式で授業を行うが、後期は実践編で、模擬授業、ビデオ視聴による授業研究を演習形式で行う。本講座では、特に： １）中学校・高等学校の英語教員として必要な英語基礎力を養う ２）中学校・高等学校の英語教員に必要な英語教育に関する知識を養う ３）中学校・高等学校の英語教員として身につけておくべき基本的な指導技術を養うことを目標とする。（偶数年度開講）	隔年
~~専門教育科目群~~	~~教職関係科目~~	~~独語科教育法１~~	~~外国語としてのドイツ語を教える立場から、音声、文法、語彙の習得をどのようにしたら効果的に行えるかを基礎的な外国語教授法の文献を読んで考察し、問題点を検討する。平行して実践的な模擬授業を行い、授業の目的とその達成度合いをその都度評価する。模擬授業にあたっては，参加学生が内容を採点し反省材料を集めることで、より優れた授業を行うにはどうしたらよいかを考える。また、英語の知識をどのように利用できるか、文法をいかに意識させずに習得できるかを考えることも課題となる。~~	~~隔年~~

届出後に削除（これ以外の変更は設置計画履行状況等調査報告書に記載）

届出後に削除（これ以外の変更は設置計画履行状況等調査報告書に記載）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文社会学部　人間社会学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
~~専門教育科目群~~	~~教職関係科目~~	~~独語科教育法２~~	~~外国語としてのドイツ語を教える立場から、音声、文法、語彙の習得をどのようにしたら効果的に行えるかを基礎的な外国語教授法の文献を読んで考察し、問題点を検討する。平行して実践的な模擬授業を行い、授業の目的とその達成度合いをその都度評価する。模擬授業にあたっては，参加学生が内容を採点し反省材料を集めることで、より優れた授業を行うにはどうしたらよいかを考える。また、英語の知識をどのように利用できるか、文法をいかに意識させずに習得できるかを考えることも課題となる。~~	~~隔年~~
~~専門教育科目群~~	~~教職関係科目~~	~~仏語科教育法１~~	~~フランス語の初級文法、初級講読を主な教授対象に設定して、教授法を習得する。授業は模擬授業を中心に行い、試行錯誤を重ねながらより良い教授法を追求する。発音矯正、ディクテなどにも力を入れる。一見自明な事象の意義も必ずしもそうとは限らないということに気づくところまで行き、そこにおいて反省を加えた教授法を模索することを目指す。~~	~~隔年~~
~~専門教育科目群~~	~~教職関係科目~~	~~仏語科教育法２~~	~~フランス語の初級文法、初級講読を主な教授対象に設定して、教授法を習得する。授業は模擬授業を中心に行い、試行錯誤を重ねながらより良い教授法を追求する。発音矯正、ディクテなどにも力を入れる。一見自明な事象の意義も必ずしもそうとは限らないということに気づくところまで行き、そこにおいて反省を加えた教授法を模索することを目指す。~~	~~隔年~~
専門教育科目群	教職関係科目	中国語科教育法１	第二言語として中国語を学習するとき、何をどのように学ばせたらよいか、教材内容と教学方法の両面にわたって講義する。具体的には、近代以降の日中両国における中国語教科書（発音、読本、文法）の歴史を振り返って現状と課題を整理するとともに、近代中国語文法研究の草創期から現在までの変遷を辿り、その研究成果をふまえた文法教授法についても紹介する。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	中国語科教育法２	１で学んだ知識をもとに、実践的な教育法追究に重点を置き、現在広く使われている日本で出版された中国語教科書から特定のトピックを選んで、受講生に授業案を作成させて模擬授業を実施し、その内容を相互に検討・討論することによってよりわかりやすい授業方法を探っていく。特定のトピックについて異なった説明をしている中国語教科書が存在する現状をふまえて、それらの比較検討も行う。	隔年
専門教育科目群	教職関係科目	教育実習（中学校）	第４学年で実施する１年前の第３学年の春にオリエンテーションを行い、１０月に事前指導を行う。第４学年には５月から１０月にかけて３週間の実習を行い、実習が終了する１０月に事後指導を行う。事前指導は全教員があたり、教科別に分けて、教科教育法の補足などを丁寧に行いながら、教育実習に向けての細かい指導を行う。また、事後指導も全教員であたり、各実習生の経験を交流すると同時にそれぞれの実習を対象化して多面的に評価する機会を設ける。	共同
専門教育科目群	教職関係科目	教育実習（高等学校）	第４学年で実施する１年前の第３学年の春にオリエンテーションを行い、１０月に事前指導を行う。第4学年には５月から１０月にかけて２週間の実習を行い、実習が終了する１０月に事後指導を行う。事前指導は全教員があたり、教科別に分けて、教科教育法の補足などを丁寧に行いながら、教育実習に向けての細かい指導を行う。また、事後指導も全教員であたり、各実習生の経験を交流すると同時にそれぞれの実習を対象化して多面的に評価する機会を設ける。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （人文社会学部　人間社会学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	教職関係科目	教職実践演習	教員として求められる資質や能力を、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科等の指導力に関する事項として捉え、グループ討議や役割演技、事例研究及び模擬授業等を取り入れた演習を行うと共に、学校参観や現場体験等を通して教師としての資質・能力の向上を図る。また、第１学年から履修してきた教職課程や第４学年前期の教育実習等の修学状況を振り返り、教師になるための自己の課題について自覚させ、教師になろうとする意欲を高める。 オムニバス方式(全15回) (572 宮下与兵衛/9回)生徒指導・学級経営・保護者対応・学外実習 (563 神林桂一、565 馬場千秋、564 石出みどり、519 河合美喜夫/6回) 教科別指導演習	オムニバス方式、一部共同